

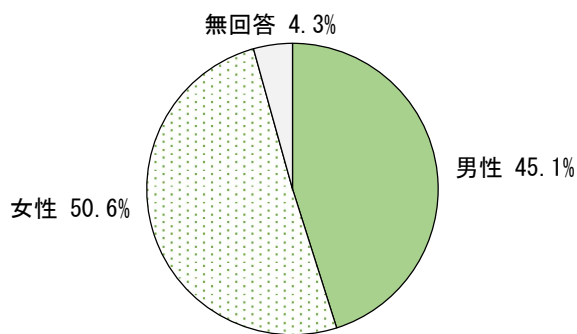
# I 一般市民調査結果

## 1. 基本属性

### (1) 性別

F 1 性別 (○は1つだけ)

性別

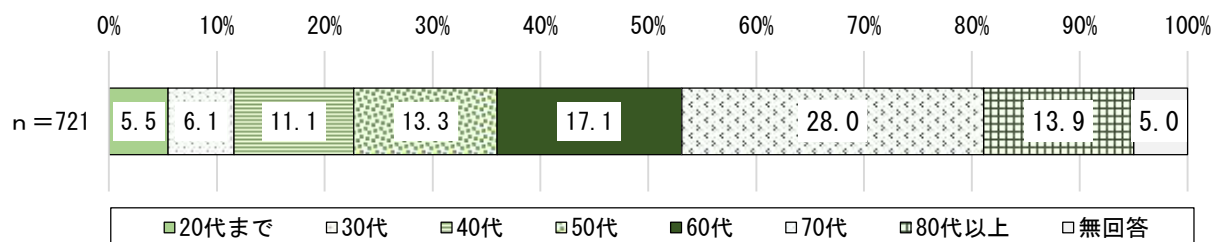


n = 721

### (2) 年齢

F 2 年齢

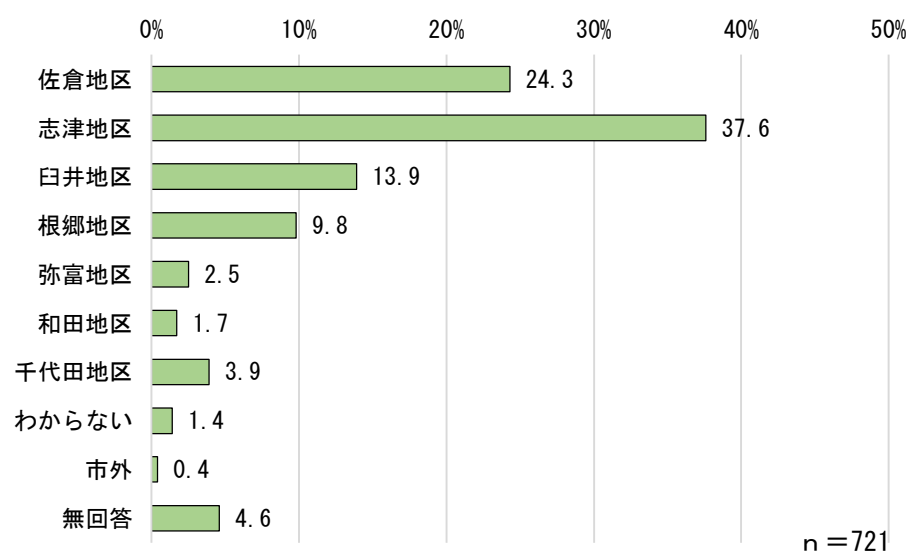
年齢



## (3) 居住地域

F 3 お住まいの地区 (○は1つだけ)

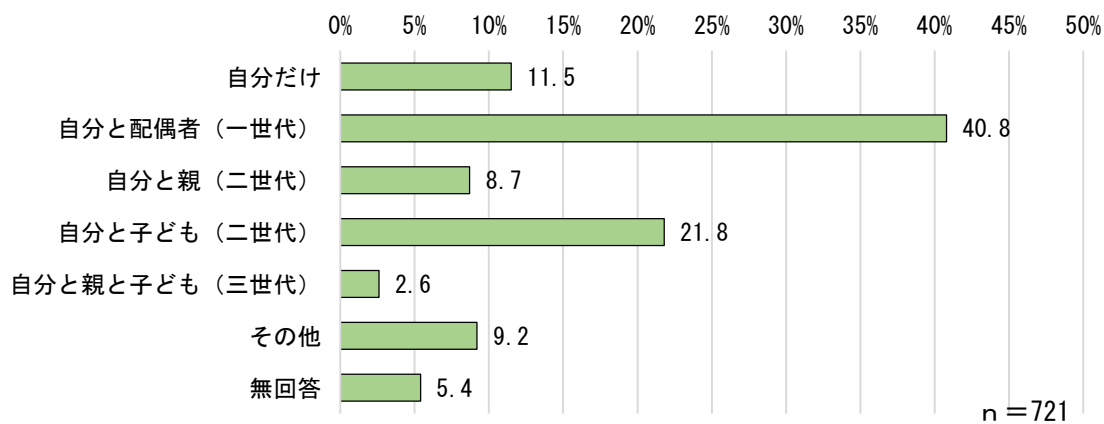
## 居住地域



## (4) 同居者

F 4 一緒に住んでいる家族 (○は1つだけ)

## 同居者/年齢

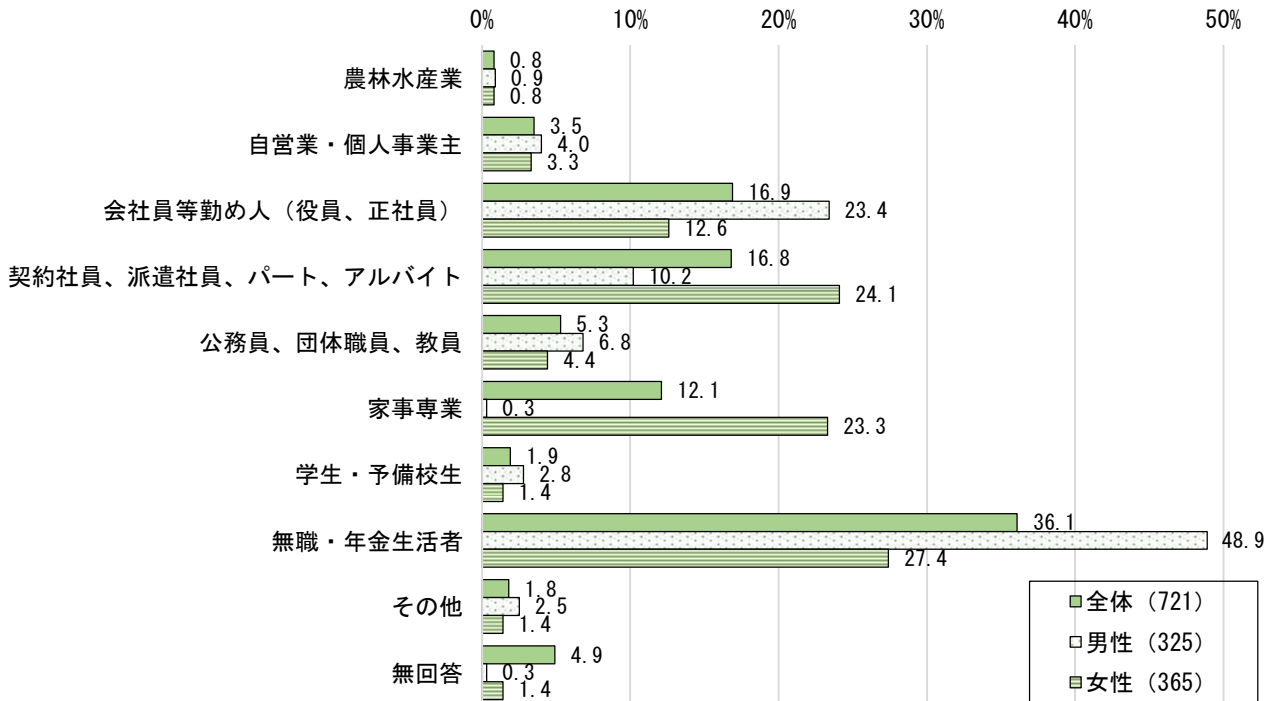


第2章 調査結果の詳細

(5) 職業

F 5 職業 (○は1つだけ)

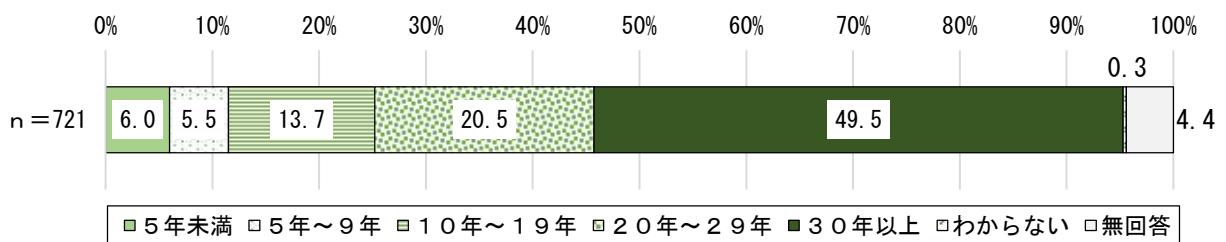
職業



(6) 居住年数

F 6 佐倉市の居住期間 (○は1つだけ)

居住年数



## 2. 栄養・食生活

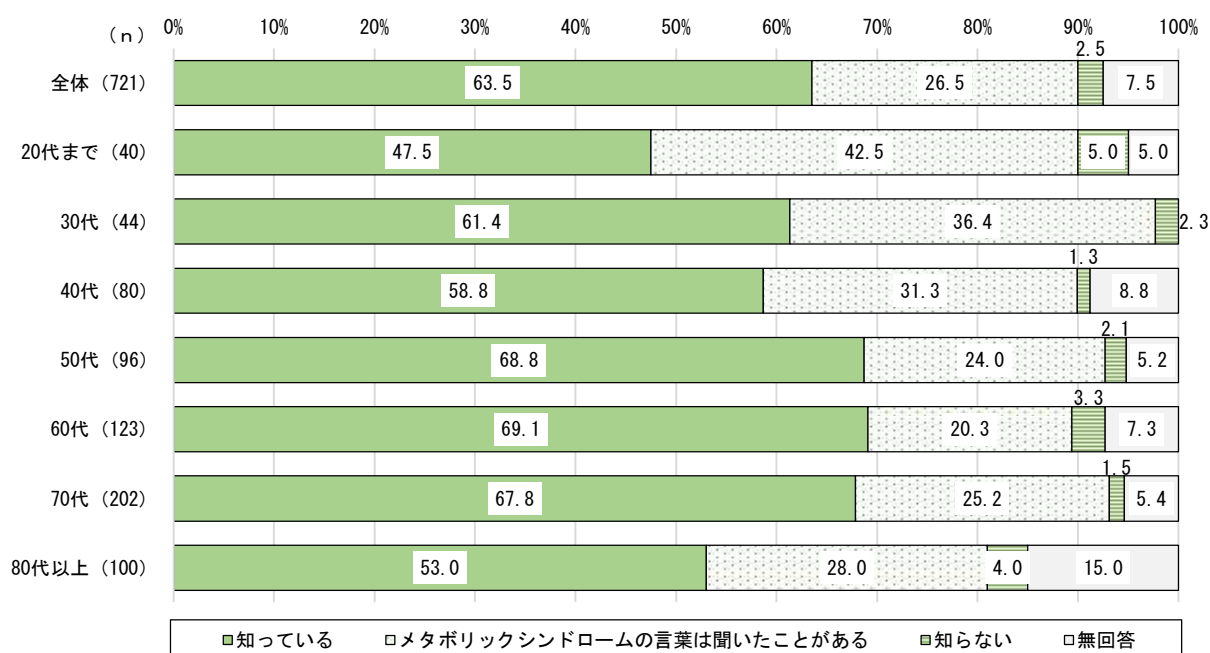
### (1) メタボリックシンドローム

問1 メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満に高血圧・脂質異常・高血糖といった危険因子が加わった状態をいいます。このことを知っていましたか？（○は1つだけ）

メタボリックシンドロームは、「知っている」が63.5%と最も高く、次いで「メタボリックシンドロームの言葉は聞いたことがある」が26.5%、「知らない」が2.5%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>を除く全ての項目で「知っている」が過半数となっています。<20代まで>は「メタボリックシンドロームの言葉は聞いたことがある」が42.5%となっています。

#### メタボリックシンドローム／年齢



(2) BMI (身長、体重)

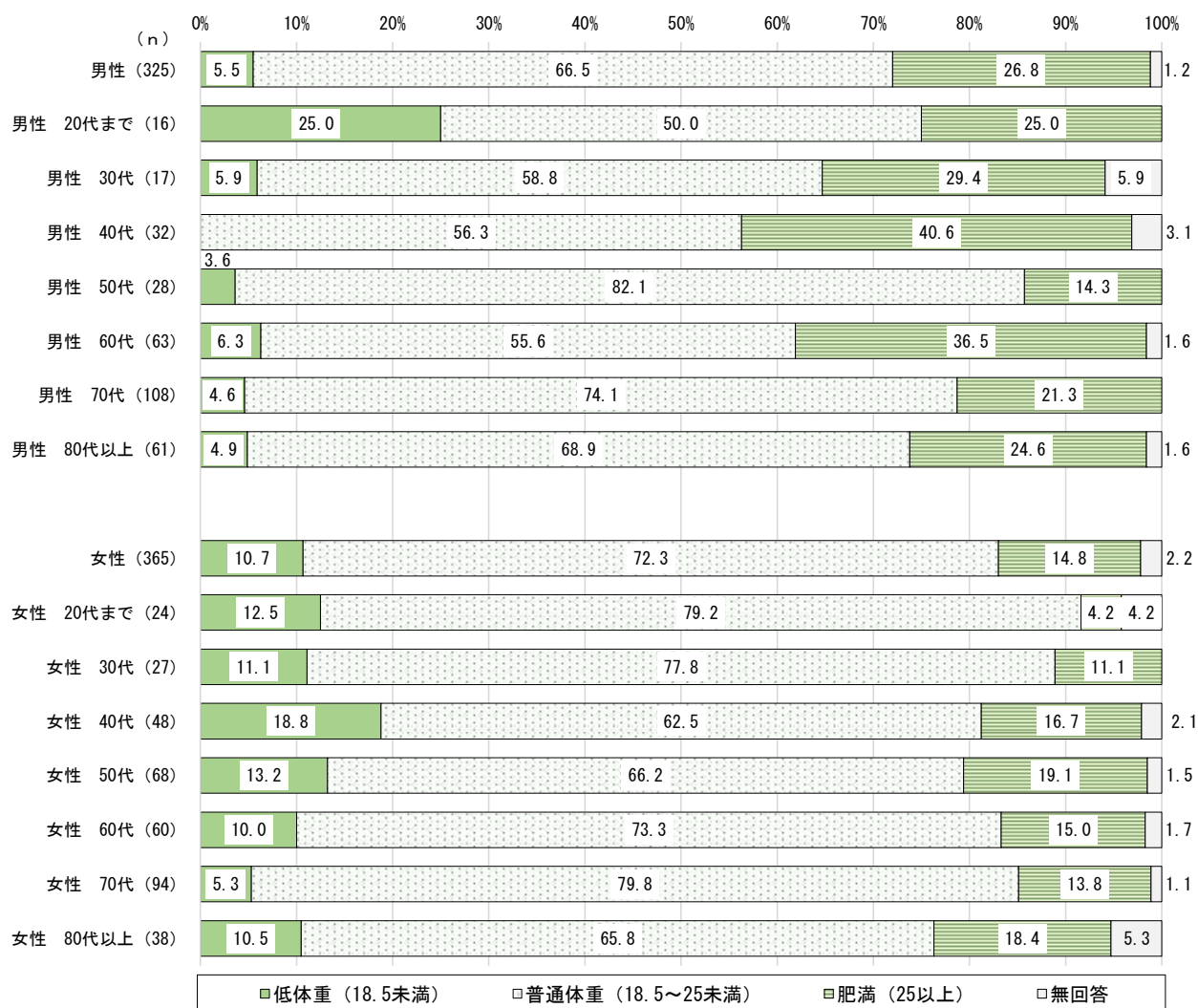
問2 あなたのおおよその身長、体重を整数で教えてください。  
 (小数点以下は四捨五入してください)

数値で記入された身長・体重から、BMIを算出しました。

性別にみると、＜男性＞は「肥満」が26.8%と、＜女性＞の14.8%より多くなっています。

性・年齢別でみると、＜男性 20代まで＞は「低体重」、「肥満」がともに25.0%となっています。＜男性 40代＞は「肥満」が4割以上となっています。

**BMI / 性別、性・年齢**



(3) 食生活に関するふだんのころがけ

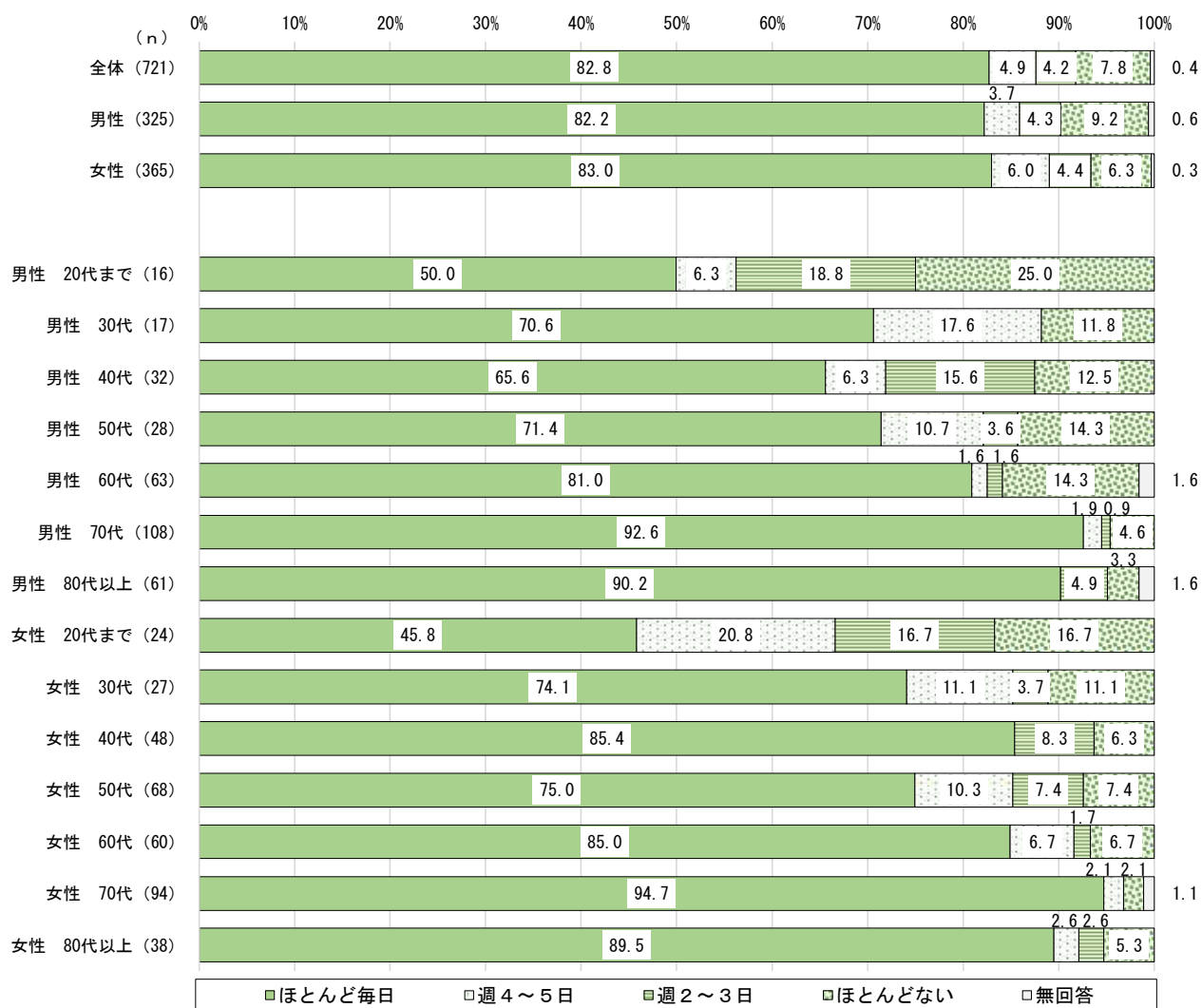
問3 あなたはふだん、次のそれぞれのことをどのくらいしていますか。  
(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

朝食を食べる

朝食を食べるは、「ほとんど毎日」が82.8%と最も高く、次いで「ほとんどない」が7.8%、「週4～5日」が4.9%となっています。

性・年齢別にみると、<男性 70代>と<男性 80代以上>、<女性 70代>は「ほとんど毎日」が9割以上となっています。<男性 20代まで>は「ほとんどない」が25.0%となっています。

朝食を食べる／性別、性・年齢



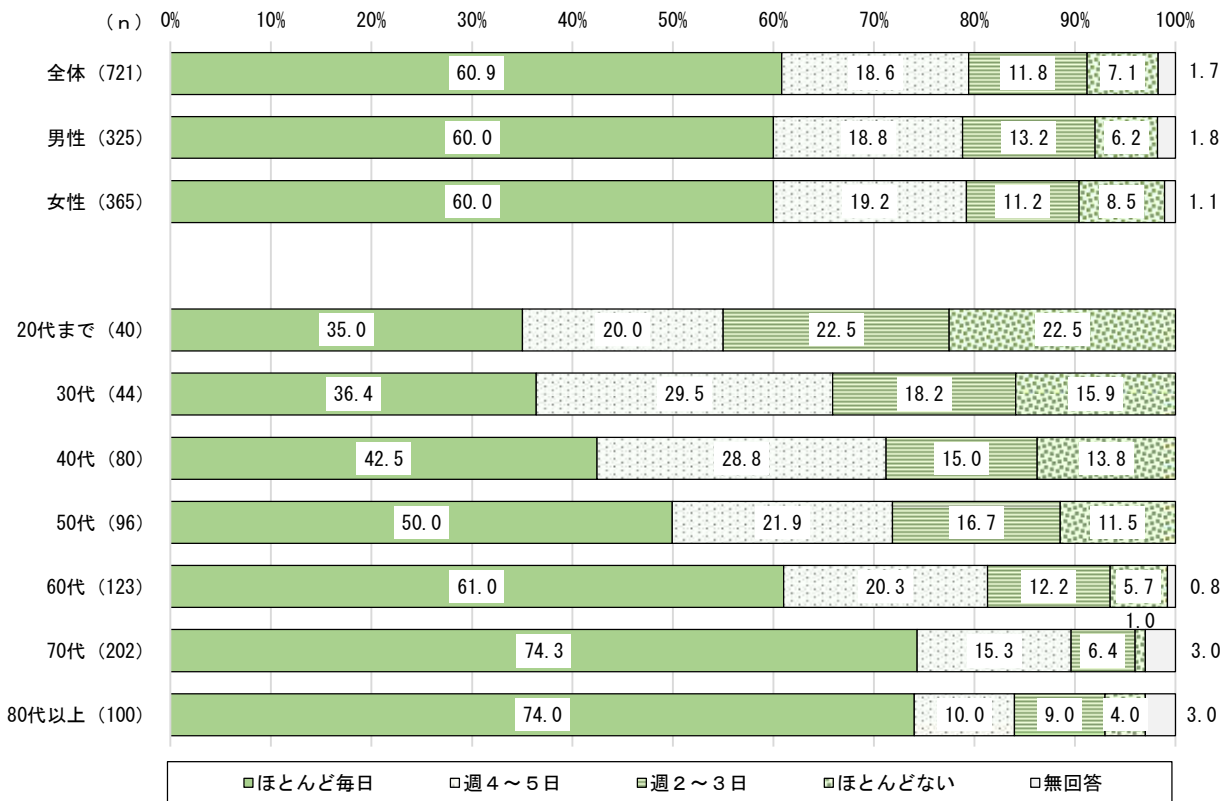
**主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている**

主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べているは、「ほとんど毎日」が60.9%と最も高く、次いで「週4～5日」が18.6%、「週2～3日」が11.8%となっています。

性別にみると、＜女性＞と＜男性＞とも「ほとんど毎日」が6割となっています。

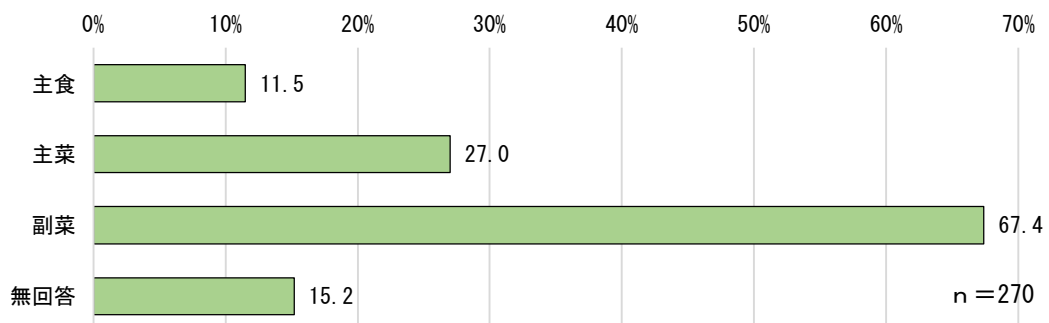
年齢別にみると、＜70代＞と＜80代以上＞は「ほとんど毎日」が7割以上となっています。また＜20代まで＞は「週2～3日」「ほとんどない」がそれぞれ2割以上となっています。

**主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている／性別、年齢**



**付問3-1 (問3の「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている」に、2～4で回答した人のみ) 主食・主菜・副菜のうち組み合わせて食べられないのはどれですか。当てはまる番号をすべて選んでください。(○はいくつでも)**

主食・主菜・副菜のうち組み合わせて食べられないのは、「副菜」が67.4%と最も高く、次いで「主菜」が27.0%、「主食」が11.5%となっています。

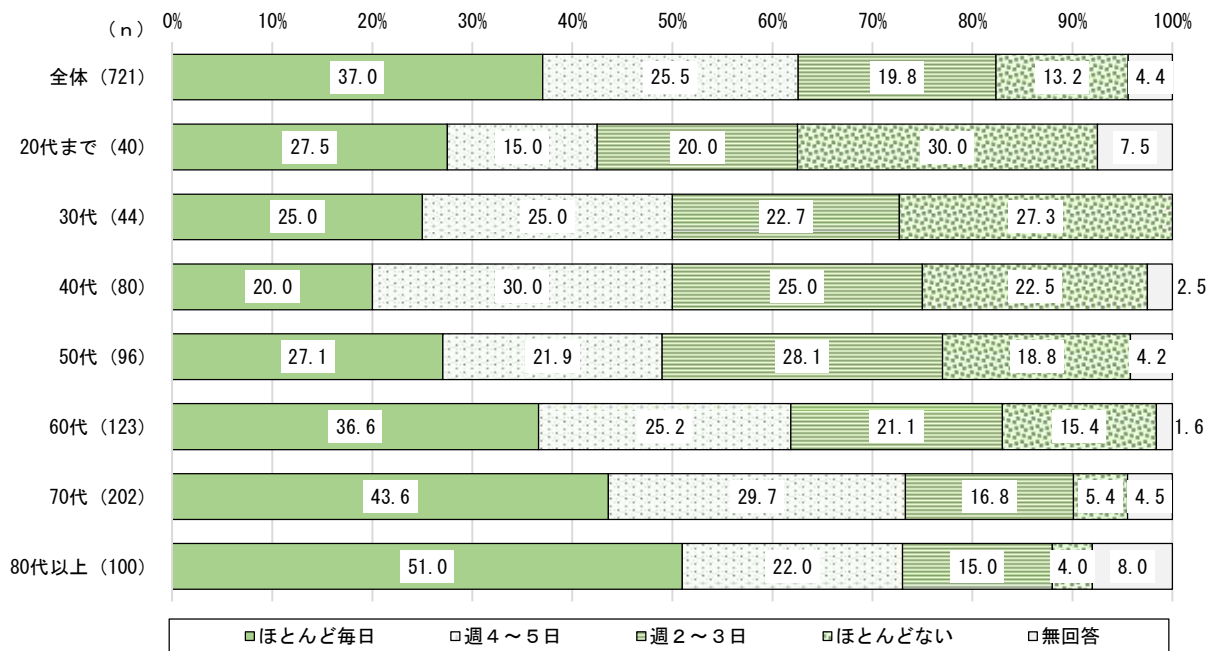


**毎食（3食）、野菜料理を食べる**

毎食（3食）、野菜料理を食べるは、「ほとんど毎日」が37.0%と最も高く、次いで「週4～5日」が25.5%、「週2～3日」が19.8%となっています。

年齢別にみると、＜70代＞と＜80代以上＞は「ほとんど毎日」が4割以上となっています。＜20代＞は「ほとんどない」が3割、＜30代＞と＜40代＞が2割以上となっています。

**毎食（3食）、野菜料理を食べる／年齢**





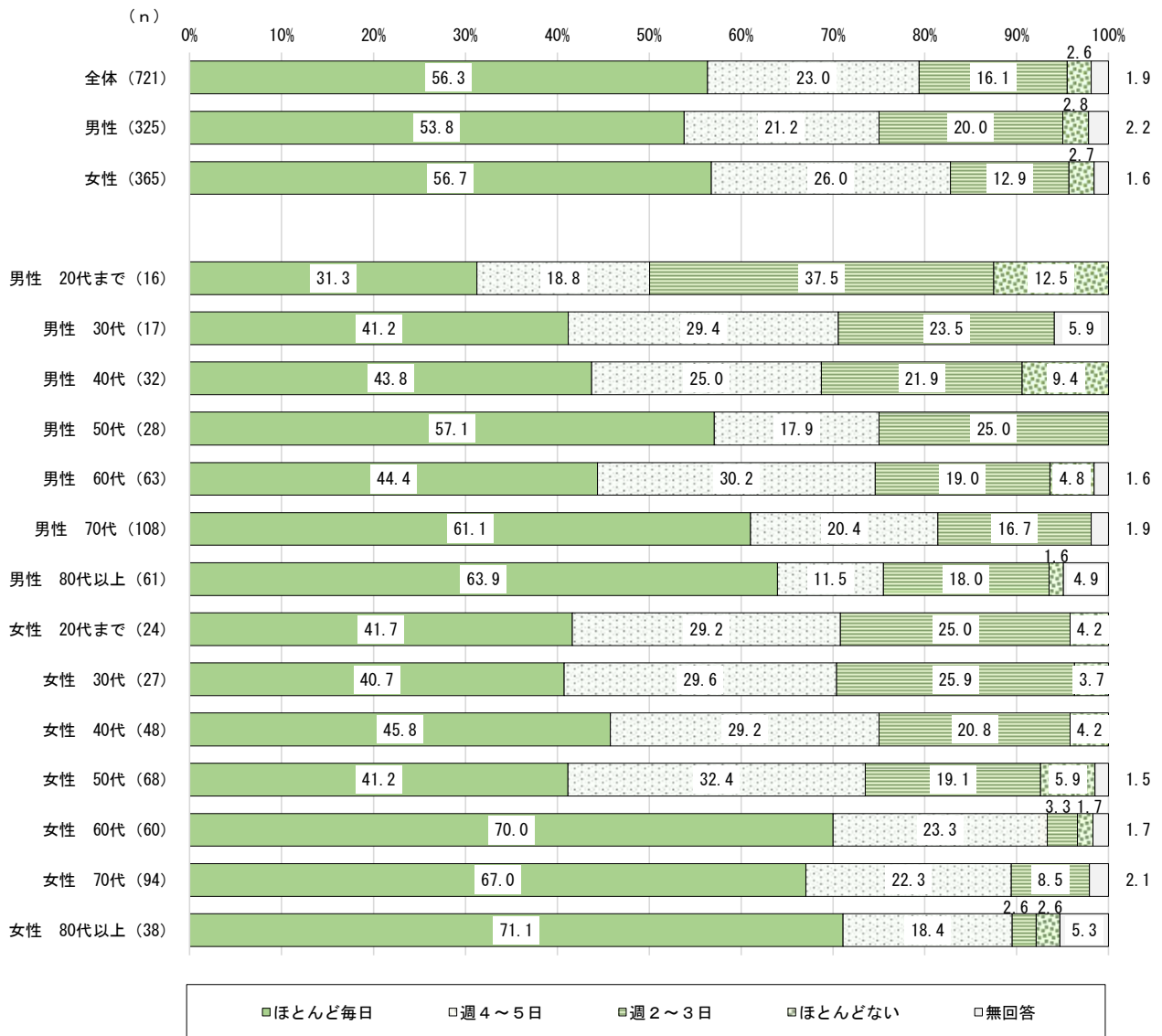
第2章 調査結果の詳細

カルシウムを多く含む食品(乳製品・豆類・緑黄色野菜など)を食べている

カルシウムを多く含む食品(乳製品・豆類・緑黄色野菜など)を食べているは、「ほとんど毎日」が56.3%と最も高く、次いで「週4～5日」が23.0%、「週2～3日」が16.1%となっています。

性・年齢別にみると、＜男性 70代＞と＜男性 80代以上＞は「ほとんど毎日」が6割以上となっており、＜女性 60代＞と＜女性 80代以上＞は「ほとんど毎日」が7割以上となっています。

カルシウムを多く含む食品(乳製品・豆類・緑黄色野菜など)を食べている／性別、性・年齢別

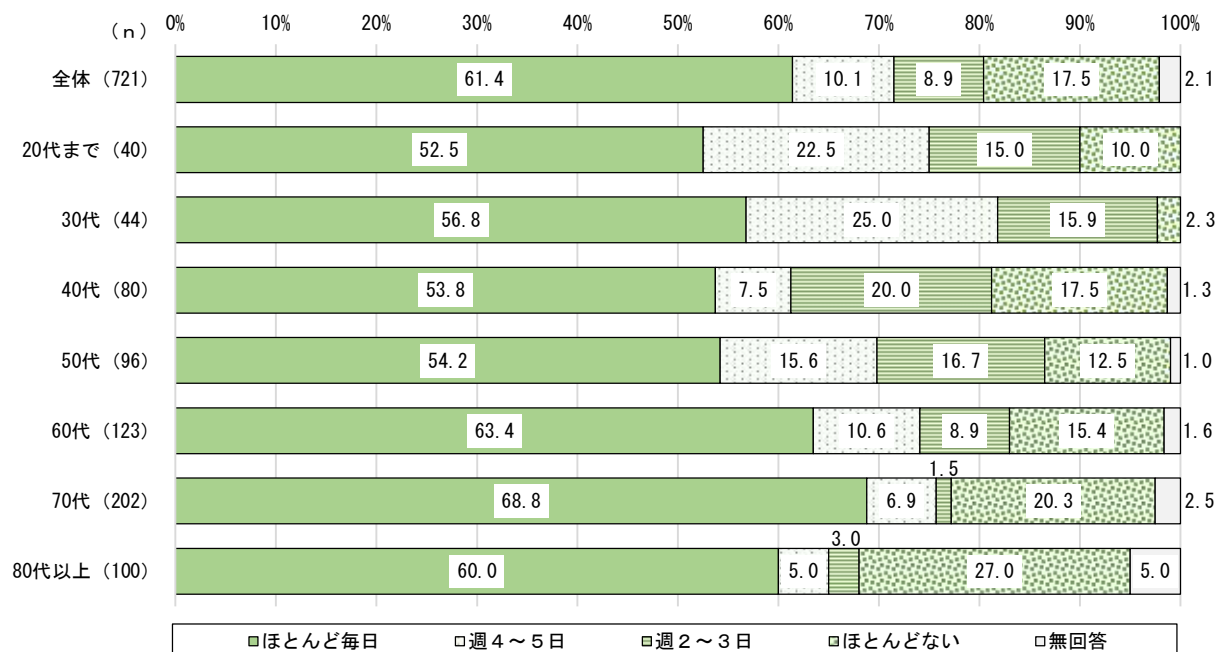


夜遅い時間の食事や飲酒をひかえる

夜遅い時間の食事や飲酒をひかえるは、「ほとんど毎日」が61.4%と最も高く、次いで「ほとんどない」が17.5%、「週4～5日」が10.1%となっています。

年齢別にみると、<60代>と<70代>、<80代以上>は「ほとんど毎日」が6割以上、それ以外の年齢も5割以上となっています。<30代>は「ほとんどない」が2.3%と他よりも低くなっています。

夜遅い時間の食事や飲酒をひかえる／年齢



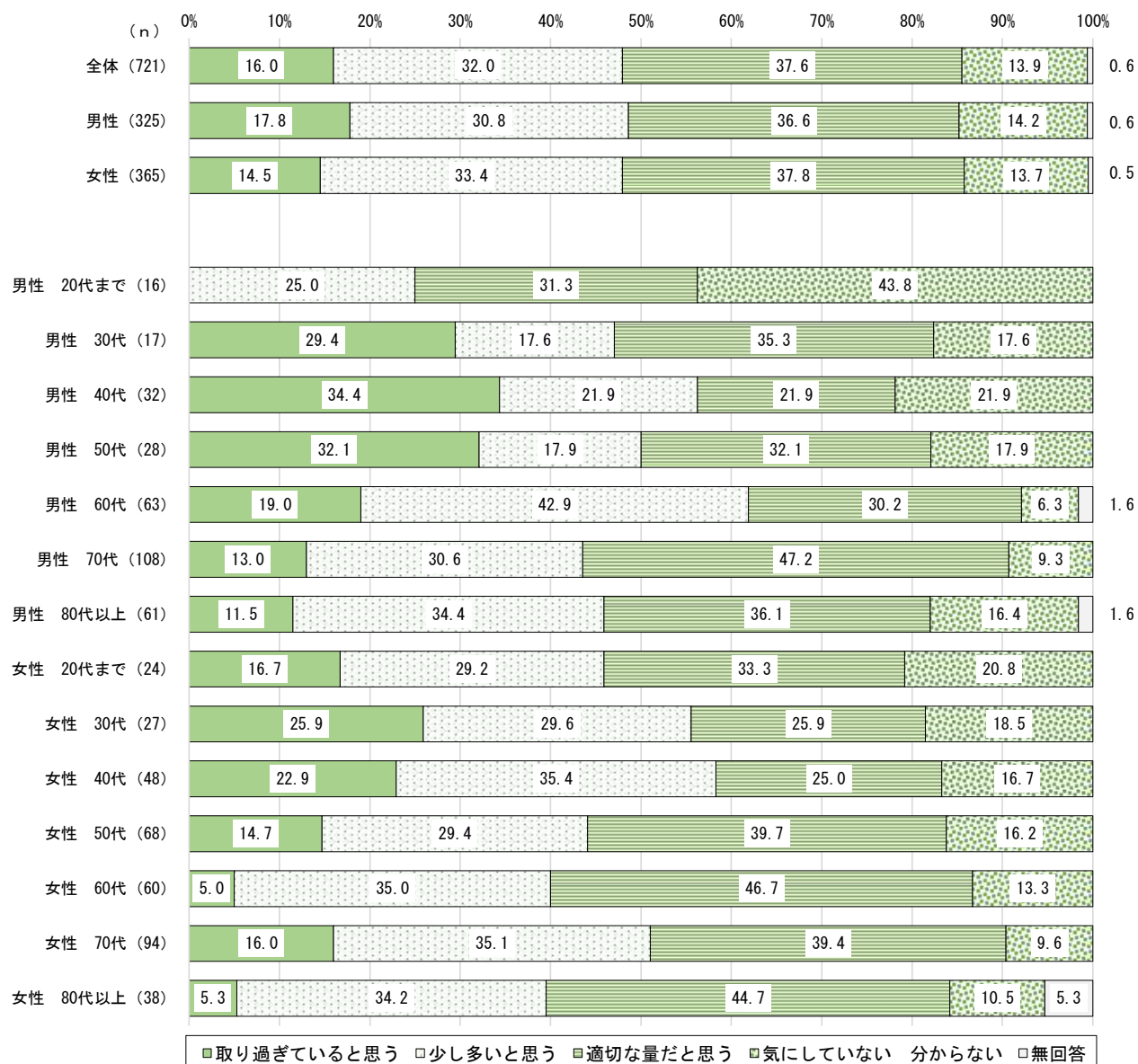
問4 あなたの食塩の摂取状況についてどのように思いますか。「日本人の食事摂取基準2020年版」で、食塩の目標量は、1日あたり男性7.5g未満・女性6.5g未満です。(〇は1つだけ)

塩分の摂取状況は、「適切な量だと思う」が37.6%と最も高く、次いで「少し多いと思う」が32.0%、「取り過ぎていると思う」が16.0%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「取り過ぎていると思う」が17.8%と、＜女性＞の14.5%より若干多くなっています。

性・年齢別にみると、＜女性 60代＞と＜女性 80代以上＞は「取り過ぎていると思う」が1割以下となっています。＜男性 70代＞と＜女性 60代＞、＜女性 80代以上＞は「適切な量だと思う」が4割以上となっています。

### 塩分の摂取状況／性別、性・年齢



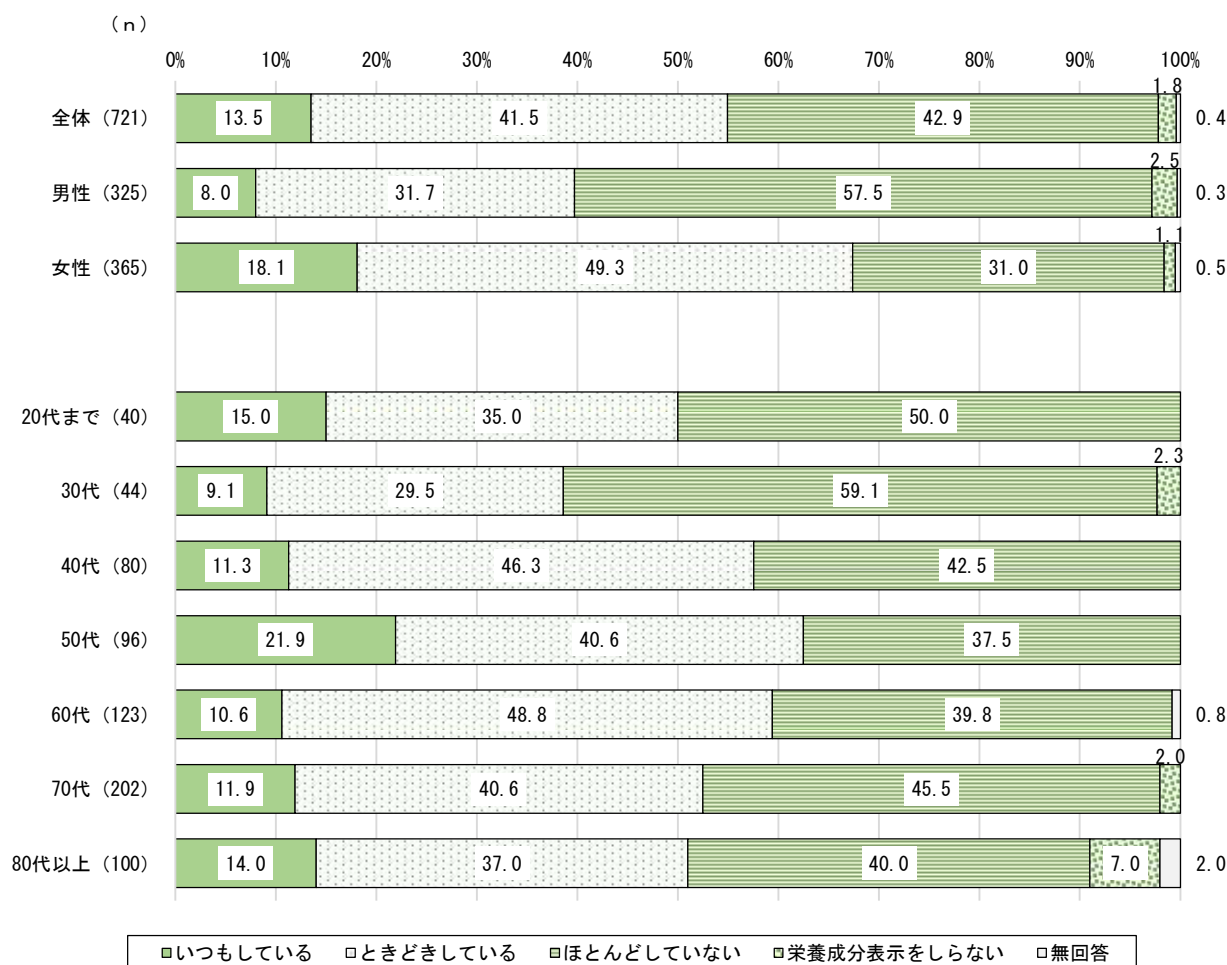
問5 あなたはふだん、外食する時や食品を購入するとき、栄養成分表示を参考にしますか。  
(○は1つだけ)

外食する時や食品を購入するとき、栄養成分表示を参考にしているかは、「ほとんどしていない」が42.9%と最も高く、次いで「ときどきしている」が41.5%、「いつもしている」が13.5%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「ほとんどしていない」が57.5%、＜女性＞は「ときどきしている」が49.3%となっています。

年齢別にみると、＜30代＞は「ほとんどしていない」が59.1%と他よりも多く、＜40代＞、＜50代＞、＜60代＞、＜70代＞は「ときどきしている」が4割以上となっています。

食品の栄養成分表示／性別、年齢



### 3. 身体活動・運動

#### (1) 身体活動・運動のこころがけ

問6 日頃から日常生活の中で、健康の維持・増進のため、意識的に身体を動かすなどの運動をしていますか。(散歩、階段を使う、自転車通勤、掃除機をかけるなどの、合計10分以上の身体活動を含みます。)(○は1つだけ)

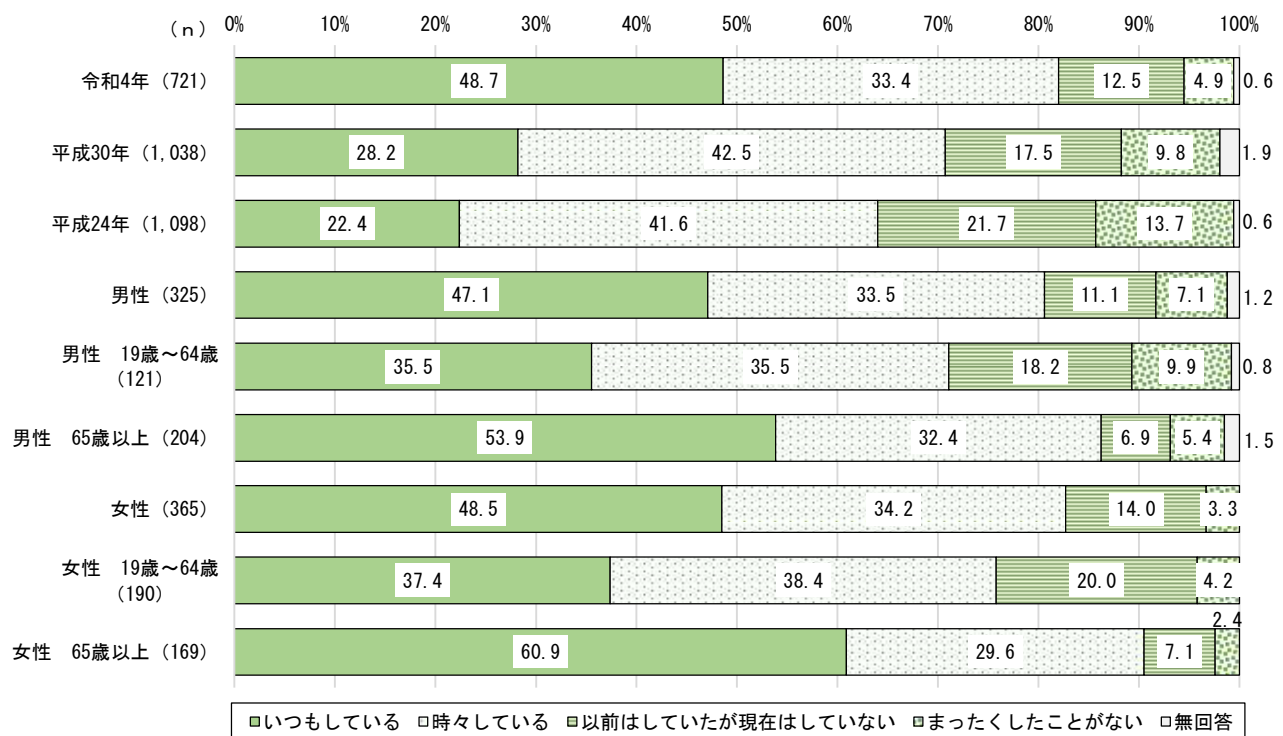
身体活動・運動のこころがけは、「いつもしている」が48.7%と最も高く、次いで「時々している」が33.4%、「以前はしていたが現在はしていない」が12.5%となっています。

平成30年の調査結果と比較すると、「いつもしている」が20.5%増加、「まったくしたことがない」が4.9%減少しています。

性別にみると、＜男性＞は「まったくしたことがない」が7.1%と、＜女性＞の3.3%より若干多くなっています。

性・年齢別にみると、＜女性 65歳以上＞は「いつもしている」が60.9%、＜男性 65歳以上＞でも53.9%となっています。

身体活動・運動のこころがけ／前回、性別、性・年齢



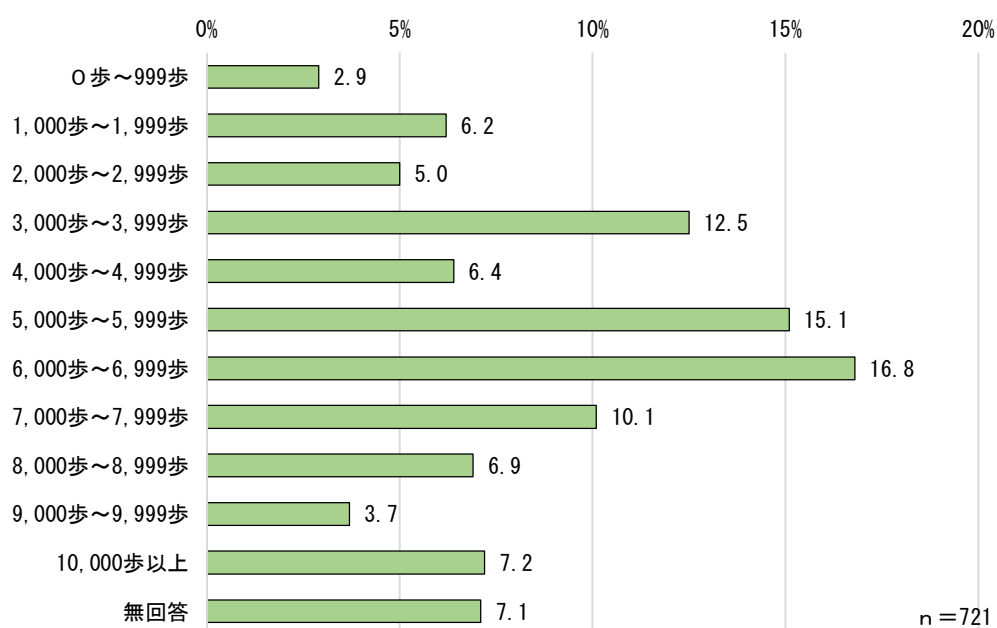
(2) 運動の実践状況

問7 日常生活において、1日、およそ何歩くらい歩いていますか。(目安として、60分で6,000歩、70分で7,000歩、90分で9,000歩くらいになります。)

1日の徒歩数については、「6,000歩～6,999歩」が16.8%と最も高く、次いで「5,000歩～5,999歩」が15.1%、「3,000歩～3,999歩」が12.5%となっています。

性・年齢別にみると、＜男性 19～64歳＞は「10,000歩以上」が1割以上となっており、＜男性 65歳以上＞は「6,000歩～6,999歩」が17.6%と最も多くなっています。＜女性 19～64歳＞は「6,000歩～6,999歩」が17.9%と最も多く、＜女性 65歳以上＞は「3,000歩～3,999歩」が21.3%と最も多くなっています。

1日の徒歩数／性・年齢



(n)	0歩 ～ 999歩	1,000歩 ～ 1,999歩	2,000歩 ～ 2,999歩	3,000歩 ～ 3,999歩	4,000歩 ～ 4,999歩	5,000歩 ～ 5,999歩	6,000歩 ～ 6,999歩	7,000歩 ～ 7,999歩	8,000歩 ～ 8,999歩	9,000歩 ～ 9,999歩	10,000歩 以上	無回答
全体(721)	2.9	6.2	5.0	12.5	6.4	15.1	16.8	10.1	6.9	3.7	7.2	7.1
男性 19歳～64歳 (121)	3.3	7.4	3.3	8.3	1.7	18.2	18.2	9.1	6.6	5.0	13.2	5.8
男性 65歳以上 (204)	3.4	8.8	7.4	12.3	6.9	11.8	17.6	13.7	6.4	0.5	4.4	6.9
女性 19歳～64歳 (190)	1.6	6.8	5.3	9.5	6.3	14.7	17.9	6.8	10.5	7.4	7.4	5.8
女性 65歳以上 (169)	3.6	3.0	3.6	21.3	9.5	17.2	13.6	9.5	4.1	1.8	3.6	9.5

問8 「息がはずむ程度」の運動を「30分週2回以上」または、「週1回1時間以上」行なっていますか。(〇は1つだけ)

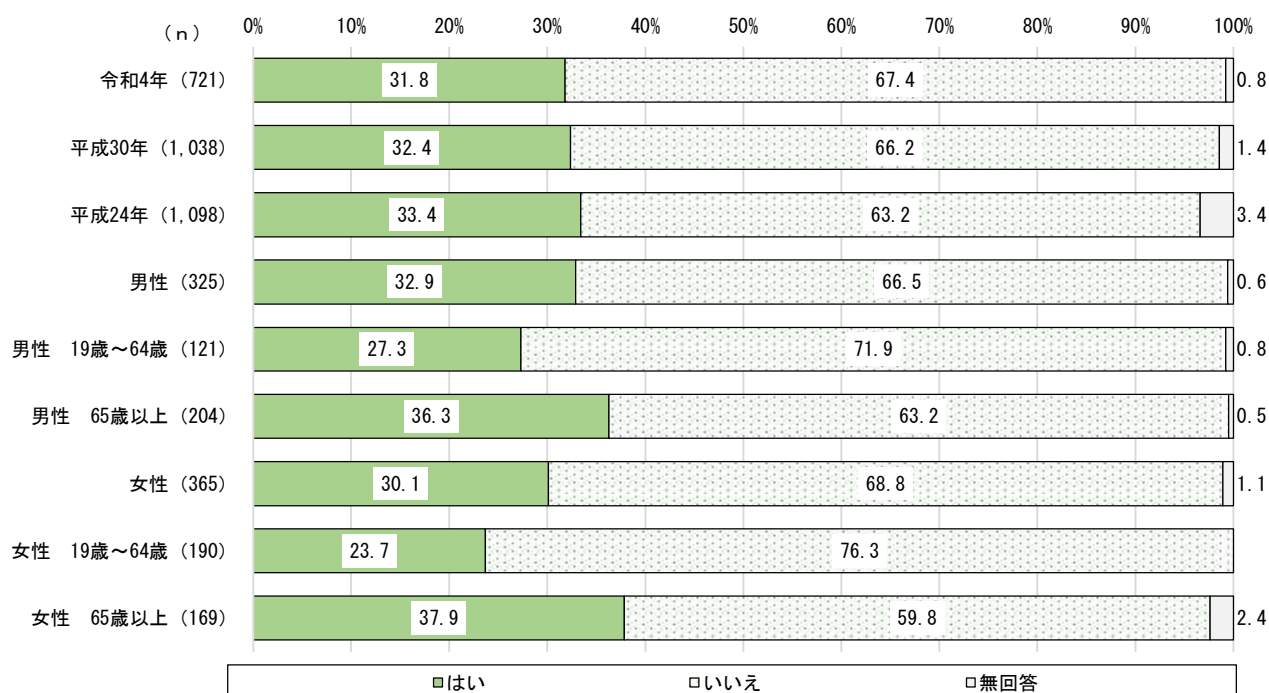
運動の実践状況は、「いいえ」が67.4%と高く、「はい」が31.8%となっています。

平成30年の調査結果と比較すると、「はい」が0.6%減少、「いいえ」が1.2%増加しました。

性別にみると、＜男性＞は「はい」が32.9%と、＜女性＞の30.1%より若干大きくなっています。

性・年齢別にみると、＜男性 19歳～64歳＞と＜女性 19歳～64歳＞は「いいえ」が7割以上となっています。

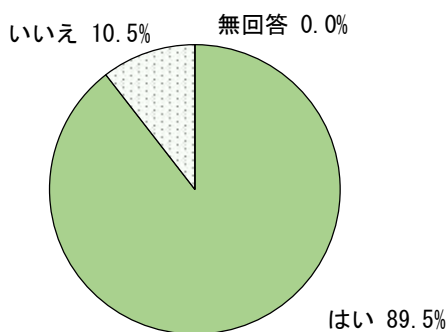
**運動の実践状況／前回、性別、性・年齢**



付問 8-1 (問 8 で「はい」と回答した人のみ)

1年以上運動を継続していますか。(〇は1つだけ)

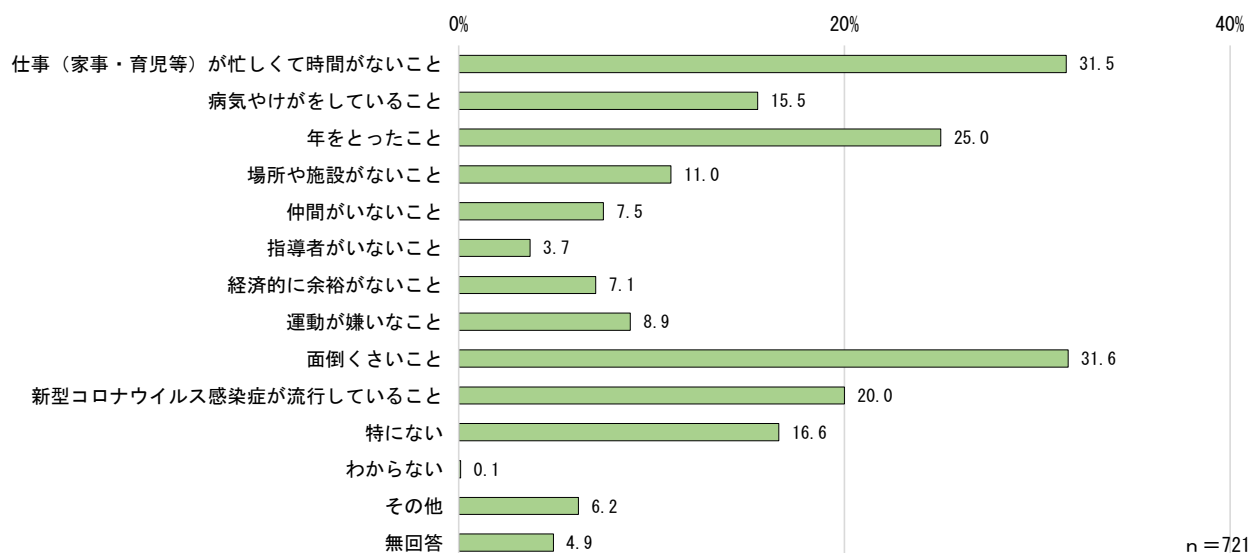
1年以上運動を継続しているかの実践状況は、「はい」が89.5%と高く、「いいえ」が10.5%となっています。



n = 229

問 9 あなたの運動の定着の妨げとなっていることは何ですか。(〇はいくつでも)

運動の定着の妨げとなっていることは、「面倒くさいこと」が31.6%と最も高く、次いで「仕事(家事・育児等)が忙しくて時間がないこと」が31.5%、「年をとったこと」が25.0%となっています。

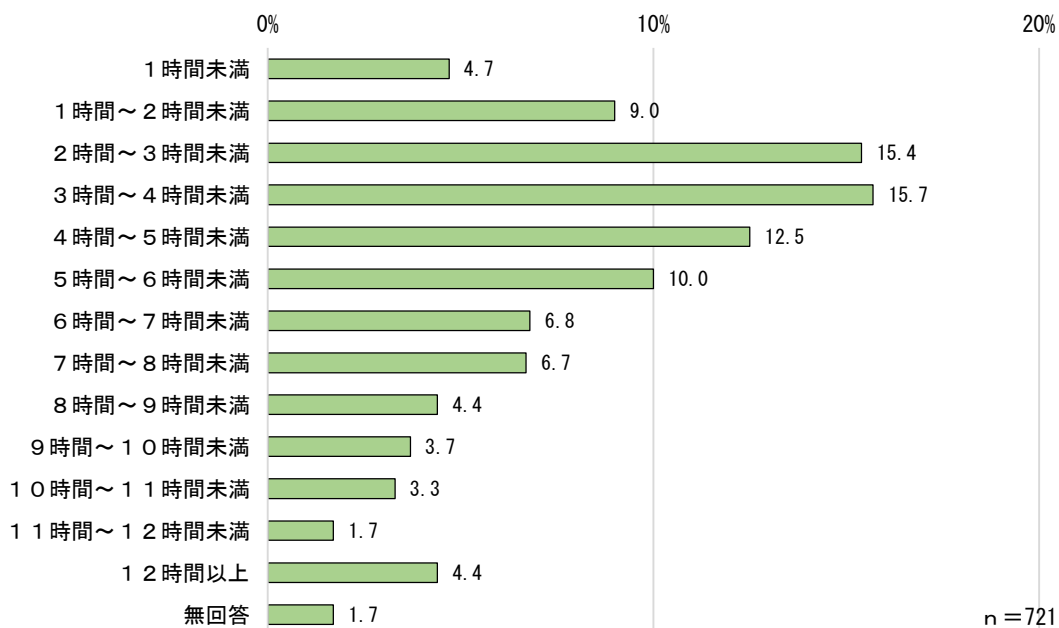


n = 721



問10 座ったり寝転んだりして過ごしている時間（工作中、勉強中、友人や家族とおしゃべり、読書、寝転んでテレビを見るなどの非活動的な時間）について伺います。起きている時間の中で、どのくらいの時間、座ったり寝転んだりして過ごしていますか。（○は1つだけ）

起きている時間の中で、どのくらいの時間、座ったり寝転んだりして過ごしているかは、「3時間～4時間未満」が15.7%と最も高く、次いで「2時間～3時間未満」が15.4%、「4時間～5時間未満」が12.5%となっています。



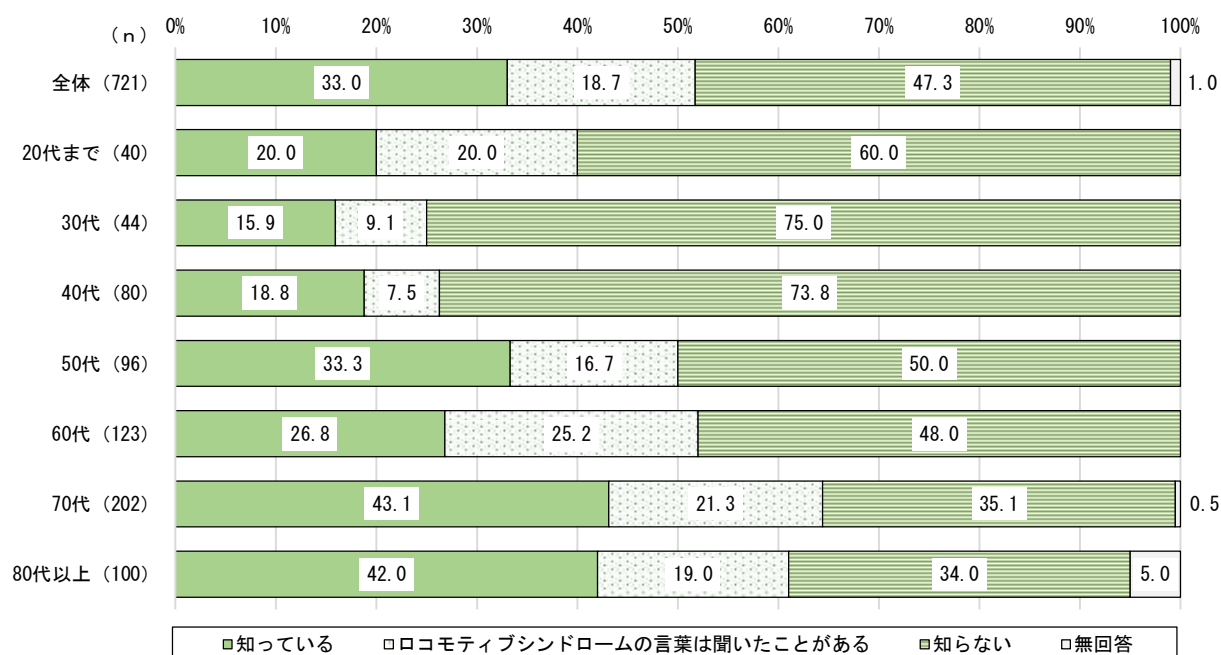
## (3) ロコモティブシンドローム

問11 ロコモティブシンドロームとは、骨や関節の病気、筋力の低下、バランス能力の低下によって転倒、骨折しやすくなることで、自立した生活が出来なくなり、介護が必要となる危険性が高い状態をいいます。このことを知っていましたか。(〇は1つだけ)

ロコモティブシンドロームの認知度は、「知らない」が47.3%と最も高く、次いで「知っている」が33.0%、「ロコモティブシンドロームの言葉は聞いたことがある」が18.7%となっている。

年齢別にみると、<70代>と<80代以上>は「知っている」が約4割となっています。<30代>と<40代>は「知らない」が7割以上となっています。

## ロコモティブシンドロームの認知度／年齢



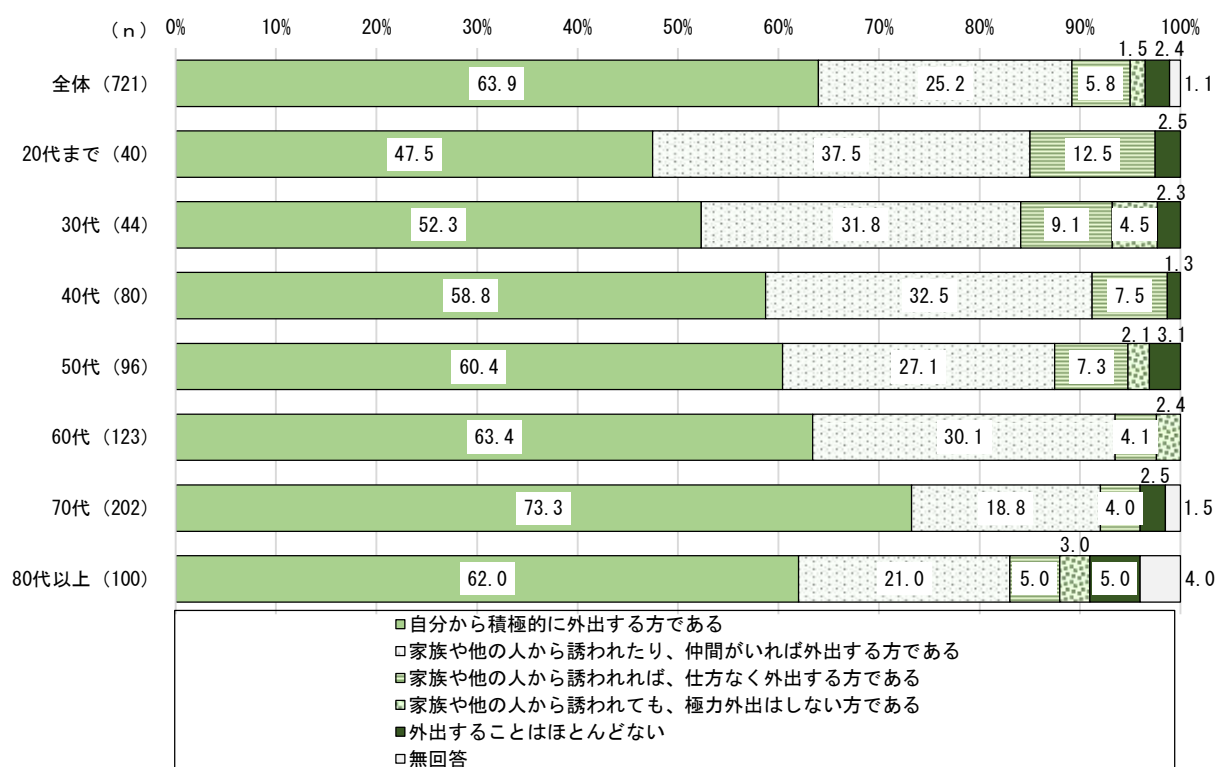
(4) 外出状況

問12 日常生活の中で、買い物や散歩などを含めた外出の状況について、あなたは次のどれにあてはまると思いますか。(〇は1つだけ)

外出状況は、「自分から積極的に外出する方である」が63.9%と最も高く、次いで「家族や他の人から誘われたり、仲間がいれば外出する方である」が25.2%、「家族や他の人から誘われれば、仕方なく外出する方である」が5.8%となっています。

年齢別にみると、<70代>は「自分から積極的に外出する方である」が73.3%、<50代>、<60代>、<80代以上>で6割以上となっています。<20代まで>と<30代>、<40代>、<60代>は「家族や他の人から誘われたり、仲間がいれば外出する方である」で3割以上となっています。

外出状況／年齢



(5) 社会活動の参加状況

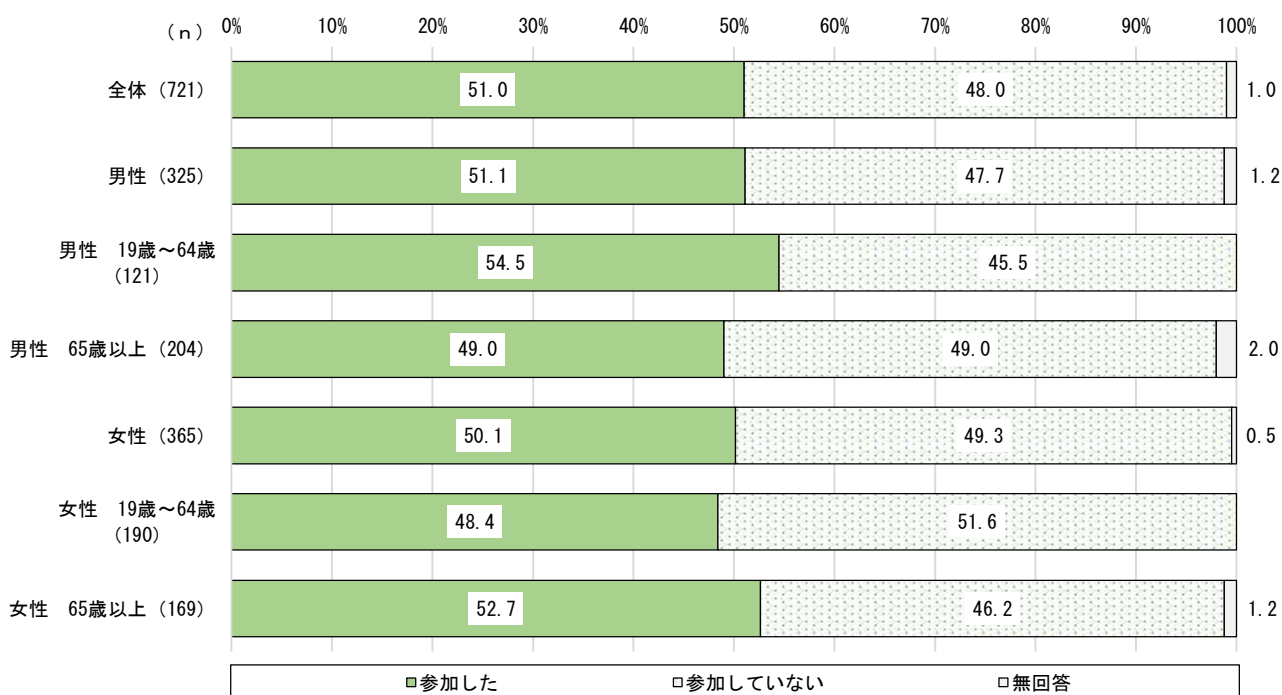
問13 この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体に自主的に行われている活動に参加しましたか。(○は1つだけ)

過去1年間の活動参加の有無は、「参加した」が51.0%と高く、「参加していない」が48.0%となっています。

性別では、それほど差はありません。

性・年齢別では、＜男性 65歳以上＞は「参加した」が49.0%、＜女性 65歳以上＞が52.7%となっています。

過去1年間の活動参加の有無／性別、性・年齢

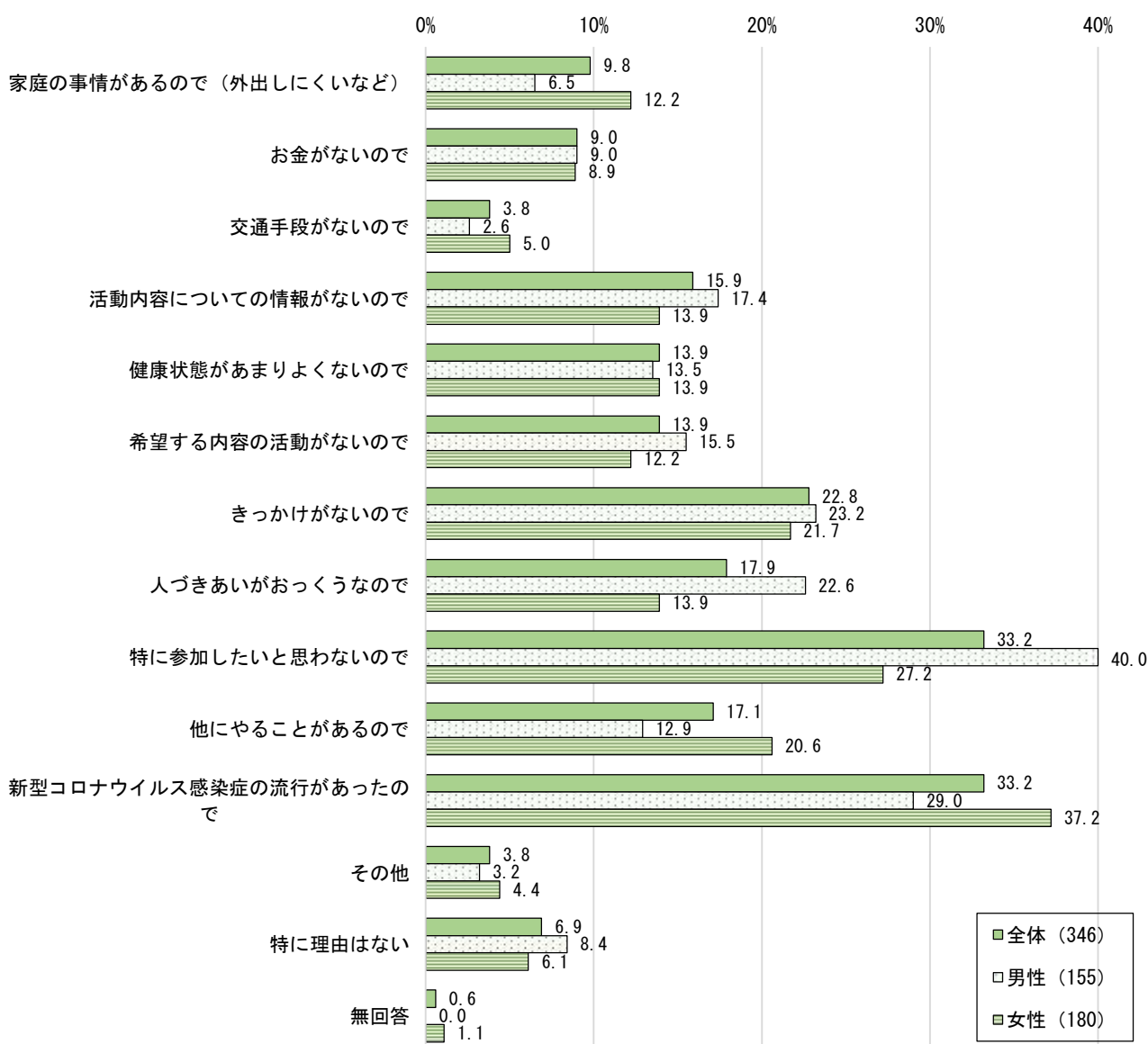


付問13-1 (問13で「参加していない」と回答した人のみ)  
参加していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

参加しない理由は、「特に参加したいと思わないので」及び「新型コロナウイルス感染症の流行があったので」が33.2%と最も高く、次いで「きっかけがないので」が22.8%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「特に参加したいと思わないので」が40.0%と最も高く、＜女性＞(27.2%)より高くなっています。＜女性＞は「新型コロナウイルス感染症の流行があったので」が37.2%と最も高く、＜男性＞(29.0%)より高くなっています。

参加しない理由／性別



## 4. 休養・こころの健康づくり

## (1) ストレスの状況

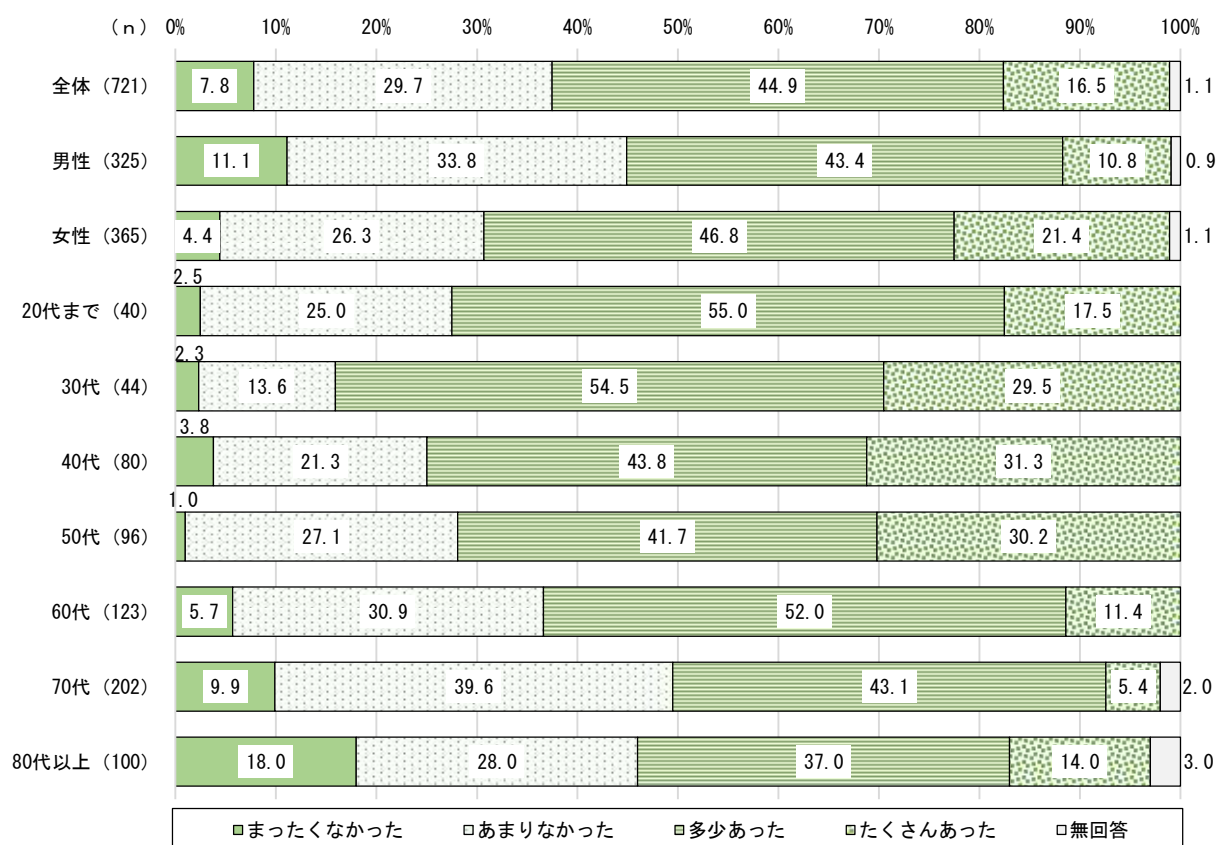
問14 あなたは、この1か月間に、不安、悩み、苦勞、ストレスなどがありましたか。  
(○は1つだけ)

過去1か月間の不安・悩み・苦勞・ストレスの有無は、「多少あった」が44.9%と最も高く、次いで「あまりなかった」が29.7%、「たくさんあった」が16.5%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「たくさんあった」が21.4%と、＜男性＞の10.8%より多くなっています。

年齢別にみると、＜20代まで＞と＜30代＞、＜60代＞は「多少あった」が過半数となっています。また＜30代＞と＜40代＞、＜50代＞では、「たくさんあった」が約3割と高くなっています。

## 過去1か月間の不安・悩み・苦勞・ストレスの有無／性別、性・年齢

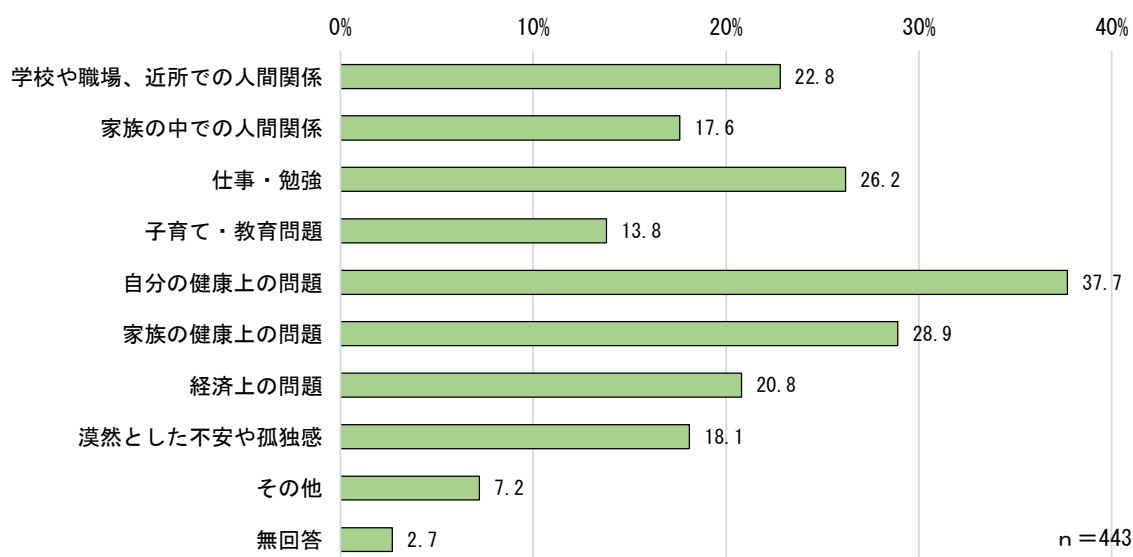


付問14-1 (問14で「多少あった」「たくさんあった」と回答した人のみ)  
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

不安・悩み・苦労・ストレスの理由は、「自分の健康上の問題」が37.7%と最も高く、次いで「家族の健康上の問題」が28.9%、「仕事・勉強」が26.2%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>は「仕事・勉強」が65.5%、<30代>は「仕事・勉強」、「子育て・教育問題」がともに48.6%となっています。<40代>は「仕事・勉強」、<50代>は「学校や職場・近所での人間関係」、<70代>と<80代以上>は「自分の健康上の問題」がそれぞれ4割以上となっています。

不安・悩み・苦労・ストレスの理由／年齢



(n)	学校や職場、近所での人間関係	家族の中での人間関係	仕事・勉強	子育て・教育問題	自分の健康上の問題	家族の健康上の問題	経済上の問題	漠然とした不安や孤独感	その他	無回答
全体 (443)	22.8	17.6	26.2	13.8	37.7	28.9	20.8	18.1	7.2	2.7
20代まで (29)	48.3	20.7	65.5	10.3	3.4	10.3	24.1	27.6	3.4	0.0
30代 (37)	32.4	13.5	48.6	48.6	32.4	21.6	35.1	16.2	2.7	0.0
40代 (60)	25.0	20.0	43.3	35.0	33.3	25.0	33.3	23.3	1.7	3.3
50代 (69)	40.6	27.5	33.3	20.3	29.0	33.3	34.8	18.8	2.9	1.4
60代 (78)	23.1	14.1	26.9	2.6	34.6	32.1	11.5	16.7	7.7	3.8
70代 (98)	9.2	13.3	7.1	2.0	46.9	36.7	13.3	14.3	11.2	3.1
80代以上 (51)	2.0	17.6	0.0	0.0	54.9	27.5	9.8	15.7	15.7	5.9

## 付問14-2 (問14で「多少あった」「たくさんあった」と回答した人のみ)

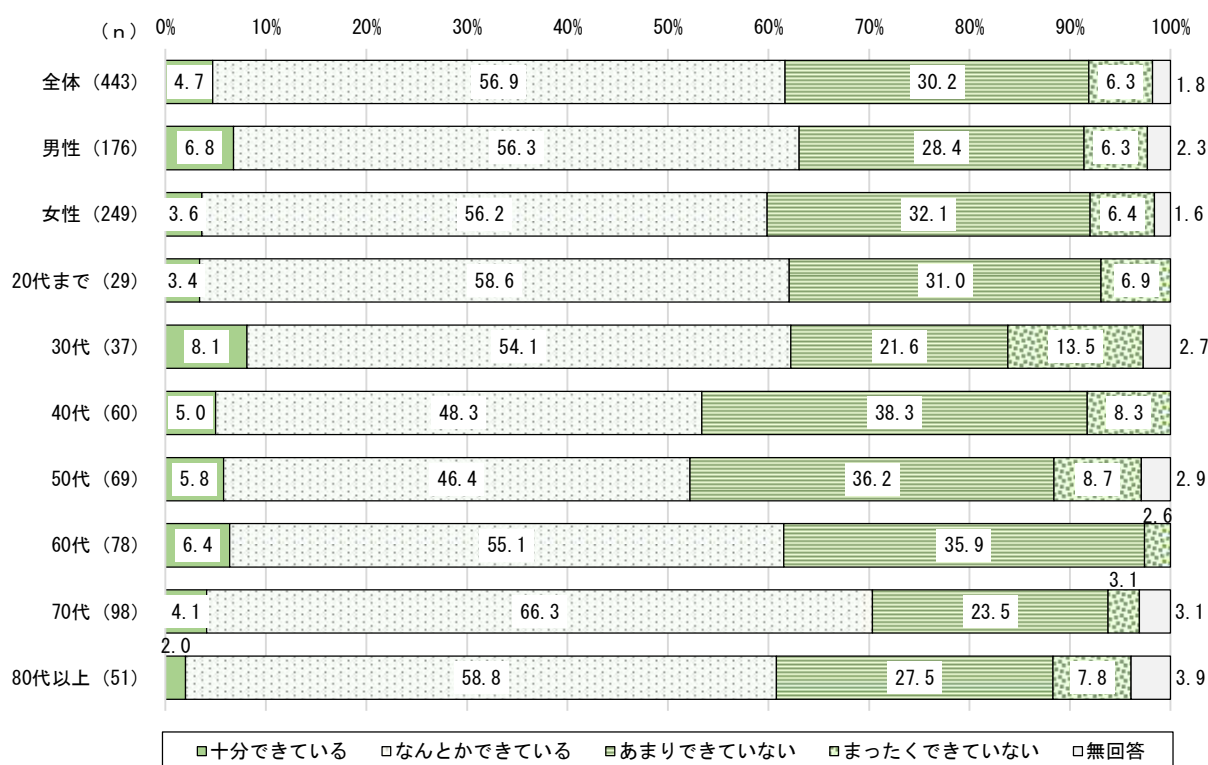
この1か月間を振り返り、不安、悩み、苦労、ストレスなどを解消できていると思いますか。(〇は1つだけ)

不安・悩み・苦労・ストレスの解消状況は、「なんとかできている」が56.9%と最も高く、次いで「あまりできていない」が30.2%、「まったくできていない」が6.3%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「あまりできていない」が32.1%と、＜男性＞の28.4%より多くなっています。

年齢別にみると、＜20代まで＞と＜30代＞、＜60代＞、＜70代＞、＜80代以上＞は「なんとかできている」が過半数となっています。一方、＜30代＞は「まったくできていない」が13.5%、＜40代＞は「あまりできていない」が38.3%、＜50代＞は36.2%となっています。

## 不安・悩み・苦労・ストレスの解消状況／性別、年齢



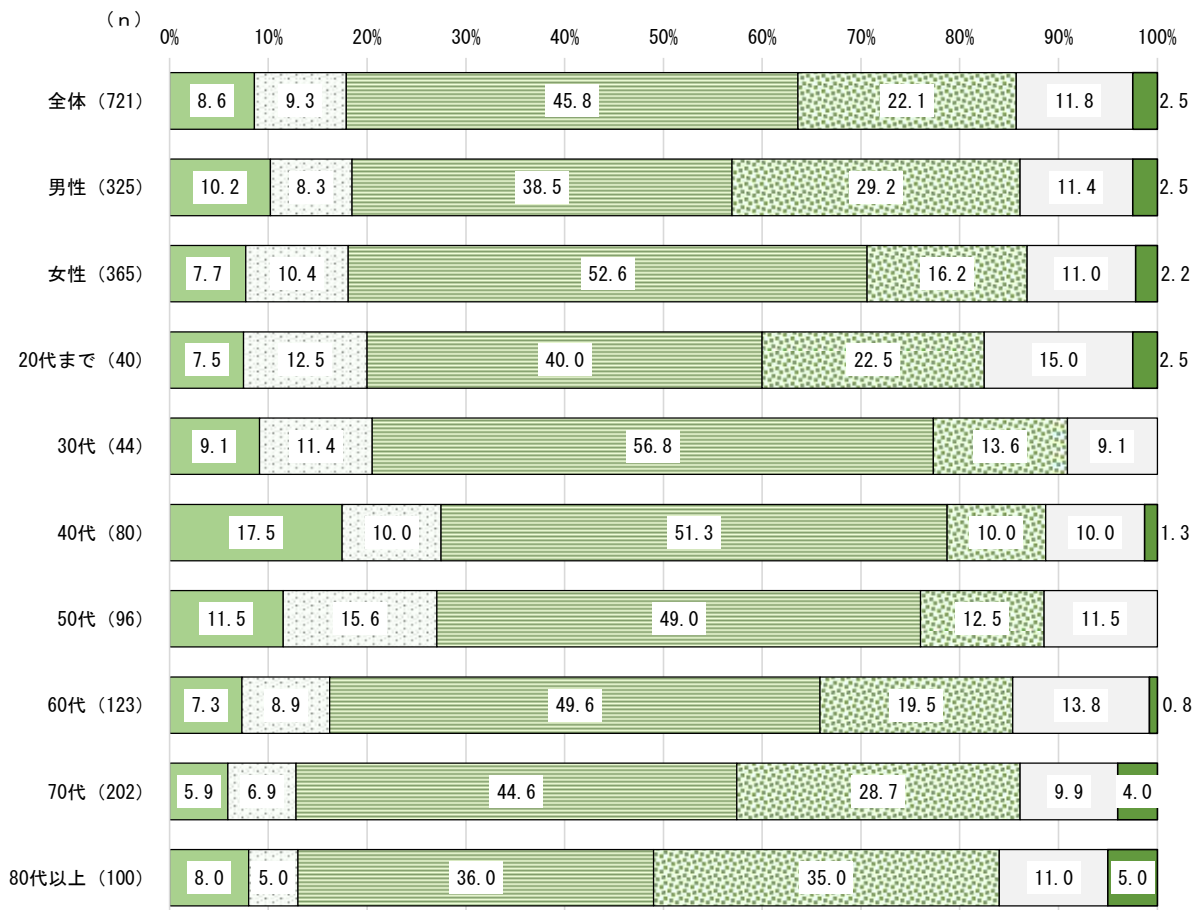


問15 ころの状態も身体と同様にセルフケアすることは大切です。その中で自分のストレスサインを知っておくことは重要ですが、自分のストレスの状態に気づくことができますか。市のホームページや厚生労働省のホームページ等に、ストレスのセルフチェックができる方法・ツールが掲載されていますが、知っていますか。(〇は1つだけ)

ストレスのセルフチェックができる方法の認知度は、17.9%です。20代まででは「自分のストレスの状態は気になるが、気づく方法がわからない」が15.0%です。一方、「ストレスのセルフチェックができる方法を知らないが、ストレスの状態に気づくことができる」が45.8%と最も高く、次いで「自分のストレスの状態は気にしていない、または気にならない」が22.1%、「自分のストレスの状態は気になるが、気づく方法がわからない」が11.8%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「ストレスのセルフチェックができる方法を知らないが、ストレスの状態に気づくことができる」が52.6%と、＜男性＞の38.5%より多くなっています。

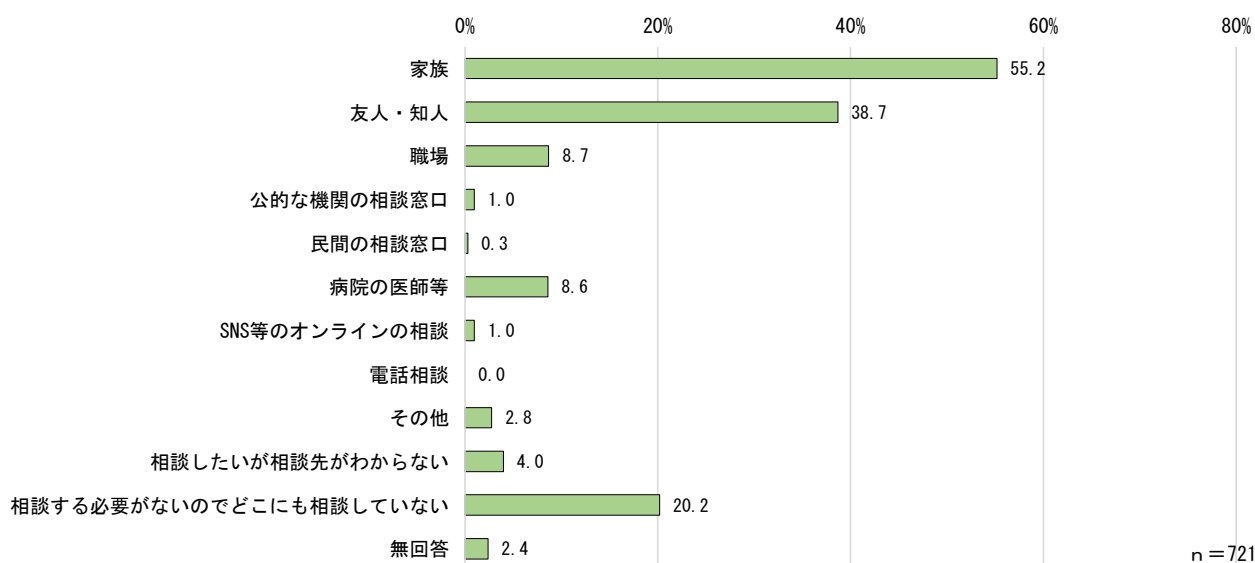
年齢別にみると、＜20代まで＞、＜30代＞、＜40代＞、＜50代＞、＜60代＞、＜70代＞は「ストレスのセルフチェックができる方法を知らないが、ストレスの状態に気づくことができる」が4割以上となっています。



- ストレスのセルフチェックができる方法を知っており、ストレスの状態を確認している
- ストレスのセルフチェックができる方法を知っており、使用はしていないが、ストレスの状態に気づくことができる
- ストレスのセルフチェックができる方法を知らないが、ストレスの状態に気づくことができる
- 自分のストレスの状態は気にしていない、または気にならない
- 自分のストレスの状態は気になるが、気づく方法がわからない
- 無回答

問16 悩みやストレスをどのように相談していますか。(〇はいくつでも)

悩みやストレスをどのように相談しているかは、「家族」が55.2%と最も高く、次いで「友人・知人」が38.7%、「相談する必要がないのでどこにも相談していない」が20.2%となっています。



(n)	家族	友人・知人	職場	公的な機関の相談窓口	民間の相談窓口	病院の医師等	SNS等のオンラインの相談	電話相談	その他	相談したいが相談先がわからない	相談する必要がないのでどこにも相談していない	無回答
全体(721)	55.2	38.7	8.7	1.0	0.3	8.6	1.0	0.0	2.8	4.0	20.2	2.4
男性(325)	45.2	23.1	7.4	1.2	0.6	9.2	1.2	0.0	2.5	4.6	31.4	2.5
女性(365)	65.2	52.9	10.7	0.8	0.0	7.7	0.8	0.0	3.3	3.6	10.4	1.9
20代まで(40)	62.5	57.5	12.5	0.0	0.0	12.5	2.5	0.0	0.0	2.5	10.0	0.0
30代(44)	68.2	45.5	13.6	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	6.8	9.1	0.0
40代(80)	68.8	58.8	25.0	2.5	0.0	5.0	0.0	0.0	1.3	5.0	8.8	0.0
50代(96)	54.2	51.0	15.6	1.0	0.0	6.3	1.0	0.0	4.2	5.2	15.6	1.0
60代(123)	56.9	33.3	9.8	0.8	0.8	4.1	0.8	0.0	2.4	3.3	23.6	1.6
70代(202)	51.5	33.2	2.0	1.0	0.0	9.9	1.0	0.0	2.5	4.0	26.7	3.0
80代以上(100)	46.0	20.0	0.0	1.0	1.0	15.0	0.0	0.0	7.0	3.0	25.0	6.0

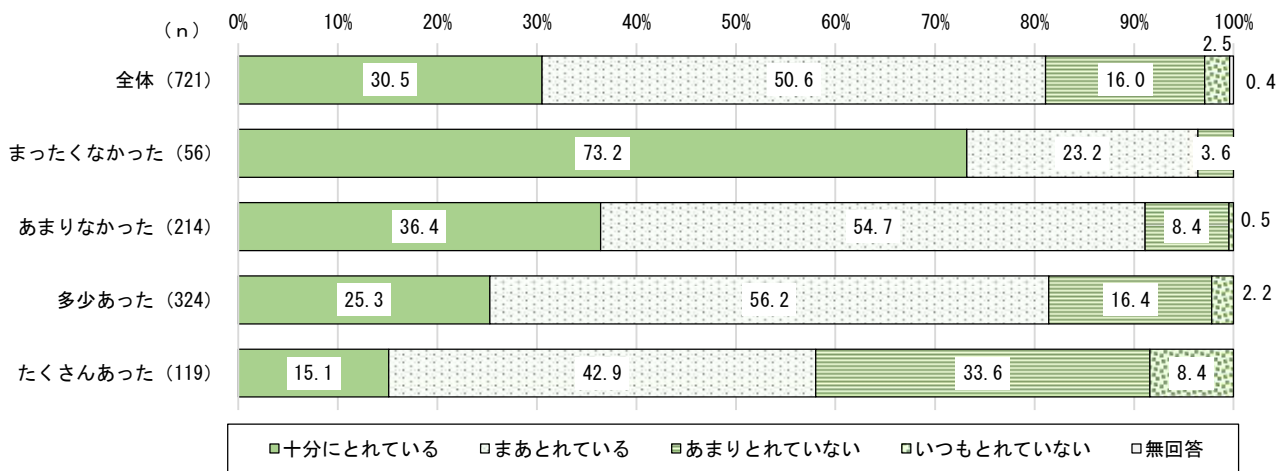
(2) 睡眠による休養の状況

問17 あなたは、睡眠による休養がとれていますか。(○は1つだけ)

睡眠による休養の状況は、「まあとれている」が50.6%と最も高く、次いで「十分にとれている」が30.5%、「あまりとれていない」が16.0%となっています。

問14と併せてみると、悩みやストレスが「まったくなかった」で睡眠を「十分にとれている」は73.2%となっています。悩みやストレスが「たくさんあった」では睡眠が「あまりとれていない」が33.6%、「いつもとれていない」が8.4%となっています。

睡眠による休養の状況／過去1か月間の不安・悩み・苦労・ストレスの有無



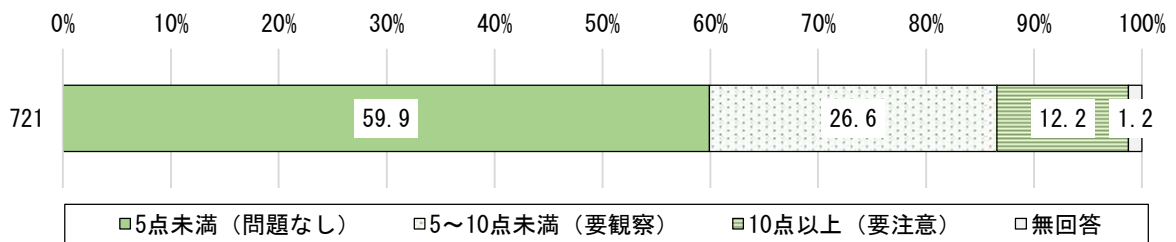
(3) 最近の精神状態

問18 最近のあなたの様子についてお聞きます。次の(ア)～(カ)の質問について、過去1か月の間はどのようであったか、6つの項目それぞれのあてはまる番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つだけ)

各回答を点数化し、合計点を算出しました。「5点未満 (問題なし)」、「5～10点未満 (要観察)」、「10点以上 (要注意)」となっています。

最近の精神状態は、「5点未満 (問題なし)」は59.9%、「5～10点未満 (要観察)」は26.6%、「10点以上 (要注意)」は12.2%となっています。

最近の精神状態



(4) うつ病について

問19 うつ病についてお聞きします。次のア～ウについて、あなたが思うことをそれぞれ選んでください。(〇は1つだけ)

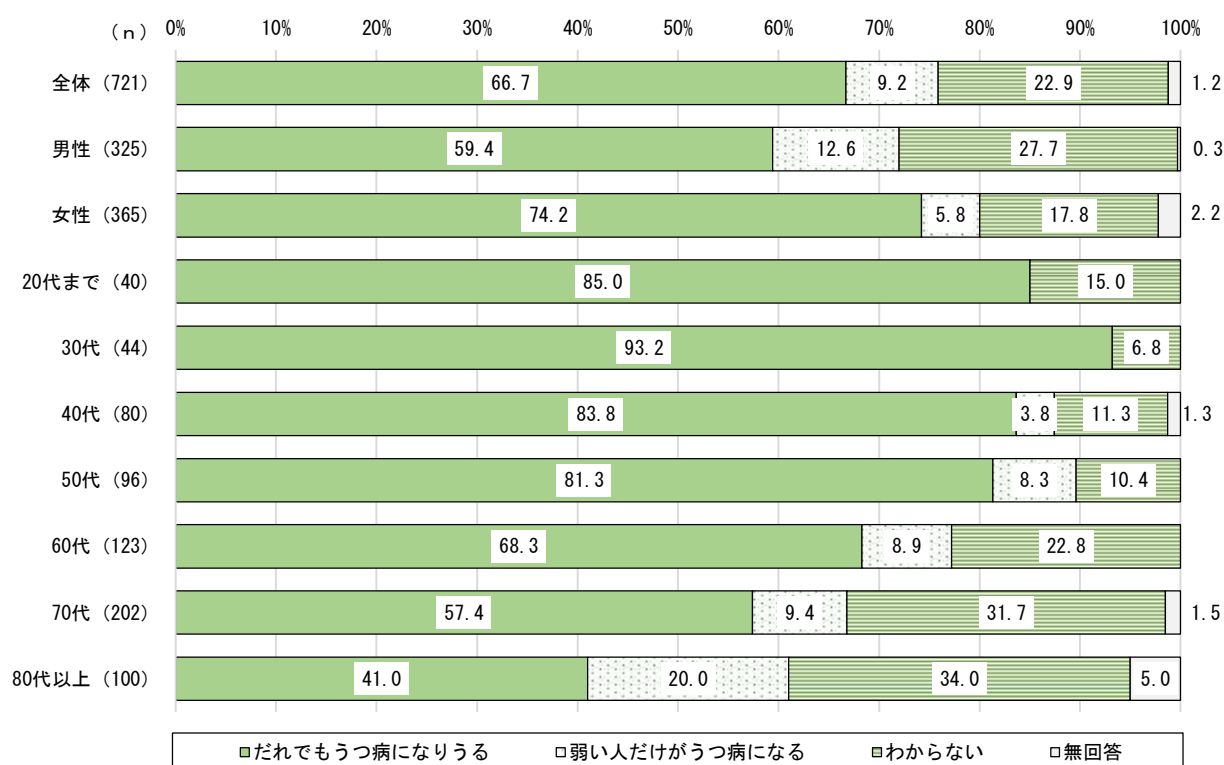
ア ストレスが続くと

ストレスが続くと、「だれでもうつ病になりうる」が66.7%と最も高く、次いで「わからない」が22.9%、「弱い人だけがうつ病になる」が9.2%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「だれでもうつ病になりうる」が74.2%と、＜男性＞の59.4%より多くなっています。

年齢別にみると、＜20代まで＞と＜30代＞、＜40代＞、＜50代＞は「だれでもうつ病になりうる」で8割以上となっています。また＜80代以上＞は「だれでもうつ病になりうる」が41.0%、「弱い人だけがうつ病になる」が20.0%となっています。

ストレスが続くと／性別、年齢



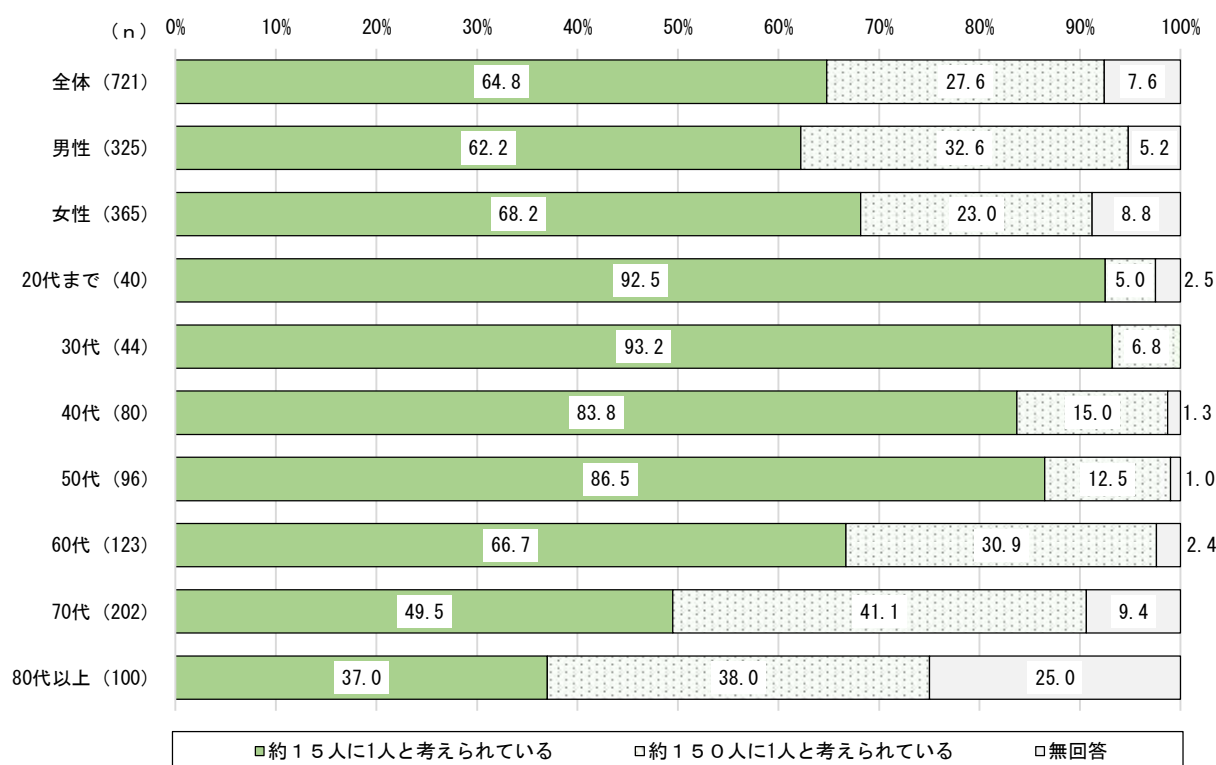
**イ 一生のうちに、うつ病になる頻度はわが国では**

一生のうちに、うつ病になる頻度はわが国では、「約15人に1人と考えられている」が64.8%と最も高く、次いで「約150人に1人と考えられている」が27.6%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「約15人に1人と考えられている」が68.2%で、＜男性＞の62.2%より若干多くなっています。

年齢別にみると、＜20代まで＞と＜30代＞は「約15人に1人と考えられている」で9割以上となっています。＜80代以上＞は「約15人に1人と考えられている」が37.0%と他より低くなっています。

**一生のうちに、うつ病になる頻度はわが国では／性別、年齢**



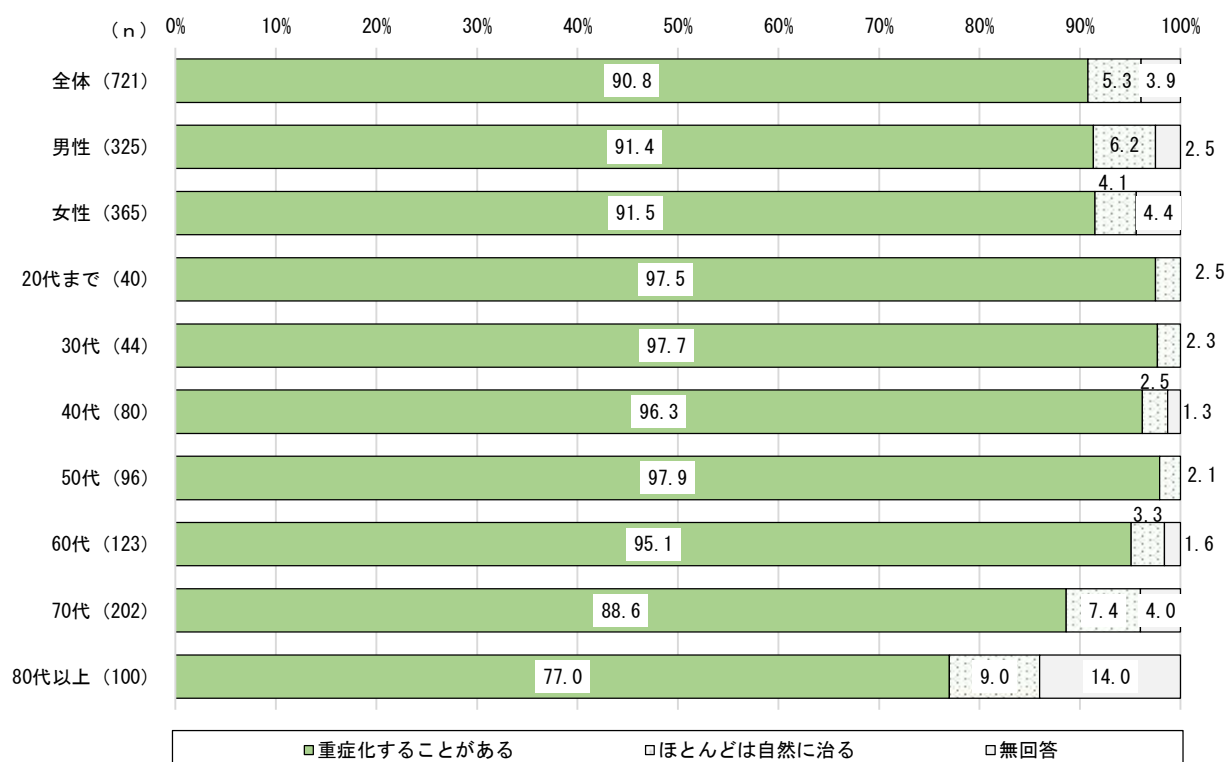
**ウ うつ病を治療せずに放っておくと**

うつ病を治療せずに放っておくと、「重症化することがある」が90.8%と最も高く、次いで「ほとんどは自然に治る」が5.3%となっています。

性別にみると、＜男性＞と＜女性＞ともに「重症化することがある」が9割以上となっています。

年齢別にみると、＜70代＞と＜80代以上＞を除く全ての年齢で「重症化することがある」が9割以上となっています。＜80代以上＞は「ほとんどは自然に治る」が9.0%となっています。

**うつ病を治療せずに放っておくと／性別、年齢**



## 5. 自殺

### (1) 自殺について

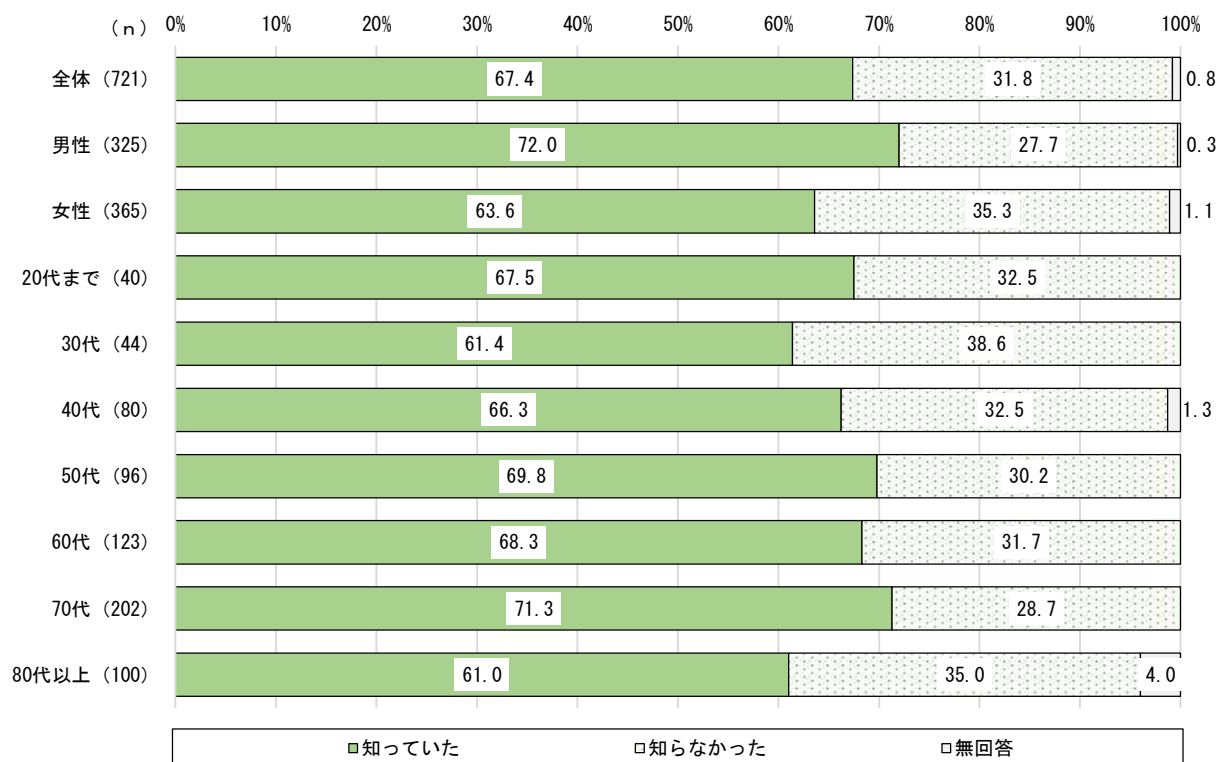
問20 我が国の自殺者数は長い間、毎年3万人を超え、この数年は3万人を下回っていますが、令和3年においても約2万1,000の方が亡くなっています。あなたは、毎年、このように多くの方が自殺でなくなっていることを知っていましたか。(〇は1つだけ)

日本の自殺状況の認知度は、「知っていた」が67.4%と最も高く、次いで「知らなかった」が31.8%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「知っていた」が72.0%、＜女性＞が63.6%となっています。

年齢別にみると、＜70代＞は「知っていた」が71.3%、それ以外の年齢では6割以上となっています。

#### 日本の自殺状況の認知度／性別、年齢

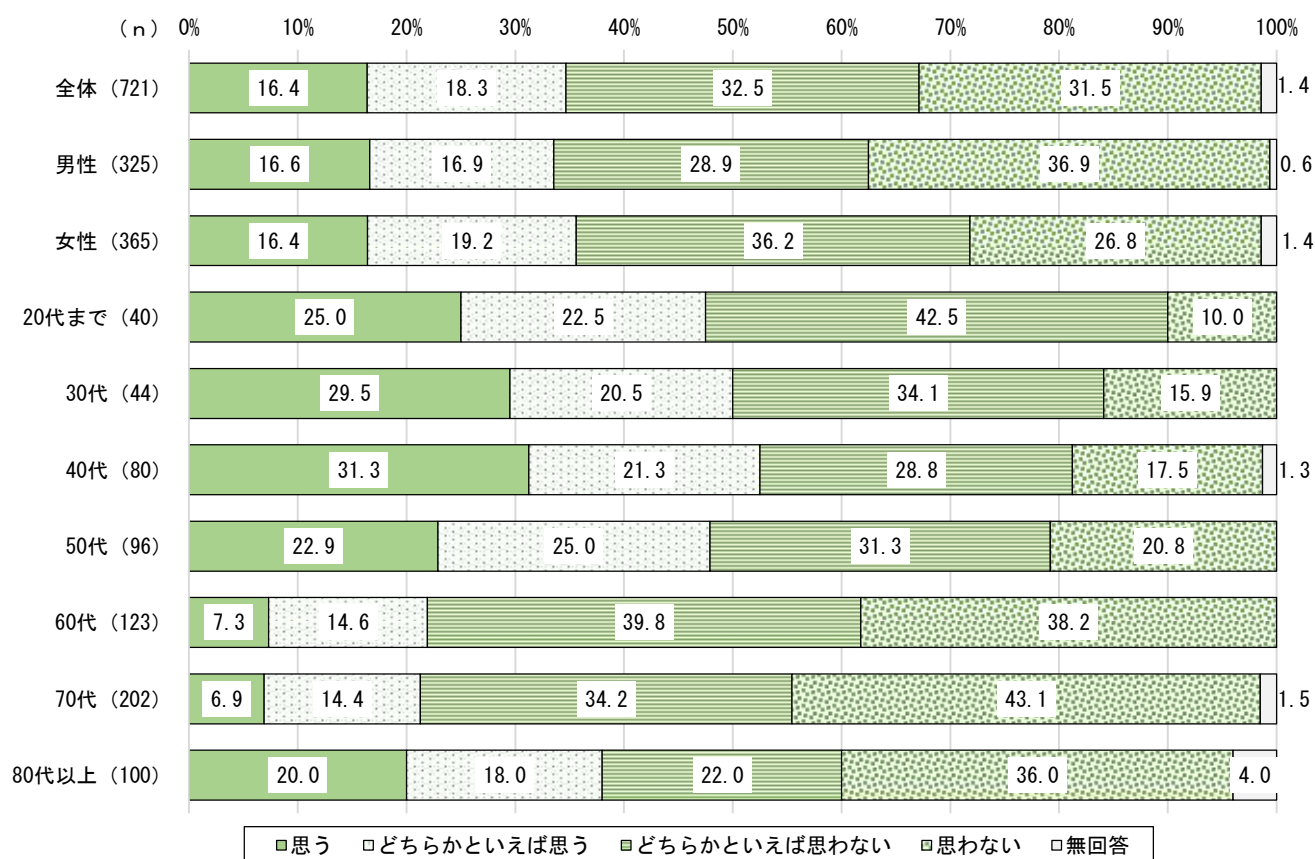


問21 「自殺に追いこまれるという危機」は自分自身に関わる問題だと思いますか。  
(○は1つだけ)

「自殺に追いこまれるという危機」は自分自身に関わる問題だと思うかは、「どちらかといえば思わない」が32.5%と最も高く、次いで「思わない」が31.5%、「どちらかといえば思う」が18.3%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「思わない」が36.9%、「どちらかといえば思わない」が28.9%、＜女性＞は「思わない」が26.8%、「どちらかといえば思わない」が36.2%となっています。

年齢別にみると、＜20代まで＞、＜30代＞、＜50代＞、＜60代＞、＜70代＞は「どちらかといえば思わない」と「思わない」を合わせて、5割以上となっています。＜40代＞は「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせて5割以上です。＜70代＞は「思わない」が43.1%となっています。





問22 あなたは最近1年以内に自殺を考えたことがありますか。(〇は1つだけ)

1年以内に自殺を考えたことがあるは、「いいえ」が95.7%と高く、「はい」が3.3%となっています。性別にみると、割合は低いですが男性が2.2%に対し女性が4.4%と2倍の数値です。年齢別にみると、<30代>は「はい」が6.8%、<40代>が7.5%となっています。

1年以内に自殺を考えたことがある／性別、年齢



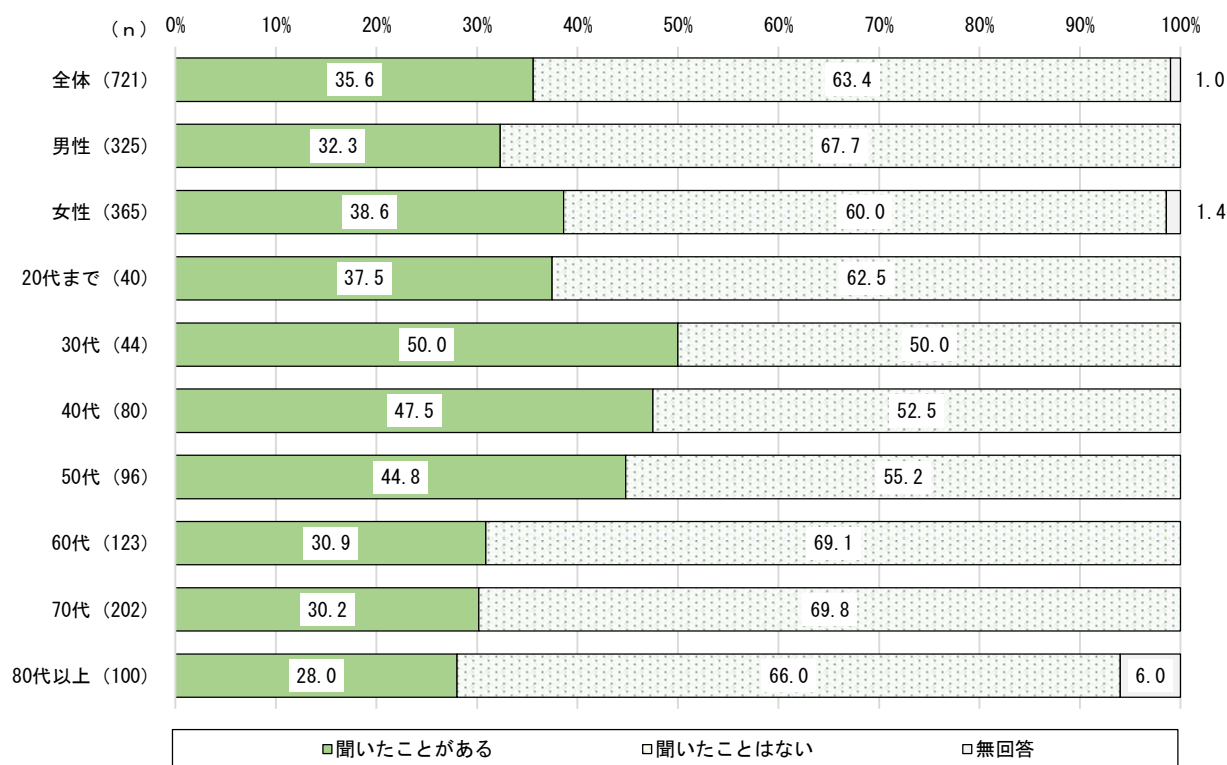
(2) 自殺予防

問23 自殺予防週間(9/10~9/16)や自殺対策強化月間(3月)について聞いたことがありますか。  
(○は1つだけ)

自殺予防週間と自殺対策強化月間の認知度は、「聞いたことはない」が63.4%、「聞いたことがある」が35.6%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「聞いたことがある」が32.3%、＜女性＞が38.6%となっています。  
年齢別にみると、全ての年齢で「聞いたことはない」が5割以上となっています。

自殺予防週間と自殺対策強化月間の認知度／性別、年齢



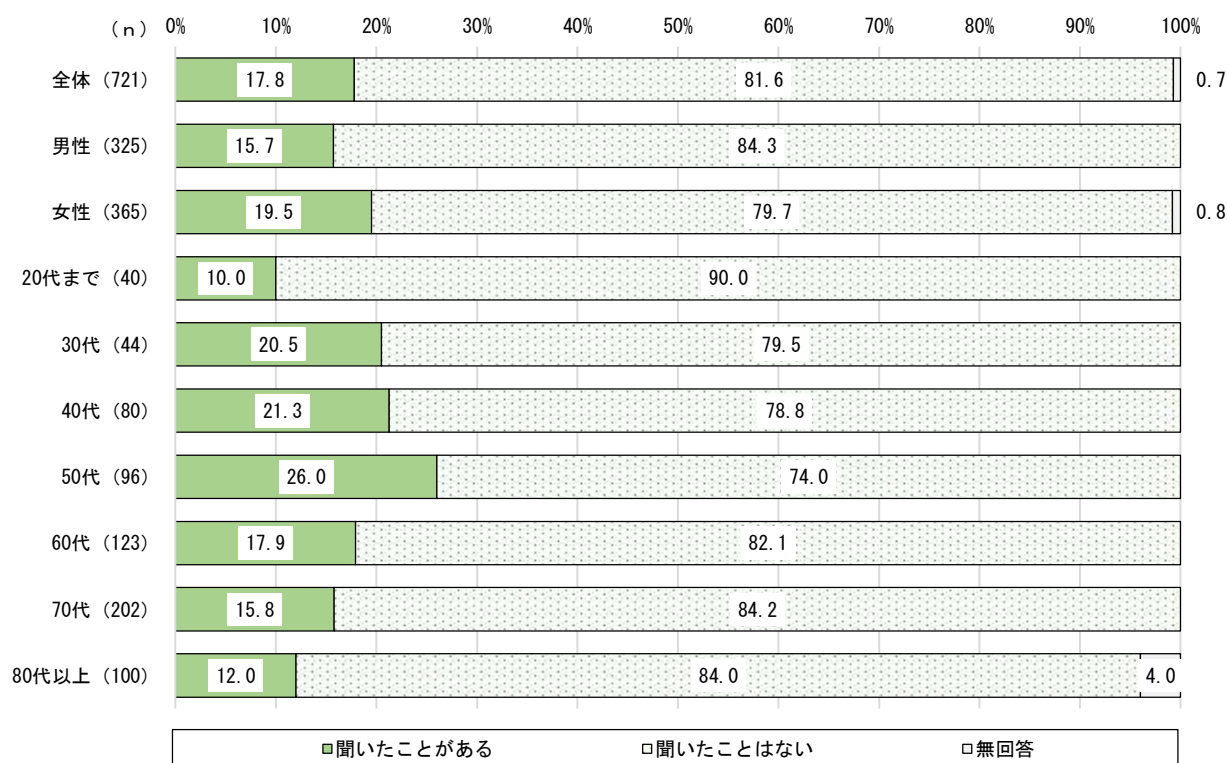
問24 あなたは、自殺対策としてゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応を取れる人）について聞いたことがありますか。（○は1つだけ）

ゲートキーパーの認知度は、「聞いたことはない」が81.6%、「聞いたことがある」が17.8%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「聞いたことがある」が15.7%、＜女性＞が19.5%となっています。

年齢別にみると、＜50代＞は「聞いたことがある」が26.0%となっています。＜20代まで＞は「聞いたことがない」が90.0%となっています。

### ゲートキーパーの認知度／性別、年齢



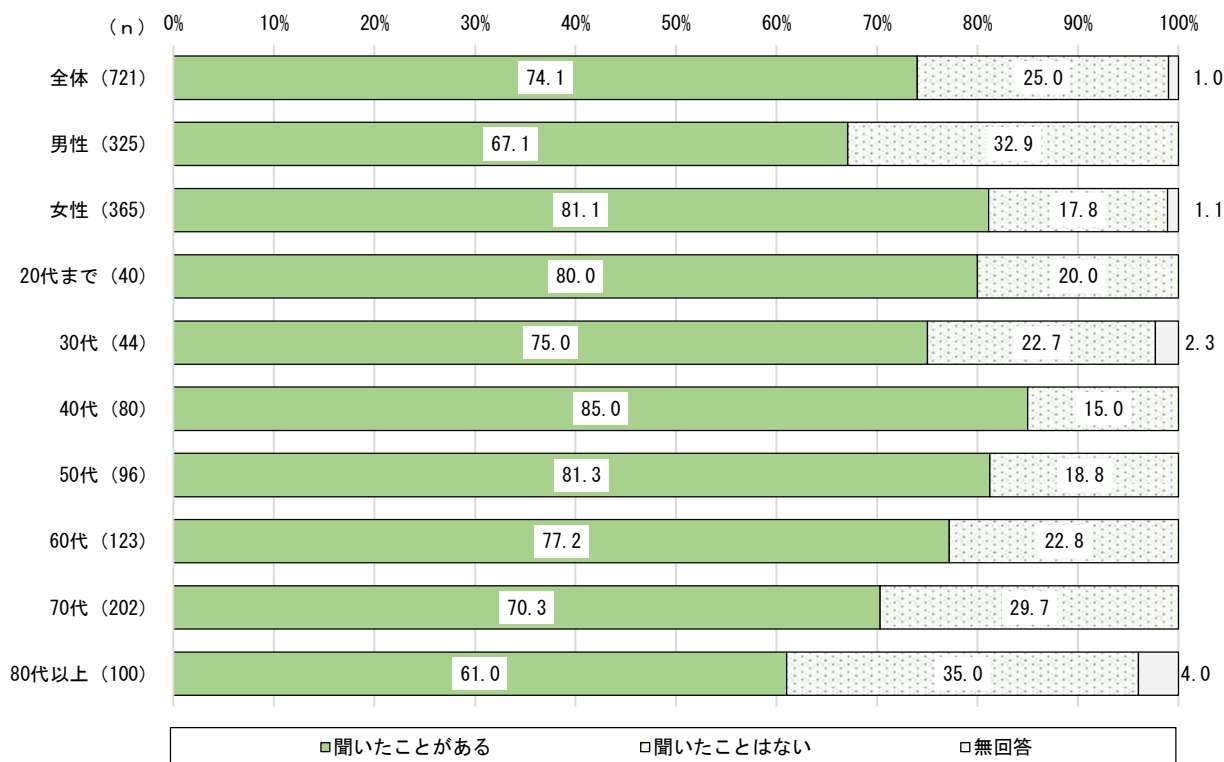
問25 悩みを抱える人がいつでもどこでも相談でき、適切な支援を受けられるためのよりどころとして、24時間365日の無料電話相談（よりそいホットライン）等があります。このことについて、聞いたことがありますか。（○は1つだけ）

よりそいホットラインの認知度は、「聞いたことがある」が74.1%と最も高く、次いで「聞いたことはない」が25.0%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「聞いたことがある」が81.1%と、＜男性＞の67.1%より多くなっています。

年齢別にみると、＜80代以上＞は「聞いたことがある」が61.0%、それ以外の全ての年齢で7割以上となっています。

### よりそいホットラインの認知度／性別、年齢



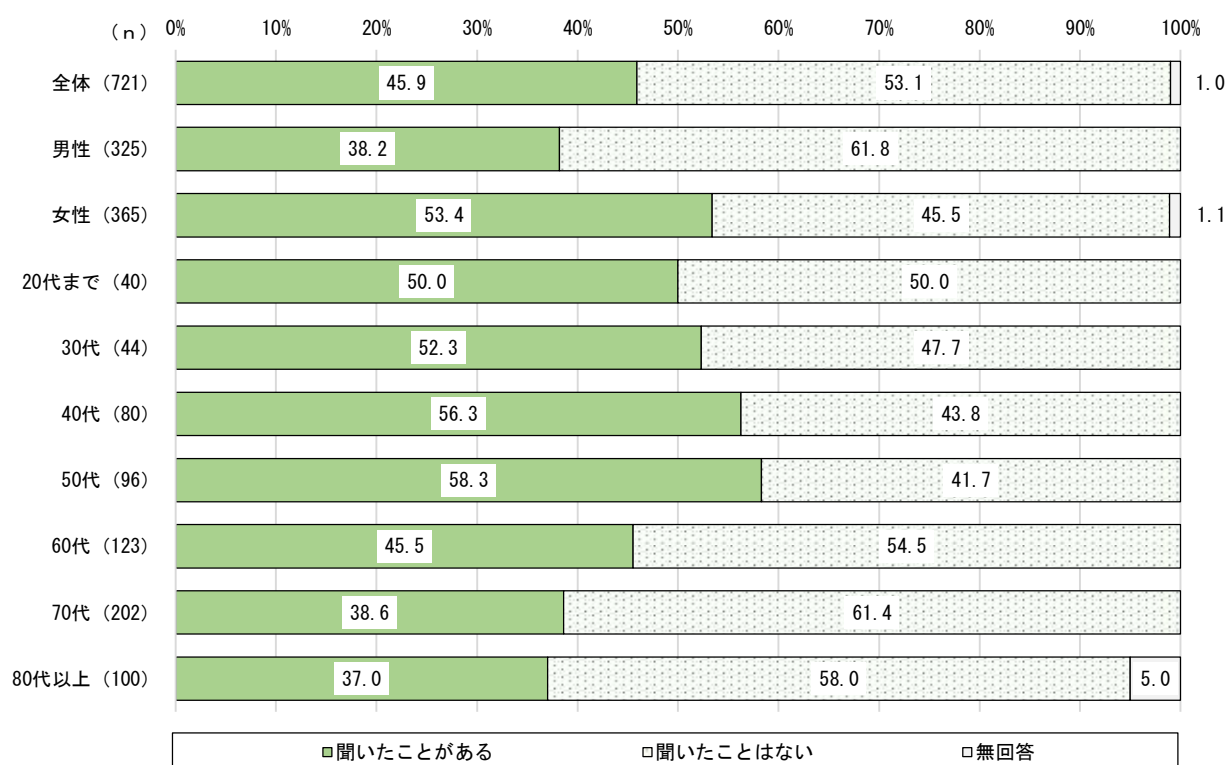
問26 悩みを抱える人がいつでもどこでも相談でき、適切な支援を受けられるためのよりどころとして、SNSを活用した相談（LINE：生きづらびっと、こころのほっとチャット等）があります。このことについて、聞いたことがありますか。（○は1つだけ）

SNSを活用した相談の認知度は、「聞いたことはない」が53.1%、「聞いたことがある」が45.9%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「聞いたことがある」が53.4%と、＜男性＞の38.2%より多くなっています。

年齢別にみると、＜50代＞以下の年齢では「聞いたことがある」が5割以上となっています。

### SNSを活用した相談の認知度／性別、年齢



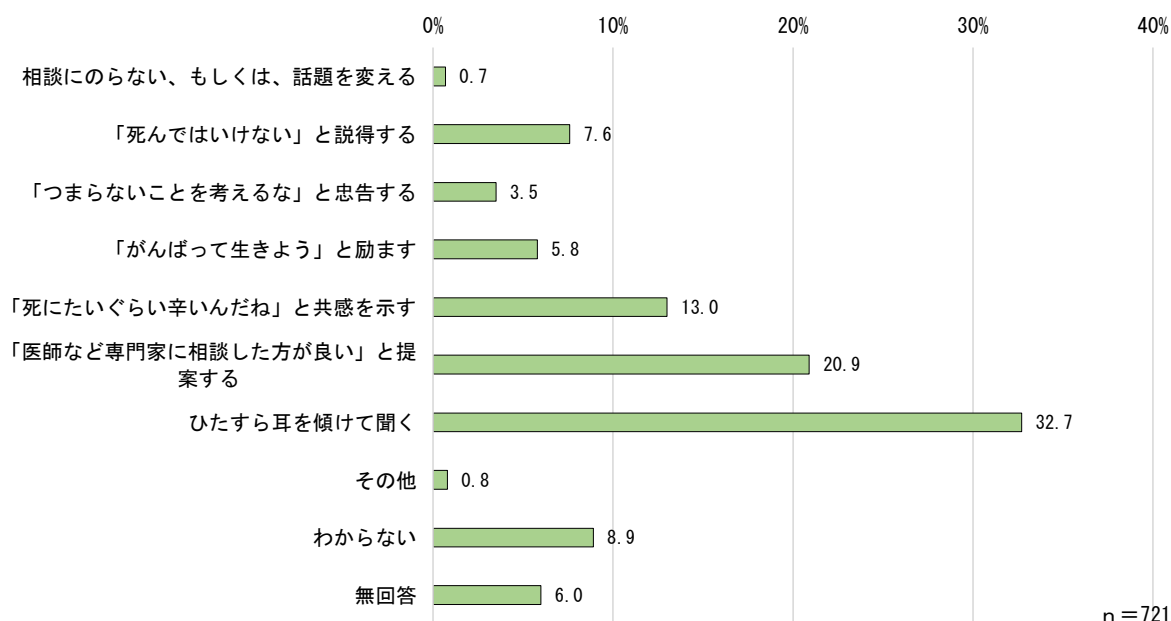
問27 あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが良いと思いますか。以下の中であなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。  
(○は1つだけ)

身近な人から「死にたい」と言われたときの対応は、「ひたすら耳を傾けて聞く」が32.7%と最も多く、次いで「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する」が20.9%、「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す」が13.0%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「ひたすら耳を傾けて聞く」が39.2%、＜男性＞が26.8%となっています。＜男性＞は「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する」が26.2%となっています。

年齢別にみると、＜20代まで＞は「ひたすら耳を傾けて聞く」が55.0%、＜30代＞は47.7%となっています。「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する」は＜60代＞から年齢が上がるごとに数値もあがり、＜80代以上＞では3割となっています。

### 身近な人から「死にたい」と言われたときの対応



(n)	相談にのらない、もしくは、話題を変える	「死んではいけない」と説得する	「つまらないことを考えるな」と忠告する	「がんばって生きよう」と励ます	「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す	「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する	ひたすら耳を傾けて聞く	その他	わからない	無回答
全体 (721)	0.7	7.6	3.5	5.8	13.0	20.9	32.7	0.8	8.9	6.0
男性 (325)	0.9	8.0	6.2	7.7	8.9	26.2	26.8	1.2	9.5	4.6
女性 (365)	0.3	6.8	1.1	3.3	17.5	16.4	39.2	0.3	7.9	7.1
20代まで (40)	5.0	0.0	0.0	2.5	20.0	5.0	55.0	0.0	7.5	5.0
30代 (44)	0.0	0.0	0.0	4.5	20.5	18.2	47.7	0.0	0.0	9.1
40代 (80)	0.0	10.0	0.0	6.3	15.0	18.8	35.0	1.3	3.8	10.0
50代 (96)	1.0	6.3	2.1	2.1	20.8	13.5	40.6	0.0	6.3	7.3
60代 (123)	0.8	7.3	4.9	3.3	10.6	20.3	39.0	0.8	8.9	4.1
70代 (202)	0.0	10.4	3.5	6.9	10.9	25.2	27.7	0.5	9.9	5.0
80代以上 (100)	0.0	8.0	9.0	9.0	7.0	30.0	14.0	2.0	17.0	4.0

## 6. たばこ

### (1) 喫煙状況

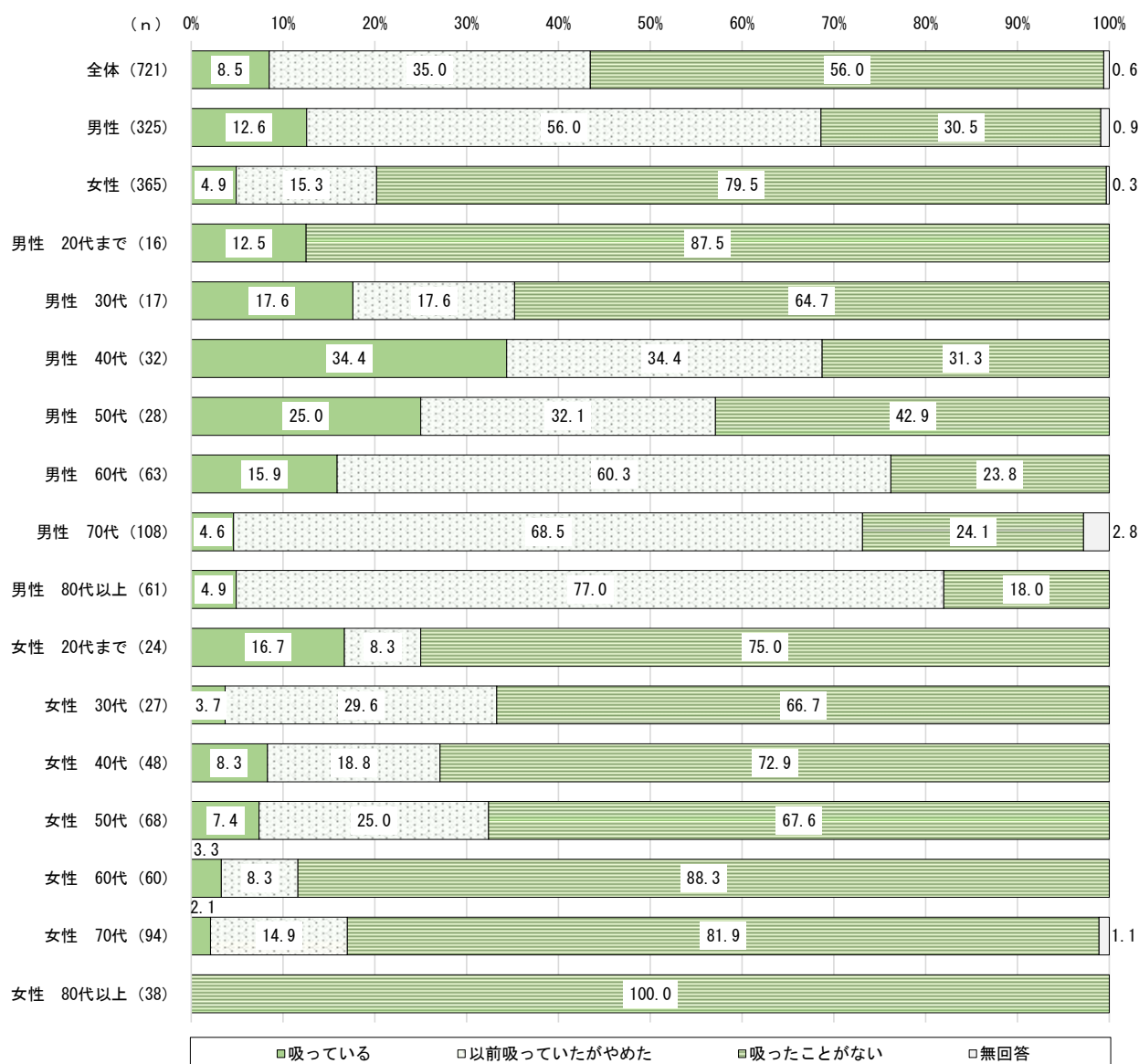
問28 あなたは、たばこを吸いますか。(○は1つだけ)

喫煙経験は、「吸ったことがない」が56.0%と最も高く、次いで「以前吸っていたがやめた」が35.0%、「吸っている」が8.5%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「以前吸っていたがやめた」が56.0%と、＜女性＞の15.3%より大幅に多くなっています。＜女性＞は「吸ったことがない」が79.5%となっています。

年齢別にみると、＜男性 40代＞は「吸っている」が34.4%、＜男性 50代＞が25.0%となっています。＜女性 20代まで＞は「吸っている」が16.7%と最も多いです。

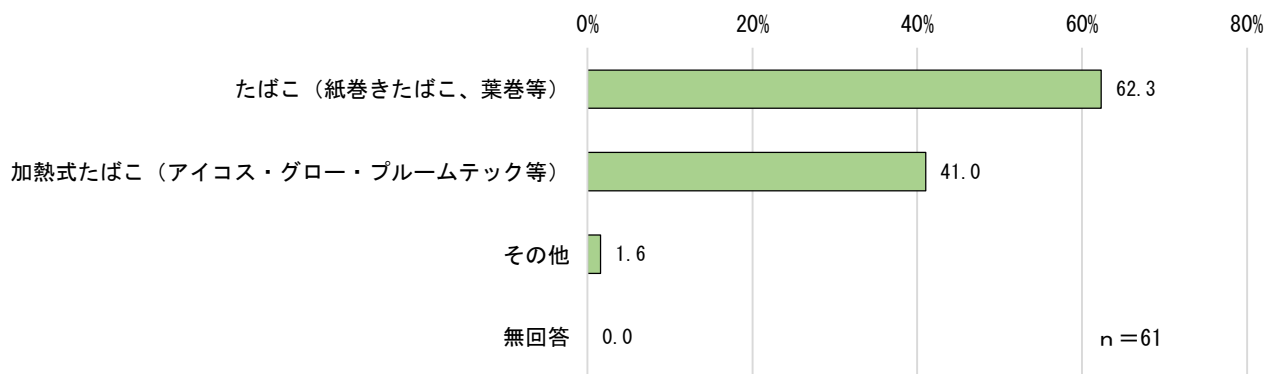
#### 喫煙経験／性別、性・年齢



付問28—1 (問28の現在「吸っている」と答えた人のみ)

現在吸っているたばこの種類はなんですか。(〇はいくつでも)

吸っているたばこの種類は、「たばこ(紙巻きたばこ、葉巻等)」が62.3%と最も高く、次いで「加熱式たばこ(アイコス・グロー・プルームテック等)」が41.0%、「その他」が1.6%となっています。

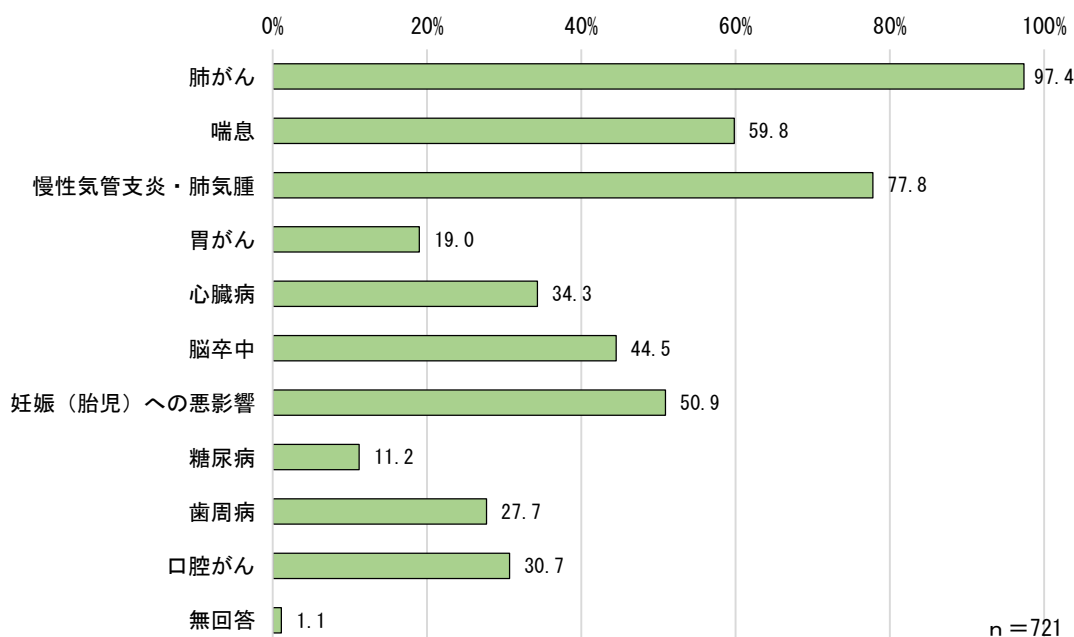


(2) 喫煙と疾病の関係

問29 次の病気のうち、たばこを吸うことでかかりやすくなると、あなたが思う病気を選んでください。(〇はいくつでも)

たばこを吸うことでかかりやすくなると思う病気は、「肺がん」が97.4%と最も高く、次いで「慢性気管支炎・肺気腫」が77.8%、「喘息」が59.8%となっています。「糖尿病」は最も低く11.2%です。

たばこを吸うことでかかりやすくなると思う病気



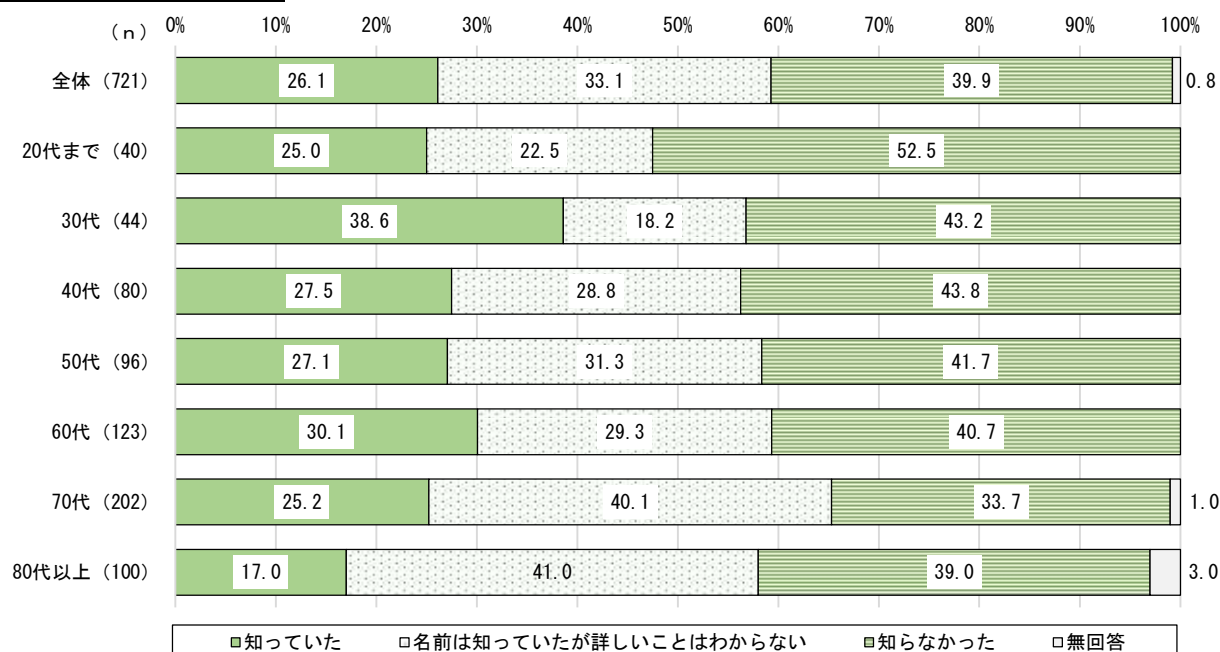


問30 あなたはCOPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っていましたか。  
 慢性閉塞性肺疾患とは、従来慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称です。たばこが原因で肺に炎症が起こり、肺胞が壊れ、呼吸に障害が起こる病気です（〇は1つだけ）

COPDの認知度は、「知らなかった」が39.9%と最も高く、次いで「名前は知っていたが詳しいことはわからない」が33.1%、「知っていた」が26.1%となっています。

年齢別にみると、<30代>は「知っていた」が38.6%となっています。<20代まで>は「知らなかった」が52.5%となっています。

**COPDの認知度／年齢**



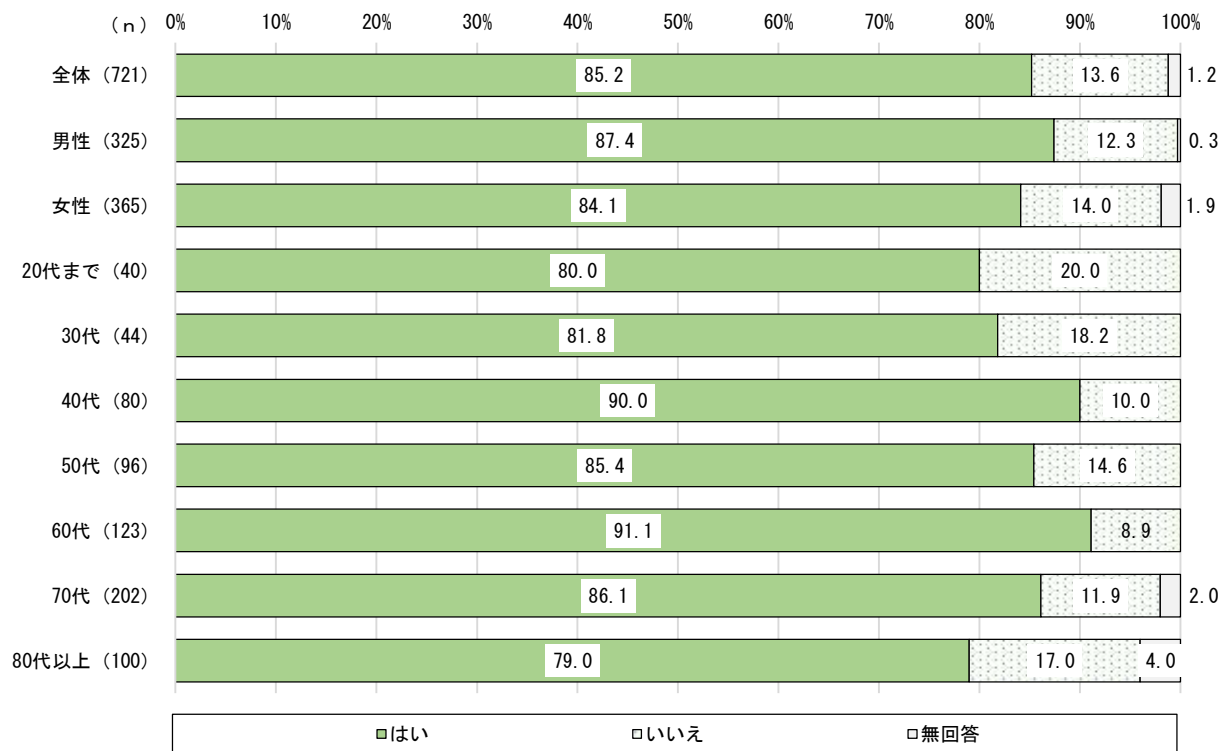
## (3) 受動喫煙について

問31 喫煙をする際、「望まない受動喫煙を生じさせることがないよう周囲の状況に配慮しなければならない」配慮義務があることをご存知ですか。(改正健康増進法第27条)  
(○は1つだけ)

「望まない受動喫煙を生じさせることがないよう周囲の状況に配慮しなければならない」配慮義務の認知度について、「はい」が85.2%と高く、「いいえ」が13.6%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「はい」が87.4%と＜女性＞の84.1%よりやや高くなっています。

年齢別にみると、＜40代＞と＜60代＞では「はい」が9割以上となっています。一方、＜20代まで＞は「いいえ」が2割となっています。

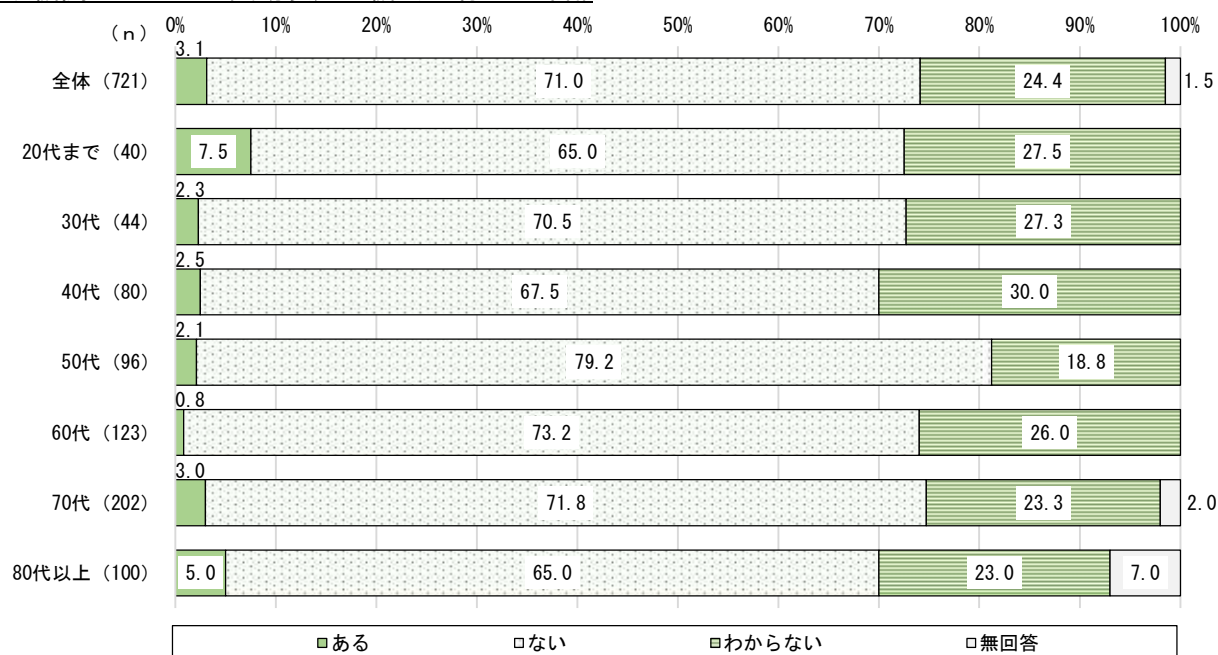
公共の場での受動喫煙防止義務の認知度／性別、年齢

問32 あなたは、行政機関（市役所など）において受動喫煙の機会がありますか。（○は1つだけ）

行政機関における受動喫煙の機会の有無は、「ない」が71.0%と最も高く、次いで「わからない」が24.4%、「ある」が3.1%となっています。

年齢別にみると、全ての年齢で「ない」が6割以上となっています。＜20代まで＞は「ある」が7.5%となっています。

行政機関における受動喫煙の機会の有無／年齢

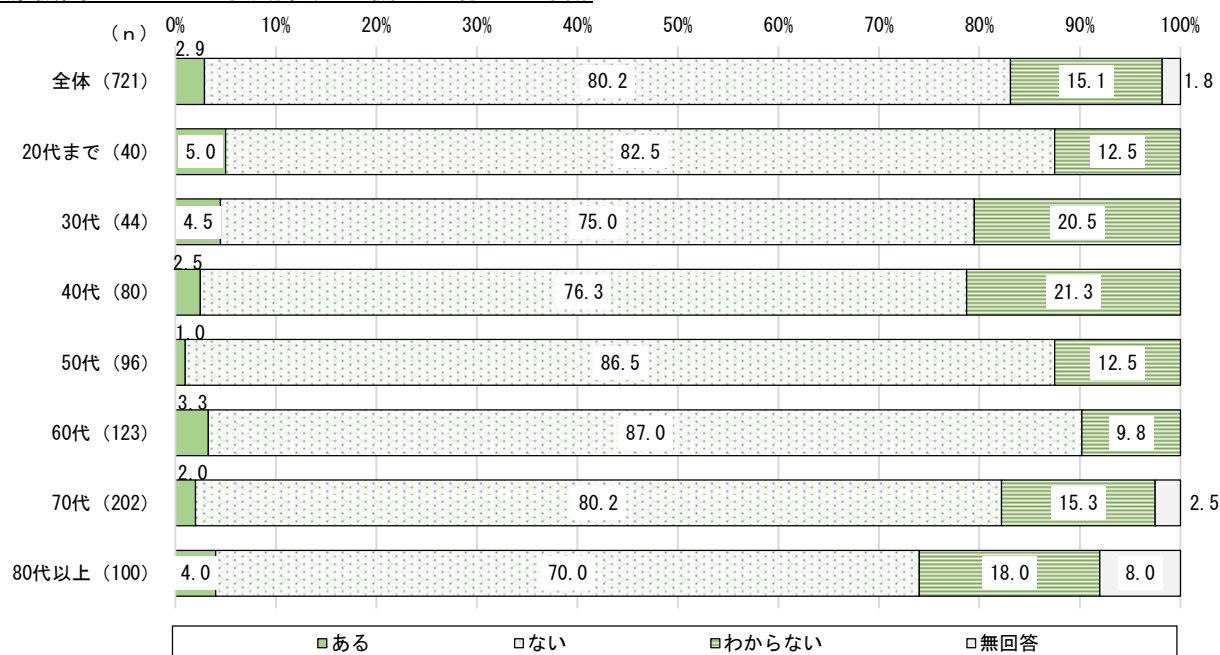


問33 あなたは、医療機関（病院など）において受動喫煙の機会がありますか。（○は1つだけ）

医療機関における受動喫煙の機会の有無は、「ない」が80.2%と最も高く、次いで「わからない」が15.1%、「ある」が2.9%となっています。

年齢別にみると、＜60代＞は「ない」が87.0%、＜50代＞が86.5%、それ以外の全ての年齢でも7割以上となっています。

医療機関における受動喫煙の機会の有無／年齢



## 7. アルコール

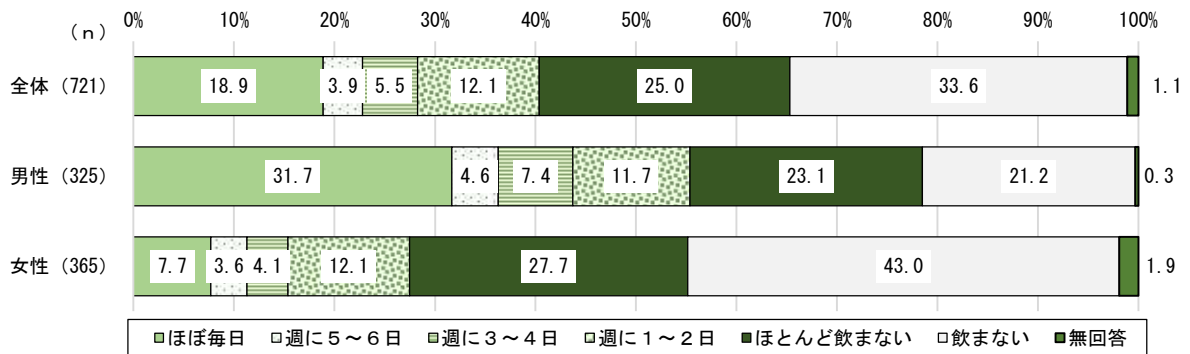
### (1) 飲酒状況

問34 あなたは、アルコールを飲みますか。(〇は1つだけ)

飲酒頻度は、「飲まない」が33.6%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が25.0%、「ほぼ毎日」が18.9%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「ほぼ毎日」が31.7%、＜女性＞は「ほとんど飲まない」が27.7%となっています。

#### 飲酒頻度／性別

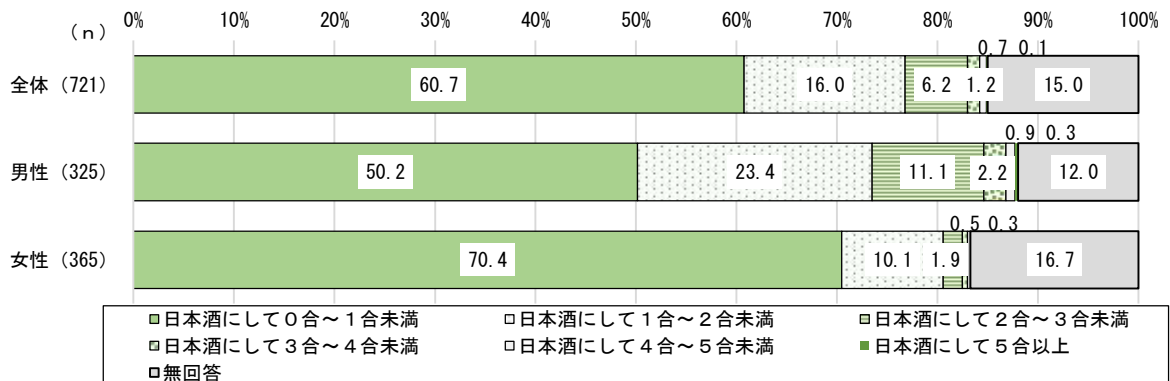


付問34-1 1日(回)の平均飲酒量を教えてください。問34で「ほとんど飲まない」「飲まない」と回答した人は、「日本酒にして0合~1合未満」を選択してください。(〇は1つだけ)

1日(回)の平均飲酒量は、「日本酒にして0合~1合未満」が60.7%と最も高く、次いで「日本酒にして1合~2合未満」が16.0%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「日本酒にして0合~1合未満」が70.4%で、＜男性＞の50.2%より大幅に多くなっています。

#### 1日(回)の平均飲酒量／性別



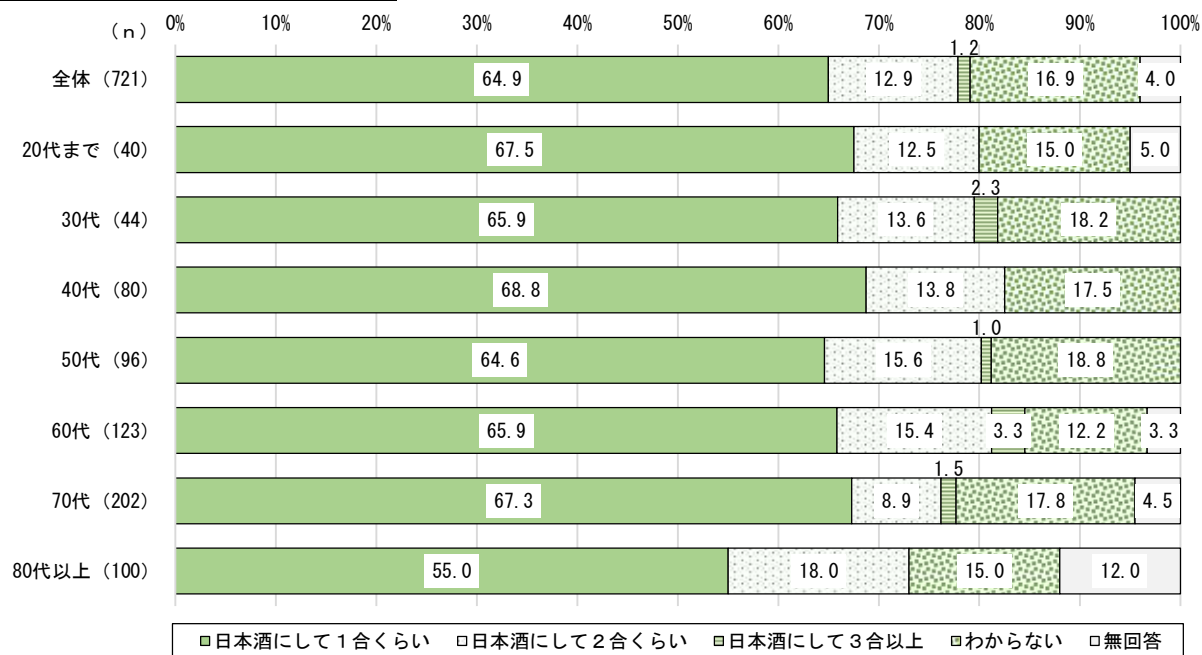
(2) 適度な飲酒についての認識

問35 一般的にいわれている「適度な飲酒」とは、1日(回)どれくらいの量だと思いますか。  
(〇は1つだけ)

適度な飲酒についての認識は、「日本酒にして1合くらい」が64.9%と最も高く、次いで「わからない」が16.9%、「日本酒にして2合くらい」が12.9%となっています。

年齢別にみると、全ての年齢で「日本酒にして1合くらい」が5割以上となっています。

適度な飲酒についての認識／年齢

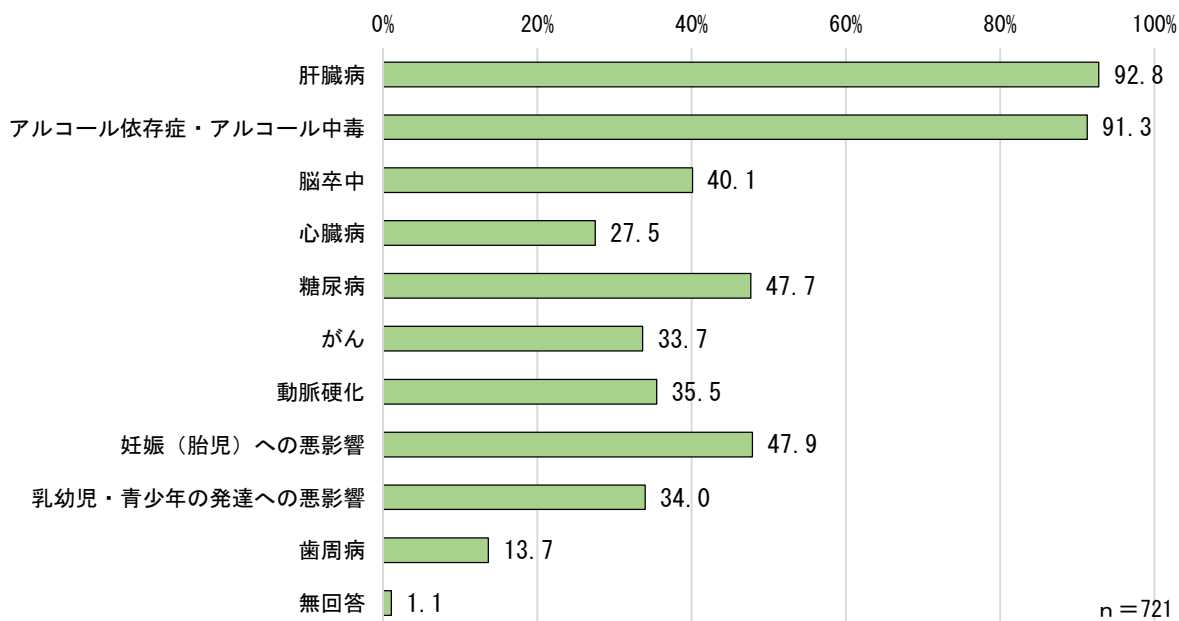


(3) 飲酒と疾病の関係

問36 次の病気のうち、多量の飲酒を長期間することでかかりやすくなると、あなたが思う病気を選んでください。(〇はいくつでも)

長期間の多量飲酒でかかりやすくなると思う病気は、「肝臓病」が92.8%と最も高く、次いで「アルコール依存症・アルコール中毒」が91.3%、「妊娠（胎児）への悪影響」が47.9%となっています。

長期間の多量飲酒でかかりやすくなると思う病気



## 8. 歯の健康

### (1) 歯の本数

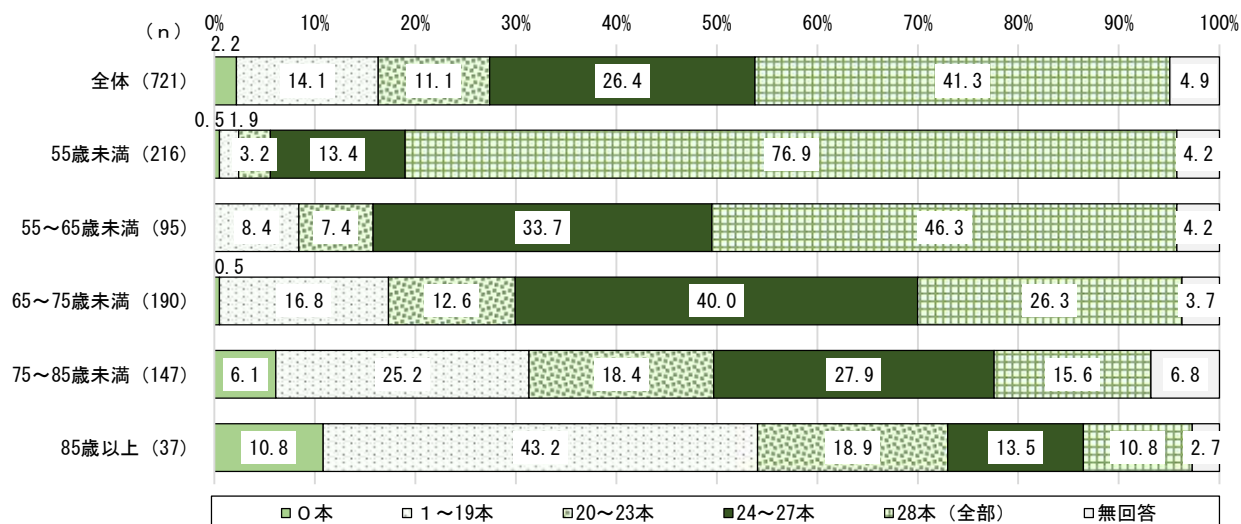
問37 あなたの自分の歯の数は何本ですか。

歯の本数は、「28本（全部）」が41.3%と最も高く、次いで「24～27本」が26.4%、「1～19本」が14.1%となっています。

年齢別にみると、＜55歳未満＞は「28本（全部）」が76.9%、＜55～65歳未満＞が46.3%となっています。＜85歳以上＞は「0本」が10.8%となっています。

＜55～65歳未満＞で24本以上は80.0%、＜75～85歳未満＞で20本以上は61.9%、＜40歳以上＞で19本以下は18.5%となっています。

#### 歯の本数／年齢





(2) 咀嚼

問38 あなたは、食べ物をかんで食べる時、どのような状態ですか。(○は1つだけ)

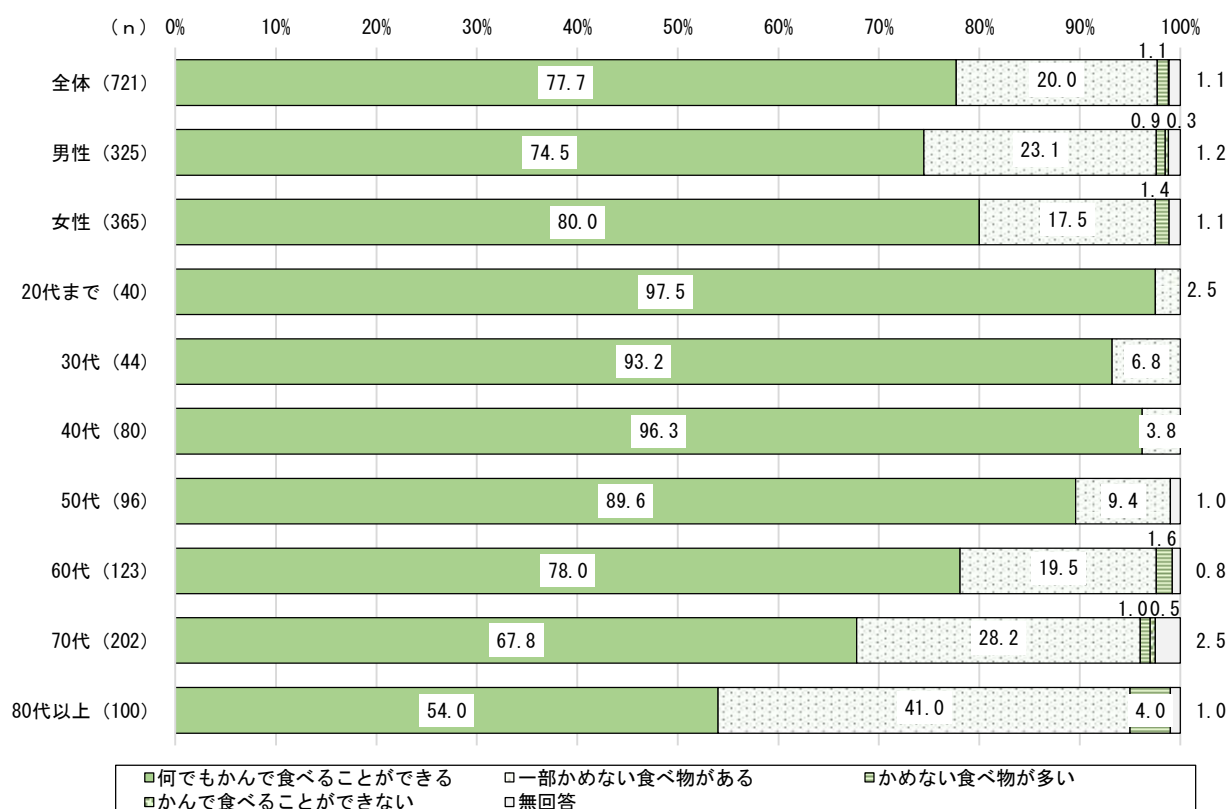
食べ物をかんで食べる時の状態は、「何でもかんで食べることができる」が77.7%と最も高く、次いで「一部かめない食べ物がある」が20.0%、「かめない食べ物が多い」が1.1%となっている。

性別にみると、＜女性＞は「何でもかんで食べることができる」が80.0%と、＜男性＞の74.5%より多くなっています。

年齢別にみると、＜20代まで＞、＜30代＞、＜40代＞、＜50代＞は「何でもかんで食べることができる」が約9割以上となっています。＜80代以上＞は「一部かめない食べ物がある」が41.0%となっています。

＜50代以上＞の「何でもかんで食べることができる」割合は71.6%となっています。

咀嚼の状態／性別、年齢

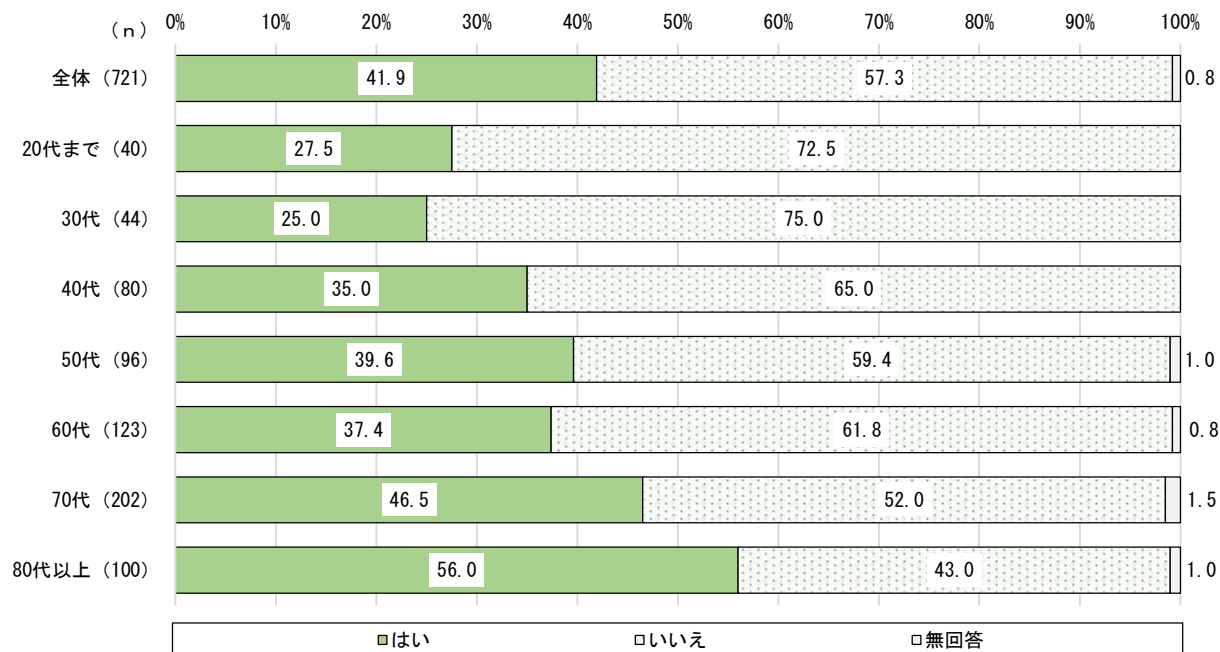


## (3) 歯や歯ぐきの健康のための取組み

問39 現在、歯科医院に通院していますか。(〇は1つだけ)

歯科医院への通院状況は、「いいえ」が57.3%と最も高く、次いで「はい」が41.9%となっています。年齢別にみると、<20代まで>は「はい」が27.5%、<30代>が25.0%、それ以外の年齢は3割以上となっています。<30代>は「いいえ」が75.0%となっています。

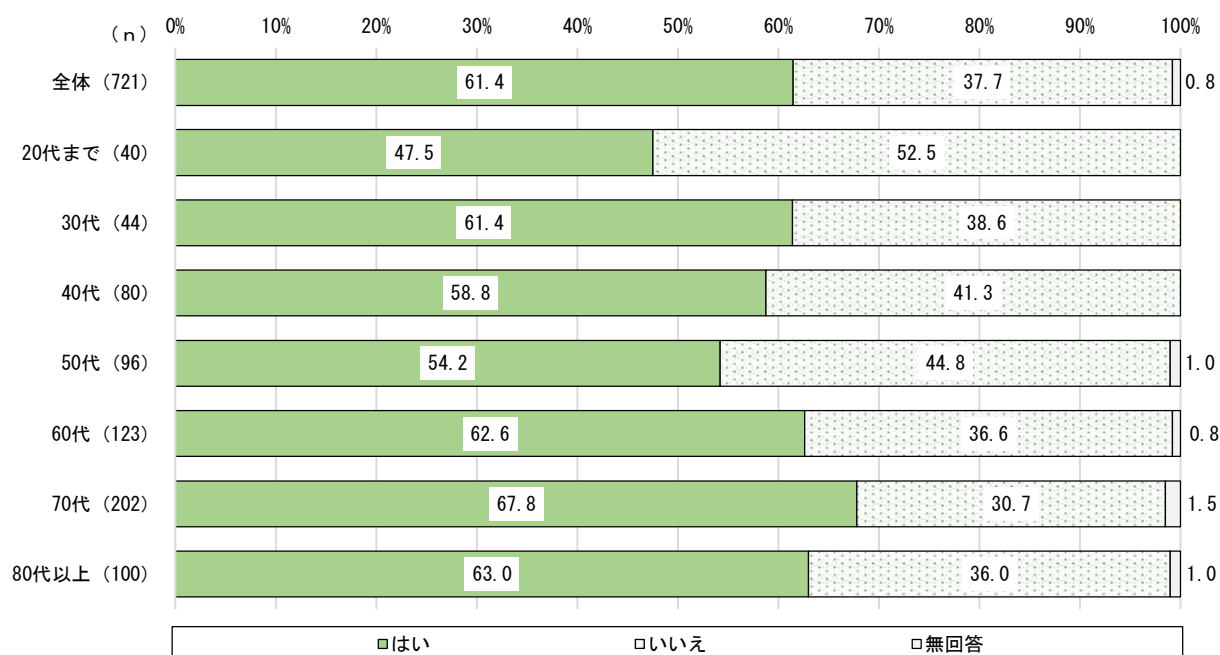
歯科医院への通院状況／年齢



問40 あなたは、この1年間に歯の健康診査を受けていますか。(○は1つだけ)

この1年間に歯の健康診査を受けたかは、「はい」が61.4%、「いいえ」が37.7%となっています。  
 年齢別にみると、<70代>は「はい」が67.8%と最も多くなっています。<20代まで>は「いいえ」が52.5%で「はい」(47.5%)より多くなっています。

歯科健診の受診状況/年齢

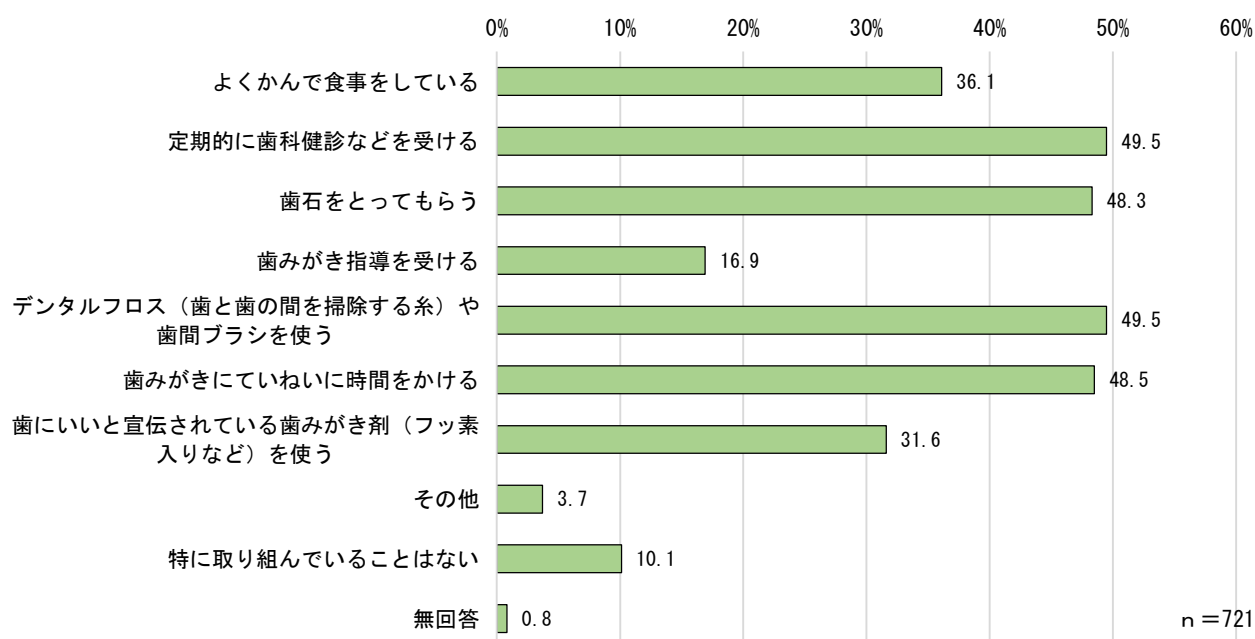


問41 ふだん、歯や歯ぐきの健康のために、どのようなことに取り組んでいますか。  
(〇はいくつでも)

歯や歯ぐきの健康のための取り組みは、「定期的に歯科健診などを受ける」及び「デンタルフロス（歯と歯の間を掃除する糸）や歯間ブラシを使う」が49.5%と最も高く、次いで「歯みがきにていねいに時間をかける」が48.5%となっています。

年齢別にみると、＜40代＞と＜70代＞は「定期的に歯科健診などを受ける」が5割以上、＜60代＞と＜70代＞は「歯石をとってもらう」で5割以上、＜50代＞と＜60代＞、＜70代＞は「デンタルフロス（歯と歯の間を掃除する糸）や歯間ブラシを使う」で5割以上となっています。＜40代＞は「歯みがきにていねいに時間をかける」で51.3%となっています。

#### 歯や歯ぐきの健康のための取り組み／年齢



第2章 調査結果の詳細

(n)	よくかんで食事をしている	定期的に歯科健診などを受ける	歯石をとってもらう	歯みがき指導を受ける	デンタルフロス（歯と歯の間を掃除する糸）や歯間ブラシを使う	歯みがきについていねいに時間をかける	歯にいいと宣伝されている歯みがき剤（フッ素入りなど）を使う	その他	特に取り組んでいることはない	無回答
全体 (721)	260 36.1	357 49.5	348 48.3	122 16.9	357 49.5	350 48.5	228 31.6	27 3.7	73 10.1	6 0.8
20代まで (40)	14 35.0	11 27.5	13 32.5	3 7.5	16 40.0	19 47.5	10 25.0	3 7.5	6 15.0	0 0.0
30代 (44)	12 27.3	19 43.2	18 40.9	2 4.5	21 47.7	28 63.6	21 47.7	3 6.8	4 9.1	0 0.0
40代 (80)	22 27.5	42 52.5	35 43.8	11 13.8	38 47.5	41 51.3	22 27.5	2 2.5	7 8.8	0 0.0
50代 (96)	31 32.3	42 43.8	47 49.0	14 14.6	55 57.3	50 52.1	32 33.3	3 3.1	8 8.3	1 1.0
60代 (123)	42 34.1	61 49.6	62 50.4	21 17.1	64 52.0	63 51.2	42 34.1	2 1.6	17 13.8	1 0.8
70代 (202)	74 36.6	114 56.4	111 55.0	50 24.8	106 52.5	94 46.5	57 28.2	8 4.0	17 8.4	3 1.5
80代以上 (100)	48 48.0	48 48.0	43 43.0	15 15.0	44 44.0	37 37.0	29 29.0	5 5.0	10 10.0	1 1.0

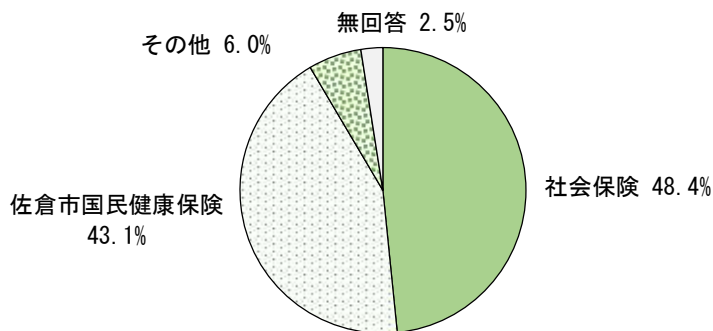
## 9. 生活習慣病

### (1) 保険の種類

問42 あなたの健康保険の種類を教えてください。(○は1つだけ)

保険の種類は、「社会保険」が48.4%と最も高く、次いで「佐倉市国民健康保険」が43.1%、「その他」が6.0%となっています。

#### 保険の種類



n = 721

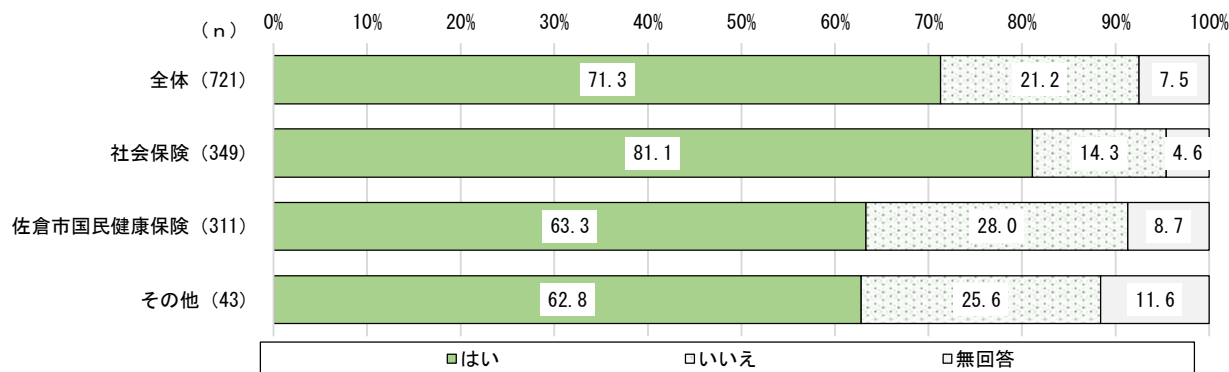
### (2) 健康診断や健康診査の受診状況

問43 あなたはこの1年間に健康診断や健康診査を受けましたか。(○は1つだけ)

健康診断・健康診査の受診の有無は、「はい」が71.3%と最も高く、次いで「いいえ」が21.2%となっています。

保険の種類別にみると、＜社会保険＞は「はい」が81.1%、＜佐倉市国民健康保険＞は「はい」が63.3%となっています。

#### 健康診断・健康診査の受診の有無／保険の種類



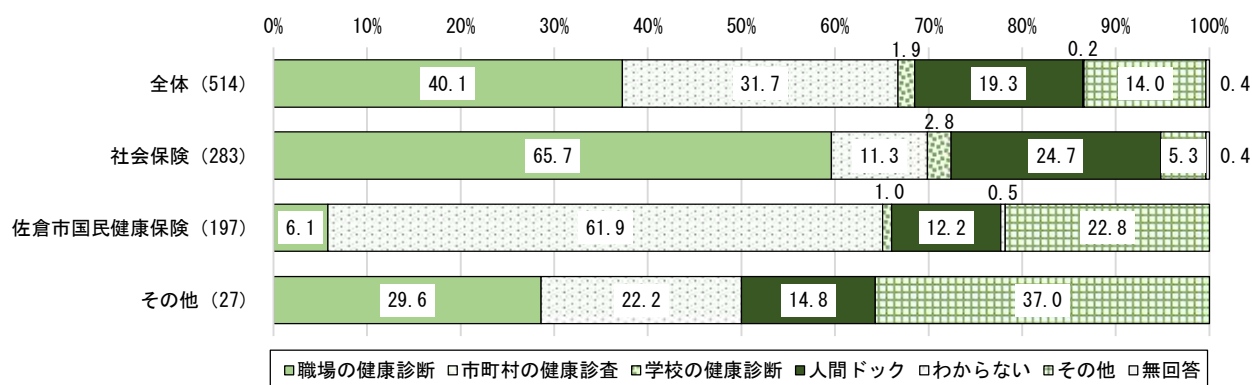
付問43-1 (問43で「はい」と回答した人のみ)

健康診断や健康診査(血液検査・尿検査など)をどこで受けたか教えてください。  
(〇はいくつでも)

受診した健康診断・診査の種類は、「職場の健康診断」が40.1%と最も高く、次いで「市町村の健康診査」が31.7%、「人間ドック」が19.3%となっています。

保険種類別にみると、＜社会保険＞は「職場の健康診断」が65.7%、「人間ドック」が24.7%となっています。＜佐倉市国民健康保険＞は「市町村の健康診査」が61.9%、「その他」が22.8%となっています。

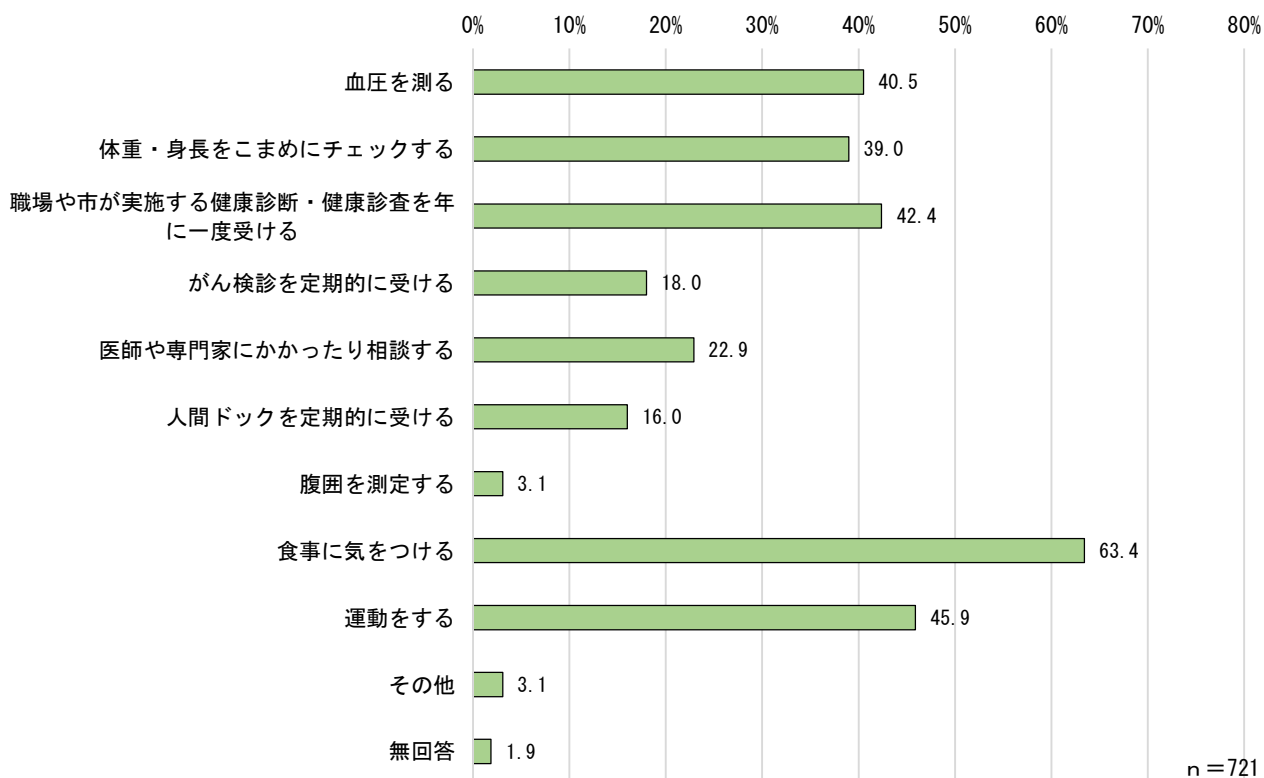
受診した健康診断・診査の種類／保険種類



## (3) 生活習慣病予防のためのこころがけ

問44 生活習慣病予防のために、心がけていることは何ですか。(〇はいくつでも)

生活習慣病予防のためのこころがけは、「食事に気をつける」が63.4%と最も高く、次いで「運動をする」が45.9%、「職場や市が実施する健康診断・健康診査を年に一度受ける」が42.4%となっています。

生活習慣病予防のためのこころがけ

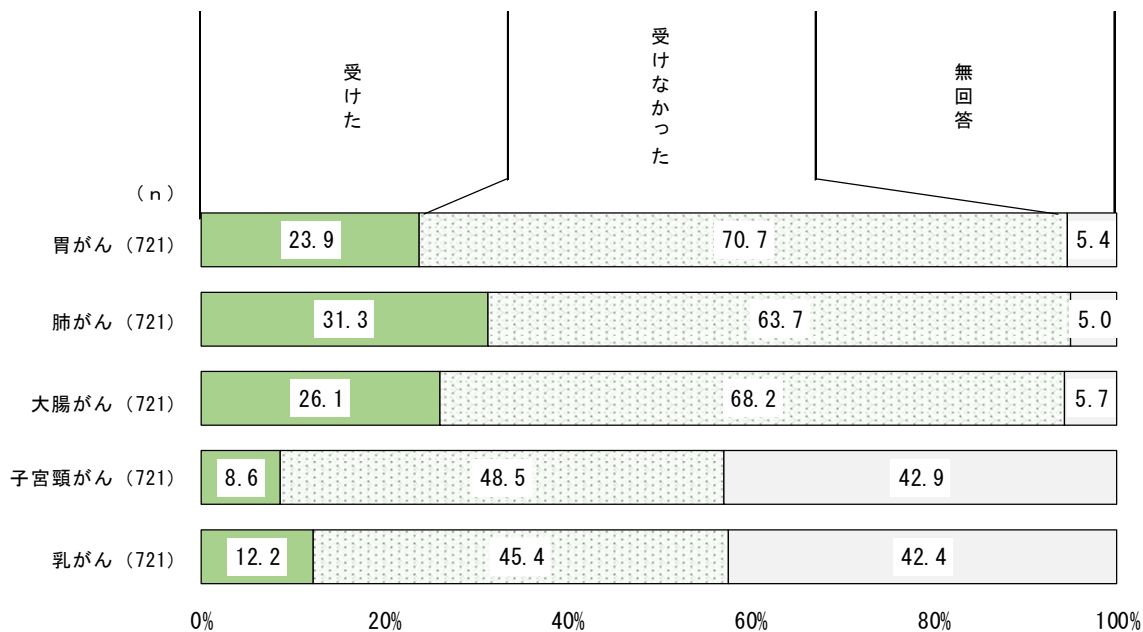


(4) がん検診の受診状況

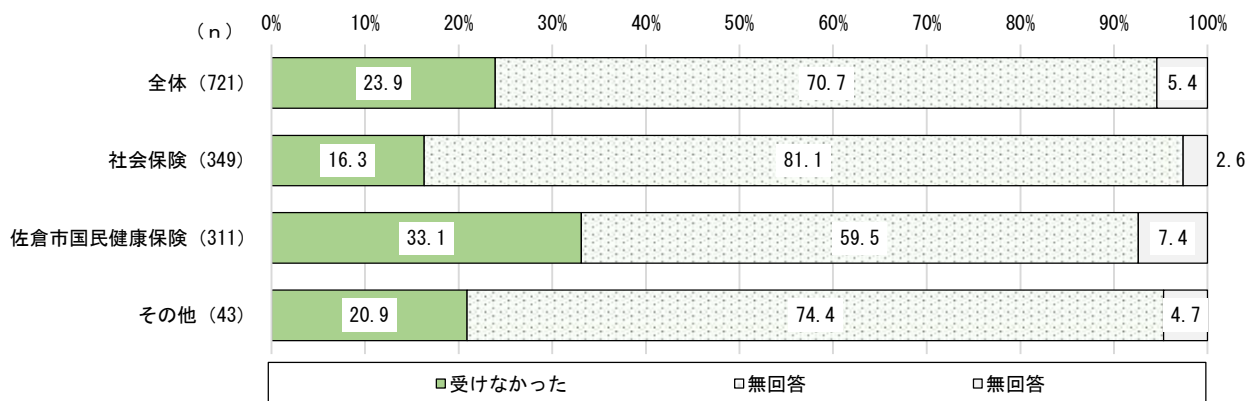
問45 あなたはこの1年間に市のがん検診を受けましたか。(〇はそれぞれ1つだけ)

がん検診の受診状況は、「受けた」は最も多い<肺がん>の31.3%、次いで<大腸がん>の26.1%、<胃がん>の23.9%、<乳がん>の12.2%、<子宮頸がん>の8.6%となっています。

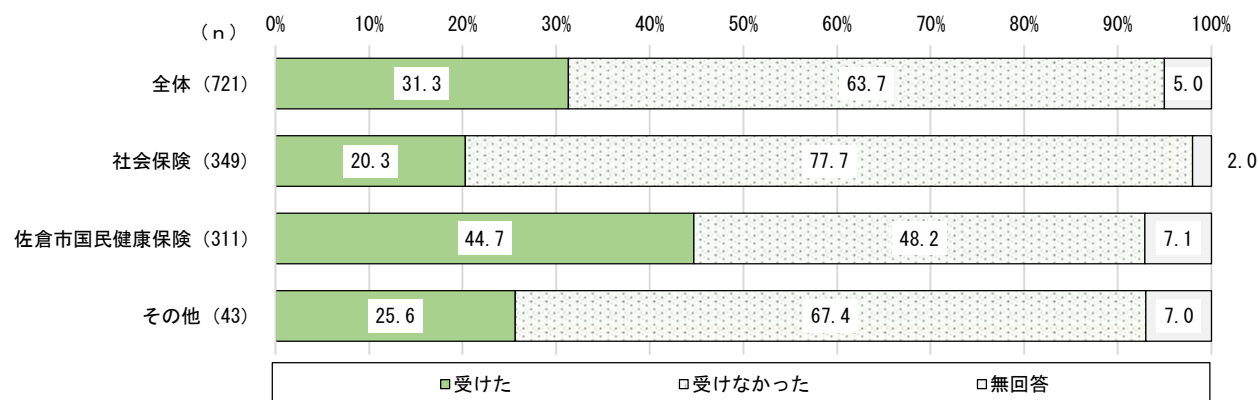
がん検診の受診状況



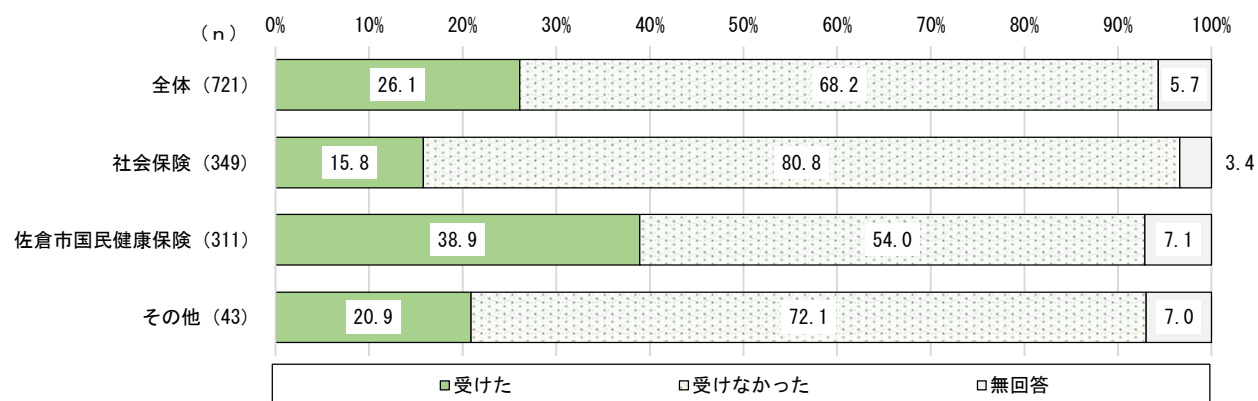
胃がん／保険の種類



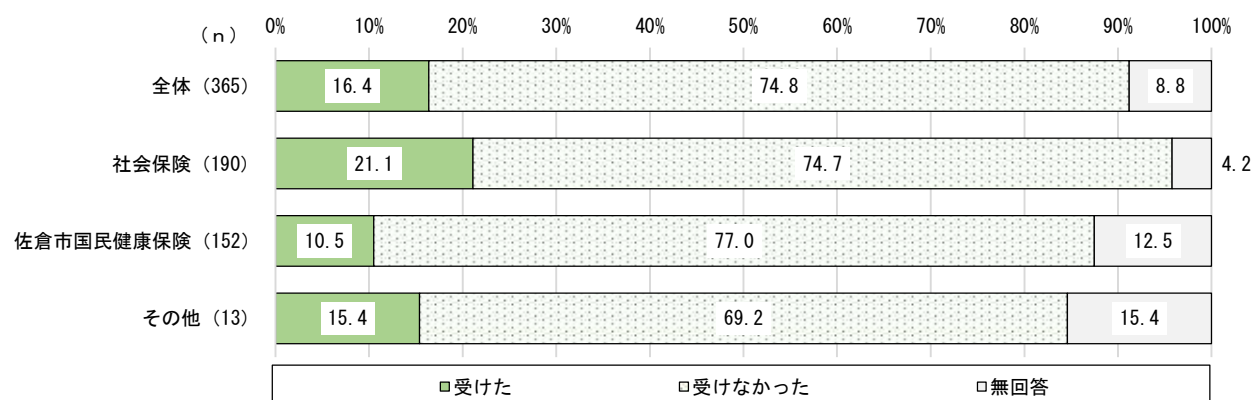
肺がん／保険種類



大腸がん／保険種類

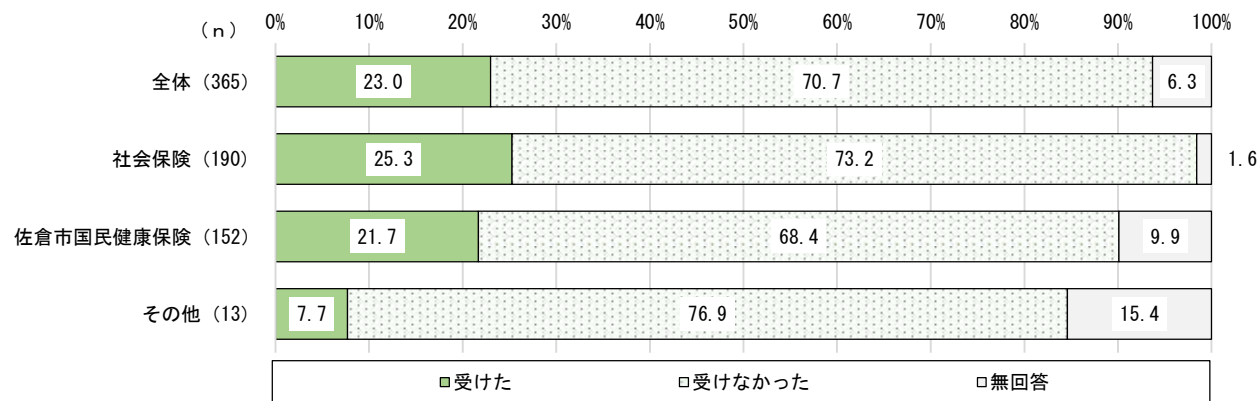


子宮頸がん／保険種類



第2章 調査結果の詳細

乳がん／保険種類



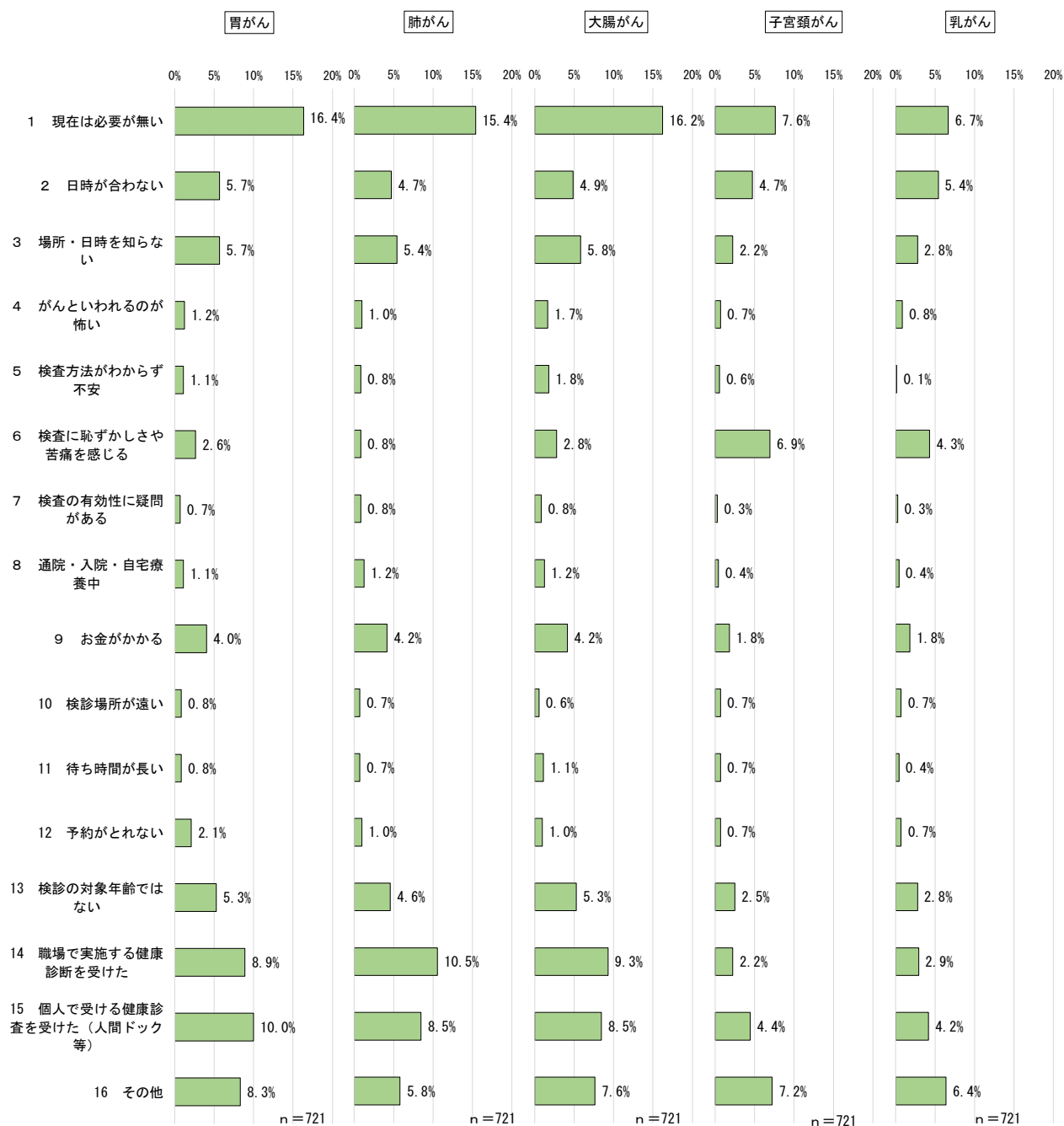
問46 (問45で「受けなかった」と回答した人のみ)

それぞれのがん検診について、市のがん検診を受けなかった理由を選んでください。

(〇はいくつでも)

がん検診を受けなかった理由は、全ての項目において「現在は必要がない」が約1割～2割と最も多くなっています。次いで＜肺がん＞は「市の検査以外で受診」が10.5%となっています。＜胃がん＞は「個人で受ける健康診査を受けた（人間ドック等）」が10.0%となっています。

がん検診を受けなかった理由



無回答除く

## 第2章 調査結果の詳細

### 胃がん

	全体	社会保険	佐倉市国民健康保険	その他
(%)				
1 現在は必要が無い	16.4	17.8	15.4	18.6
2 日時が合わない	5.7	9.5	2.6	4.7
3 場所・日時を知らない	5.7	8.9	2.6	9.3
4 がんといわれるのが怖い	1.2	1.1	1.6	0.0
5 検査方法がわからず不安	1.1	1.1	1.3	0.0
6 検査に恥ずかしさや苦痛を感じる	2.6	4.6	0.6	4.7
7 検査の有効性に疑問がある	0.7	0.9	0.6	0.0
8 通院・入院・自宅療養中	1.1	0.3	2.3	4.7
9 お金がかかる	4.0	5.4	3.2	4.7
10 検診場所が遠い	0.8	1.1	1.0	0.0
11 待ち時間が長い	0.8	1.4	0.6	0.0
12 予約がとれない	2.1	1.4	3.5	0.0
13 検診の対象年齢ではない	5.3	8.0	2.9	4.7
14 職場で実施する健康診断を受けた	8.9	17.8	1.0	2.3
15 個人で受ける健康診査を受けた (人間ドック等)	10.0	14.3	7.7	14.0
16 その他	8.3	6.3	10.9	9.3

### 肺がん

	全体	社会保険	佐倉市国民健康保険	その他
(%)				
1 現在は必要が無い	15.4	18.9	13.2	16.3
2 日時が合わない	4.7	7.7	1.9	4.7
3 場所・日時を知らない	5.4	9.2	1.9	7.0
4 がんといわれるのが怖い	1.0	1.1	1.3	0.0
5 検査方法がわからず不安	0.8	0.9	1.0	0.0
6 検査に恥ずかしさや苦痛を感じる	0.8	1.4	0.3	0.0
7 検査の有効性に疑問がある	0.8	1.4	0.3	0.0
8 通院・入院・自宅療養中	1.2	0.0	1.9	4.7
9 お金がかかる	4.2	5.4	3.5	2.3
10 検診場所が遠い	0.7	1.1	0.6	0.0
11 待ち時間が長い	0.7	1.4	0.3	0.0
12 予約がとれない	1.0	0.9	1.3	0.0
13 検診の対象年齢ではない	4.6	6.9	2.9	2.3
14 職場で実施する健康診断を受けた	10.5	20.9	1.3	4.7
15 個人で受ける健康診査を受けた (人間ドック等)	8.5	12.3	7.4	9.3
16 その他	5.8	5.2	7.4	7.0

## 大腸がん

	全体	社会保険	佐倉市国民 健康保険	その他
(%)				
1 現在は必要が無い	16.2	18.9	13.5	18.6
2 日時が合わない	4.9	7.4	1.9	4.7
3 場所・日時を知らない	5.8	9.2	2.9	7.0
4 がんといわれるのが怖い	1.7	1.7	1.9	0.0
5 検査方法がわからず不安	1.8	2.0	2.3	0.0
6 検査に恥ずかしさや苦痛を感じる	2.8	4.6	1.6	0.0
7 検査の有効性に疑問がある	0.8	1.1	0.6	0.0
8 通院・入院・自宅療養中	1.2	0.3	1.9	4.7
9 お金がかかる	4.2	5.4	3.2	2.3
10 検診場所が遠い	0.6	0.9	0.3	0.0
11 待ち時間が長い	1.1	1.7	0.6	0.0
12 予約がとれない	1.0	0.9	1.3	0.0
13 検診の対象年齢ではない	5.3	7.7	3.2	2.3
14 職場で実施する健康診断を受けた	9.3	17.5	1.6	4.7
15 個人で受ける健康診査を受けた (人間ドック等)	8.5	13.2	6.4	8.5
16 その他	7.6	7.2	9.0	9.3

## 子宮頸がん

	全体	社会保険	佐倉市国民 健康保険	その他
(%)				
1 現在は必要が無い	7.6	5.7	11.3	7.0
2 日時が合わない	4.7	6.0	3.9	2.3
3 場所・日時を知らない	2.2	3.4	1.3	2.3
4 がんといわれるのが怖い	0.7	0.9	1.0	0.0
5 検査方法がわからず不安	0.6	0.9	0.3	0.0
6 検査に恥ずかしさや苦痛を感じる	6.9	7.4	6.8	7.0
7 検査の有効性に疑問がある	0.3	0.6	0.0	0.0
8 通院・入院・自宅療養中	0.4	0.0	1.0	0.0
9 お金がかかる	1.8	2.6	1.0	2.3
10 検診場所が遠い	0.7	0.9	0.6	0.0
11 待ち時間が長い	0.7	1.1	0.3	0.0
12 予約がとれない	0.7	0.6	1.0	0.0
13 検診の対象年齢ではない	2.5	3.2	3.5	0.0
14 職場で実施する健康診断を受けた	2.2	4.3	0.3	0.0
15 個人で受ける健康診査を受けた (人間ドック等)	4.4	7.7	2.6	0.0
16 その他	7.2	6.6	9.0	11.6

第2章 調査結果の詳細

乳がん

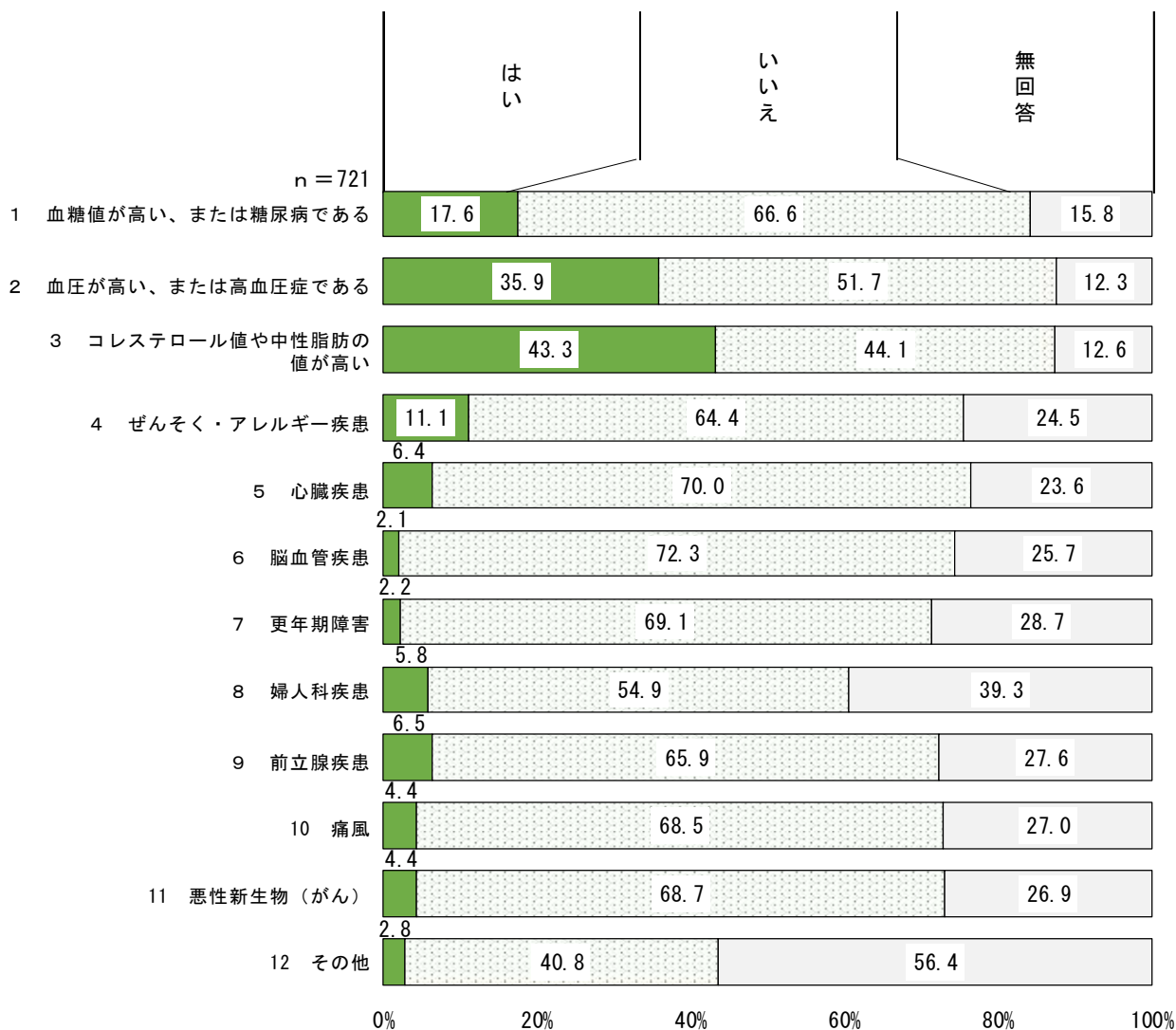
	全体	社会保険	佐倉市国民健康保険	その他
(%)				
1 現在は必要が無い	6.7	5.4	10.3	4.7
2 日時が合わない	5.4	8.0	3.2	4.7
3 場所・日時を知らない	2.8	4.0	1.9	2.3
4 がんといわれるのが怖い	0.8	0.9	1.3	0.0
5 検査方法がわからず不安	0.1	0.0	0.3	0.0
6 検査に恥ずかしさや苦痛を感じる	4.3	4.6	4.2	7.0
7 検査の有効性に疑問がある	0.3	0.6	0.0	0.0
8 通院・入院・自宅療養中	0.4	0.6	0.3	0.0
9 お金がかかる	1.8	2.6	1.3	2.3
10 検診場所が遠い	0.7	0.9	1.0	0.0
11 待ち時間が長い	0.4	1.1	0.0	0.0
12 予約がとれない	0.7	0.6	1.0	0.0
13 検診の対象年齢ではない	2.8	2.6	3.5	2.3
14 職場で実施する健康診断を受けた	2.9	6.0	0.3	0.0
15 個人で受ける健康診査を受けた (人間ドック等)	4.2	7.7	1.9	0.0
16 その他	6.4	6.6	6.1	9.3

(5) 医師や健康診断の結果による指摘

問47 あなたは、これまでに医師や健康診断の結果などから、次のようなことをいわれたことがありますか。(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

医師からの所見・健康診断の結果は、＜コレステロール値や中性脂肪の値が高い＞は「はい」43.4%、＜血圧が高い、または高血圧症である＞は「はい」が35.9%となっています。＜血糖値が高い、または糖尿病である＞は「はい」が17.6%、＜その他＞を除く他項目は「いいえ」が半数以上となっています。

医師からの所見・健康診断結果

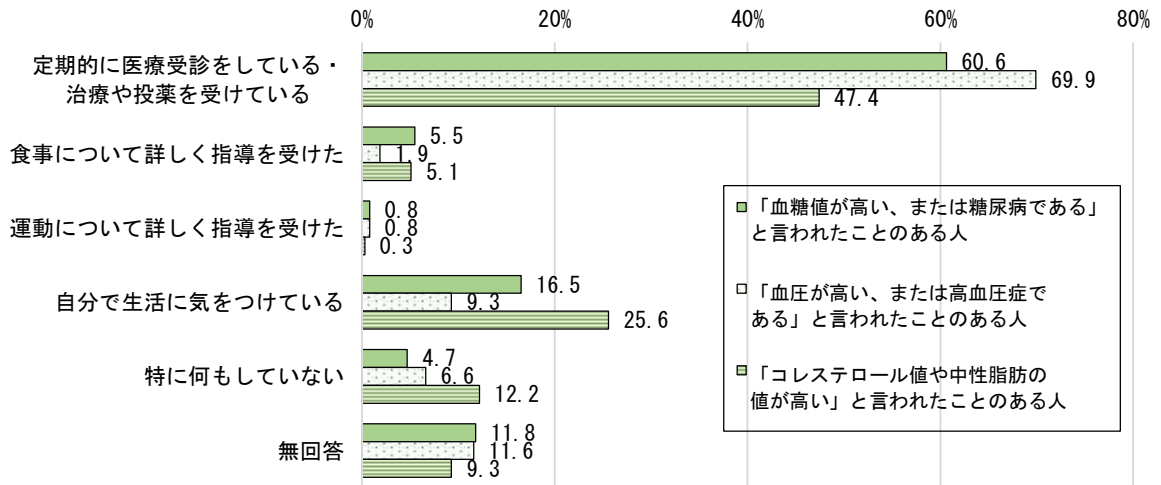




付問47-1 (問47の1~3で「はい」と回答した人のみ)  
 どのような対応をしましたか。(〇は1つだけ)

医師からの所見・健康診断結果への対応は、<「血圧が高い、または高血圧症である」と言われたことのある人>は「定期的に医療受診をしている・治療や投薬を受けている」が69.9%、<「コレステロール値や中性脂肪の値が高い」と言われたことのある人>は「自分で生活に気をつけている」が25.6%となっています。

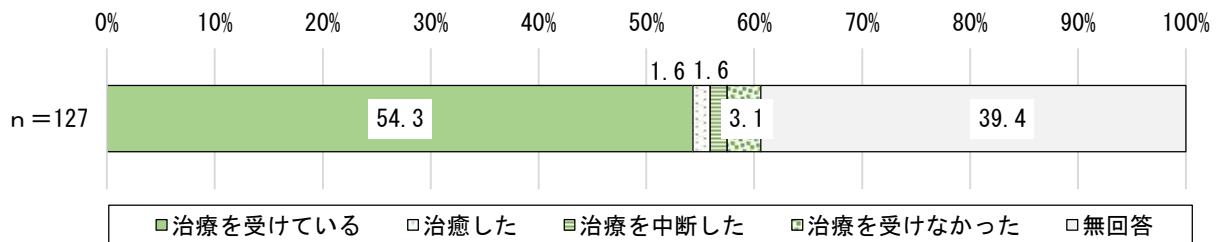
医師からの所見・健康診断結果への対応



付問47-1-1 (糖尿病と診断された人のみ)

現在、治療（食事・運動療法を含む）を受けていますか。(〇は1つだけ)

「治療を受けている」が54.3%と最も高く、次いで「治療を受けなかった」が39.4%となっています。



付問47-1-1-1 (問47-1-1で「治療を中断した」と回答した人のみ)  
 糖尿病の治療を中断した理由を選んでください。(〇はいくつでも)

糖尿病の「治療を中断した」という人の理由は、「以前より検査値が良くなったから」、「新型コロナウイルス感染症の流行があったから」となっています。

付問47-1-1-2 (問47-1-1で「治療を受けなかった」と回答した人のみ)  
 糖尿病の治療を受けなかった理由を選んでください。(〇はいくつでも)

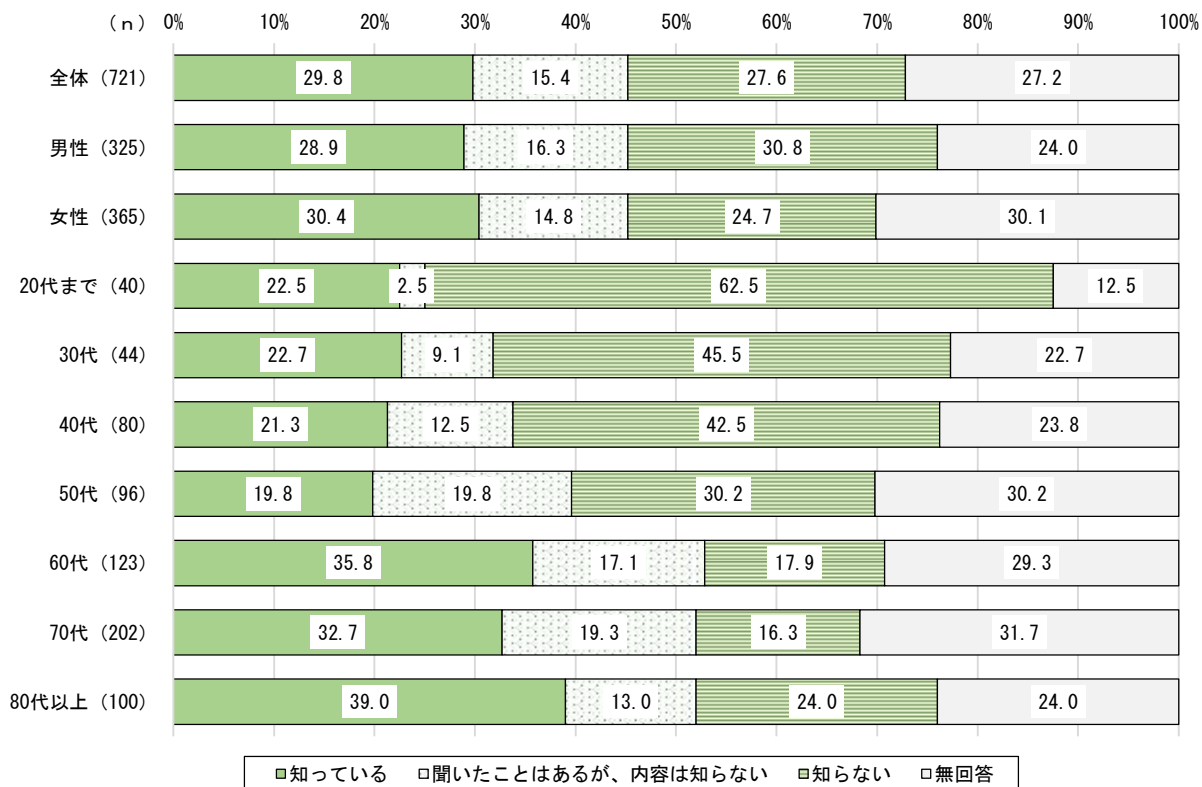
糖尿病の「治療を受けなかった」という人の理由は、「検査値がそれほど悪い値とは思わないから」、「その他」となっています。

問48 糖尿病の3大合併症が、「し(神経障害)」「め(目の網膜症)」「じ(腎症)」であることを知っていましたか。(〇は1つだけ)

糖尿病の3大合併症が、「し(神経障害)」「め(目の網膜症)」「じ(腎症)」であることの認知度は、「知っている」が29.8%と最も高く、次いで「知らない」が27.6%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が15.4%となっています。

性別にみると、<男性>は「知らない」が30.8%、<女性>は「知っている」が30.4%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>は「知らない」が62.5%となっています。<60代>と<70代>、<80代以上>は「知っている」3割以上となっています。

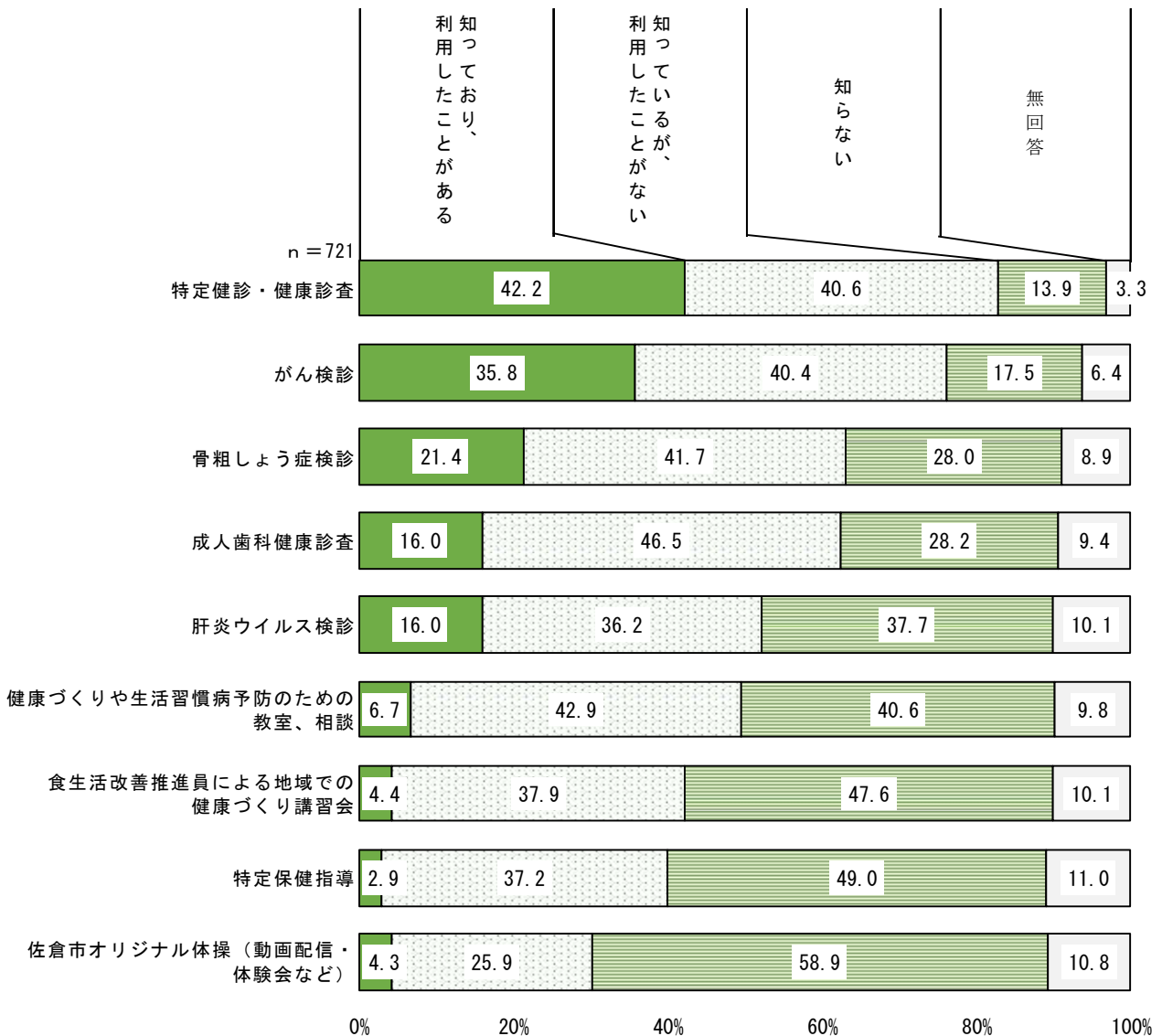


(6) 市が実施する保健サービスの認知・利用状況

問49 あなたは、市が健康づくりのために実施している次のような保健サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。(それぞれの保健サービスについて、当てはまる番号1つだけに○)

市が実施している保健サービスの認知・利用については、＜特定健診・健康診査＞は「知っており、利用したことがある」が42.2%、＜がん検診＞が35.8%、「知っているが、利用したことがない」が40.4%となっています。＜肝炎ウイルス検診＞と＜健康づくりや生活習慣病予防のための教室、相談＞、＜食生活改善推進員による地域での健康づくり講習会＞は「知らない」が3割以上となっています。

市が実施している保健サービスの認知・利用について

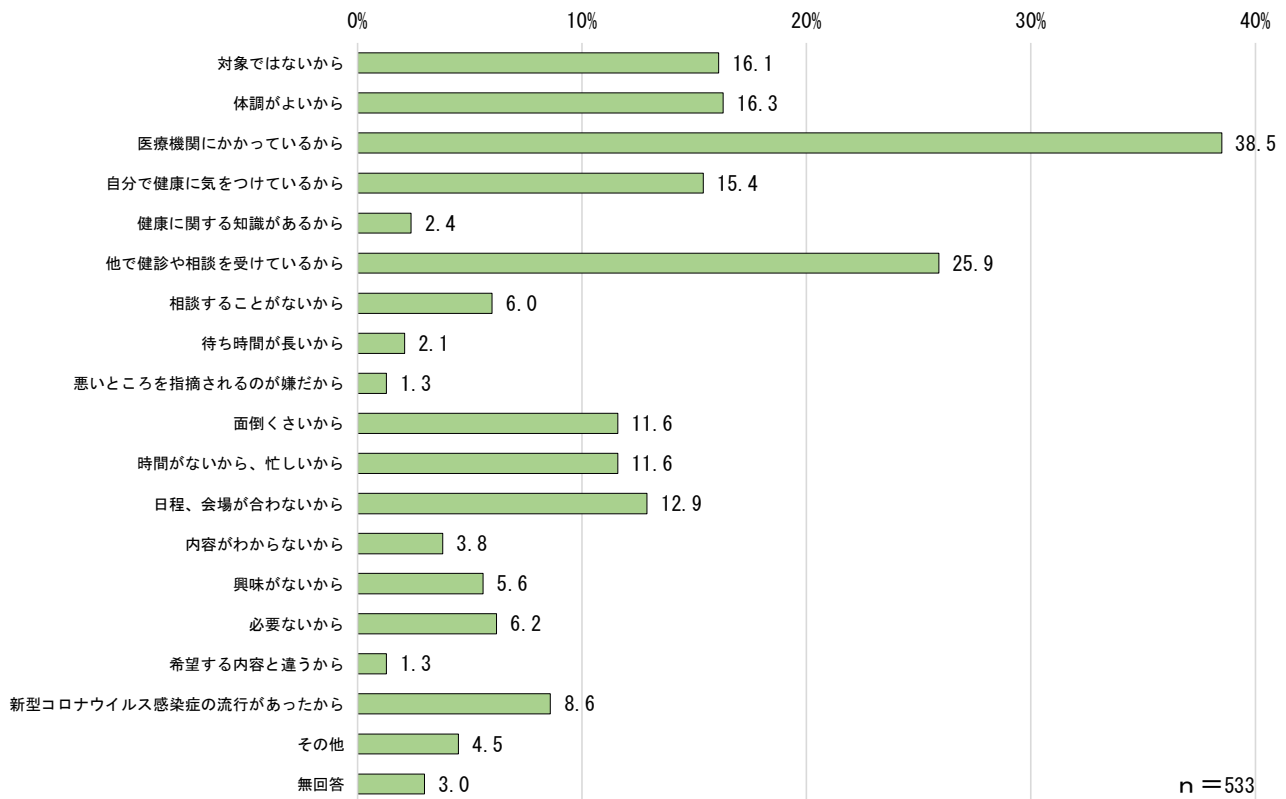


付問49-1 (問49で「知っているが利用したことがない」が1つでもある人のみ)

その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

市が実施している保健サービスを「知っているが利用したことがない」という人の理由は、「医療機関にかかっているから」が38.5%と最も多く、次いで「他で健診や相談を受けているから」が25.9%、「体調がよいから」が16.3%となっています。

知っているが利用したことの理由／性別、年齢



(n)	対象ではないから	体調がよいから	医療機関にかかっているから	自分で健康に気をつけているから	健康に関する知識があるから	他で健診や相談を受けているから	相談することがないから	待ち時間が長いから	悪いところを指摘されるのが嫌だから	面倒くさいから	時間がないから、忙しいから	日程、会場が合わないから	内容がわからないから	興味がなから	必要ないから	希望する内容と違うから	新型コロナウイルス感染症の流行があったから	その他	無回答
全体 (533)	16.1	16.3	38.5	15.4	2.4	25.9	6.0	2.1	1.3	11.6	11.6	12.9	3.8	5.6	6.2	1.3	8.6	4.5	3.0
男性 (221)	14.9	15.8	45.7	14.9	1.8	25.8	6.8	0.5	1.8	12.2	5.9	8.6	3.6	8.6	8.1	1.4	6.8	3.2	1.8
女性 (296)	17.2	16.2	32.8	15.2	3.0	27.0	5.1	2.4	1.0	11.1	15.9	16.2	4.1	3.7	4.7	1.4	9.5	5.4	3.4
20代まで (22)	45.5	18.2	0.0	0.0	0.0	13.6	4.5	0.0	0.0	22.7	18.2	9.1	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
30代 (31)	48.4	22.6	9.7	6.5	6.5	22.6	3.2	3.2	3.2	19.4	19.4	12.9	0.0	3.2	6.5	3.2	9.7	0.0	0.0
40代 (63)	23.8	15.9	15.9	7.9	3.2	38.1	7.9	0.0	3.2	15.9	25.4	19.0	9.5	4.8	7.9	1.6	0.0	6.3	1.6
50代 (79)	10.1	11.4	25.3	8.9	0.0	36.7	1.3	3.8	1.3	13.9	25.3	22.8	5.1	2.5	11.4	0.0	6.3	7.6	1.3
60代 (104)	15.4	9.6	43.3	15.4	1.9	27.9	7.7	0.0	0.0	11.5	8.7	14.4	1.9	6.7	3.8	1.9	10.6	3.8	1.0
70代 (157)	10.2	19.1	52.2	22.3	3.8	26.1	7.0	2.5	1.9	10.2	1.9	7.6	3.8	6.4	4.5	1.3	9.6	4.5	2.5
80代以上 (56)	7.1	21.4	66.1	21.4	1.8	7.1	5.4	0.0	0.0	0.0	3.6	5.4	0.0	5.4	3.6	0.0	10.7	3.6	12.5

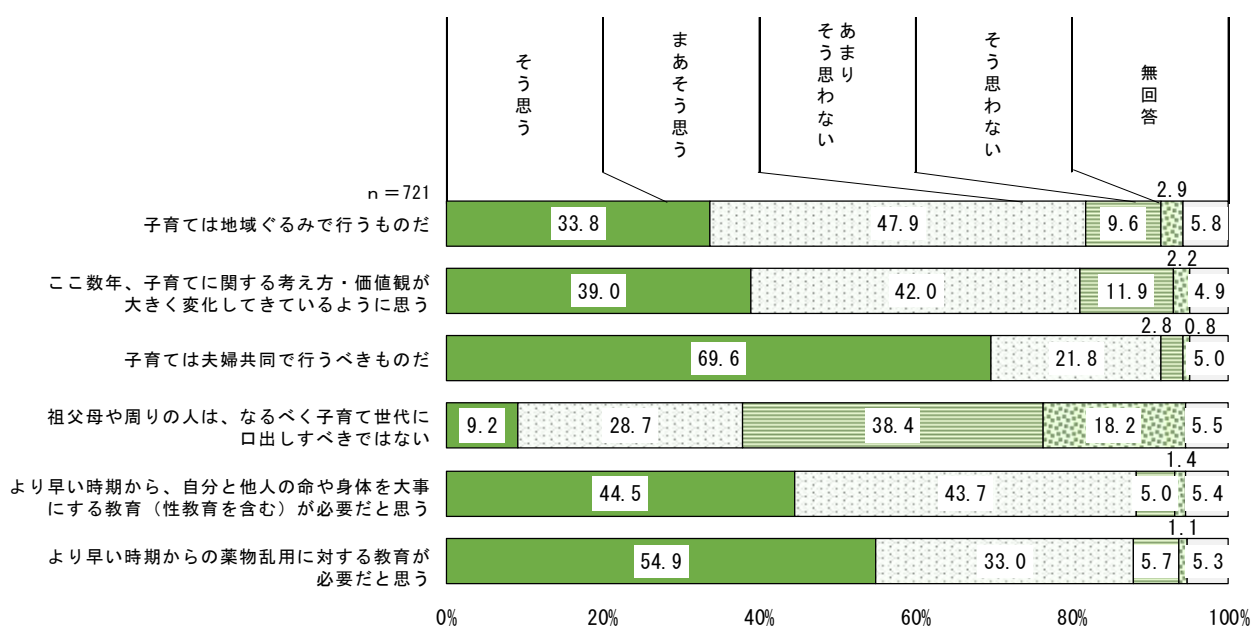
## 10. 子育て

### (1) 子育てに関する考え

問50 以下のそれぞれの意見について、あなたの考えにもっとも近い番号を選んでください。  
(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

子育てに関する考えは、＜子育ては夫婦共同で行うべきものだ＞は「そう思う」が69.6%、＜より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う＞が54.9%となっています。＜祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない＞は「そう思う」と「まあそう思う」の合計は37.9%、「そう思わない」は18.2%となっています。

#### 子育てに関する考え

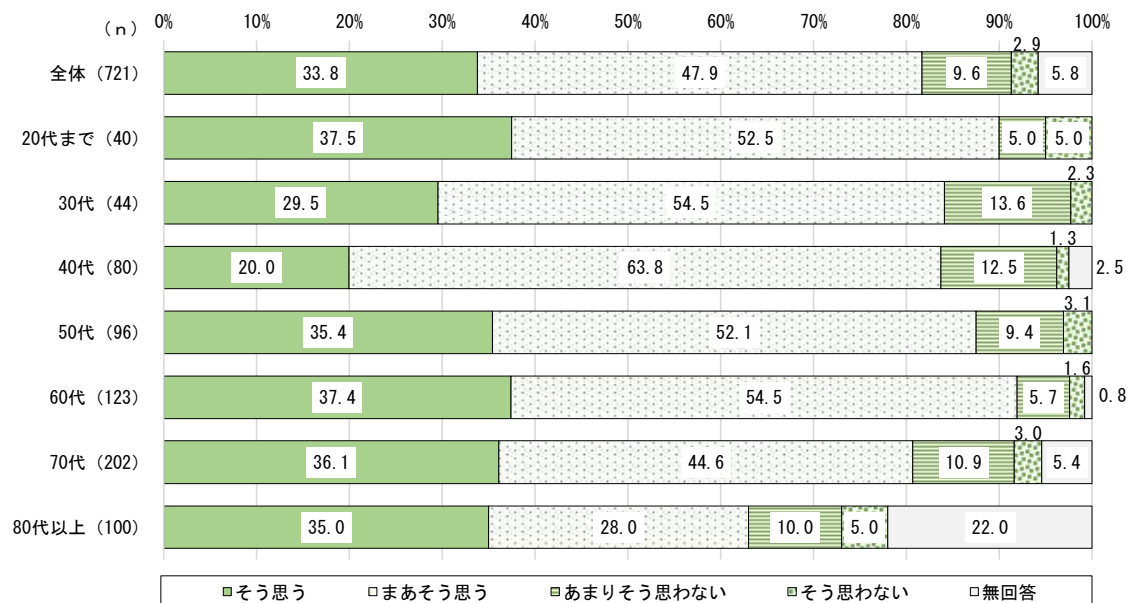


子育ては地域ぐるみで行うものだ

子育ては地域ぐるみで行うものかは、「まあそう思う」が47.9%と最も高く、次いで「そう思う」が33.8%、「あまりそう思わない」が9.6%となっています。

年齢別にみると、<70代>と<80代以上>を除く全ての年齢で「まあそう思う」が5割以上となっています。<80代>は「そう思う」と「まあそう思う」の合計が63.0%と他より低くなっています。

子育ては地域ぐるみで行うものだ／年齢

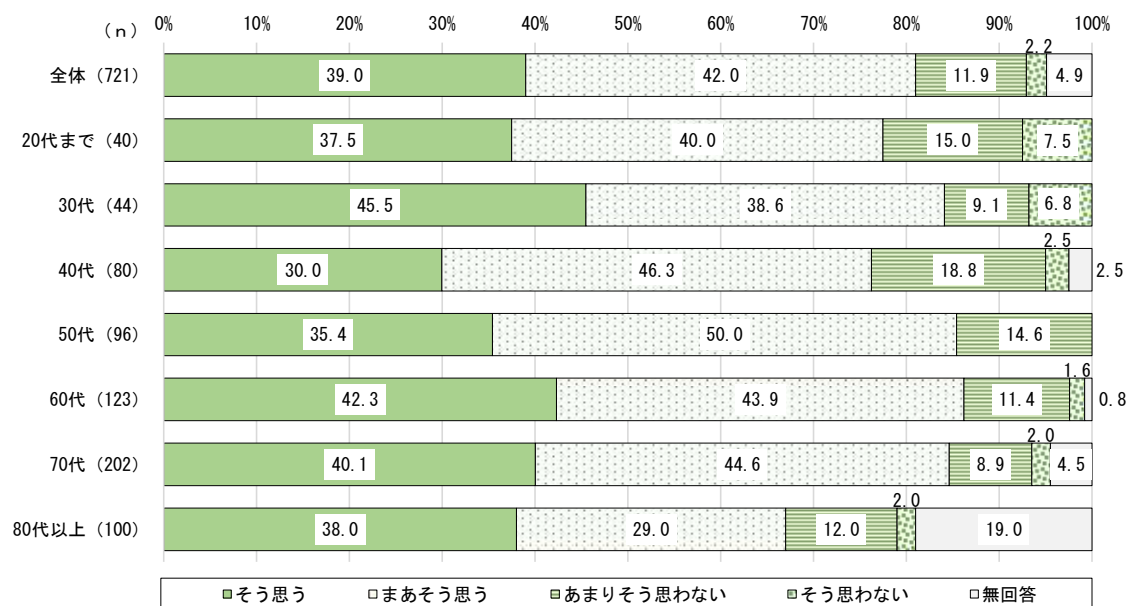


ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う

ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思うは、「まあそう思う」が42.0%と最も高く、次いで「そう思う」が39.0%、「あまりそう思わない」が11.9%となっています。

年齢別にみると、<80代以上>を除く全ての年齢で「そう思う」と「まあそう思う」の合計が7割以上となっています。<40代>は「あまりそう思わない」が18.8%となっています。<20代まで>は「そう思わない」が7.5%、<30代>が6.8%となっており、それ以外の年齢より若干高めとなっています。

ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う／年齢

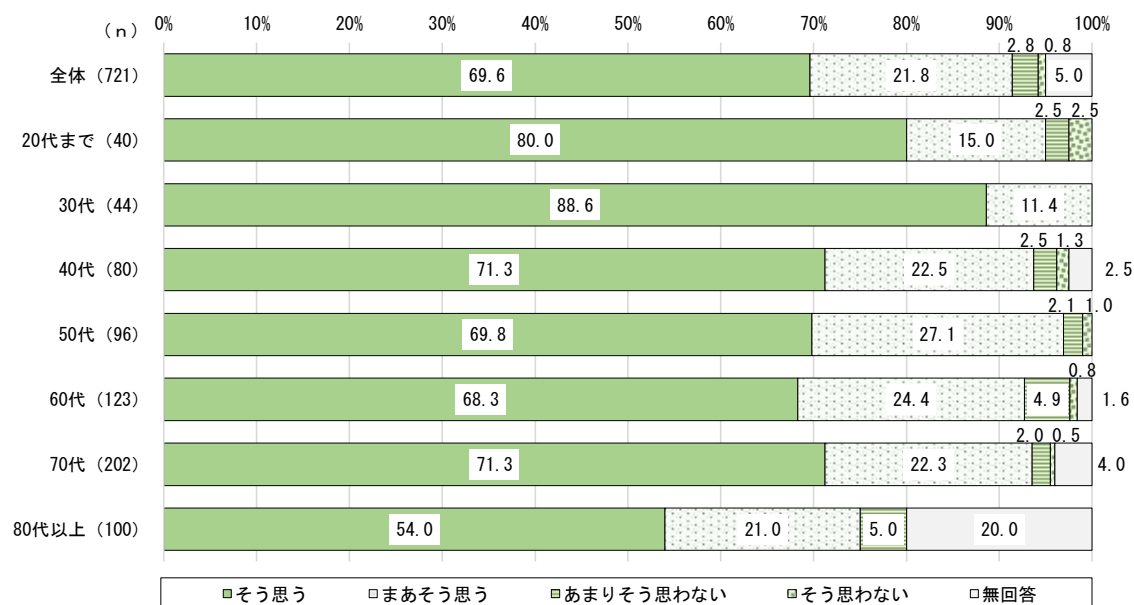


子育ては夫婦共同で行うべきものだ

子育ては夫婦共同で行うべきものだと、「そう思う」が69.6%と最も高く、次いで「まあそう思う」が21.8%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>と<30代>は「そう思う」で8割以上となっています。<60代>と<80代以上>は「あまりそう思わない」で約5%となっています。

子育ては夫婦共同で行うべきものだ／年齢



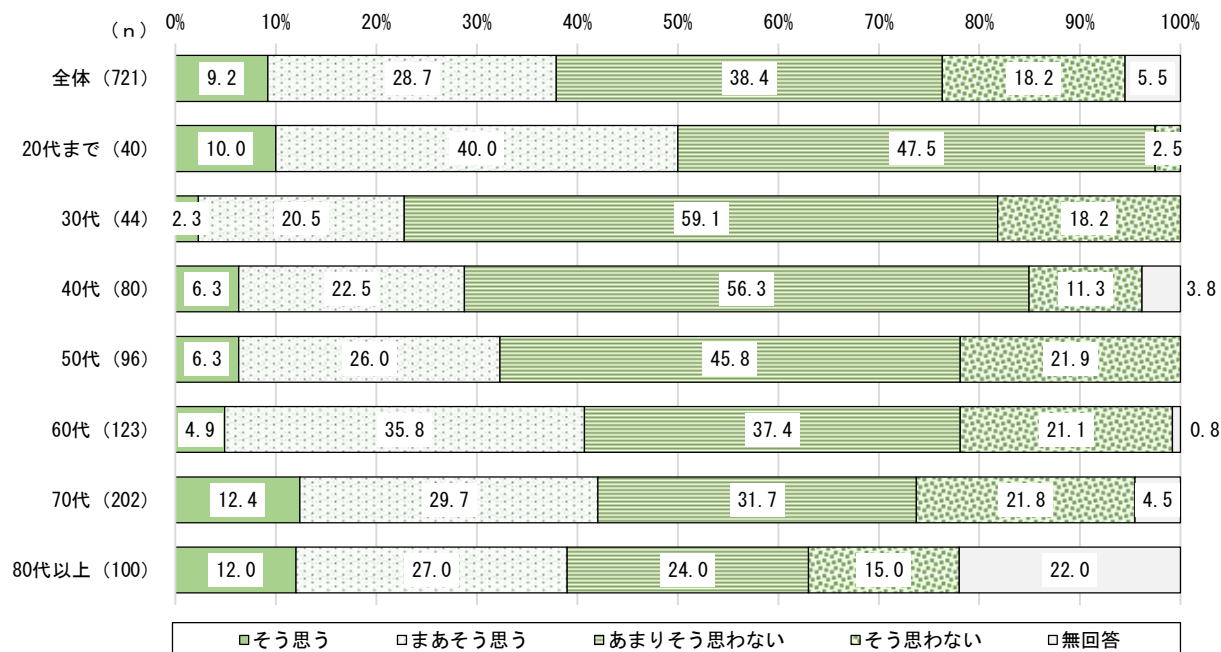


祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない

祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではないは、「あまりそう思わない」が38.4%と最も高く、次いで「まあそう思う」が28.7%、「そう思わない」が18.2%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>と<60代>は「まあそう思う」で3割以上となっています。<30代>と<40代>は「あまりそう思わない」で5割以上となっています。

祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない／年齢

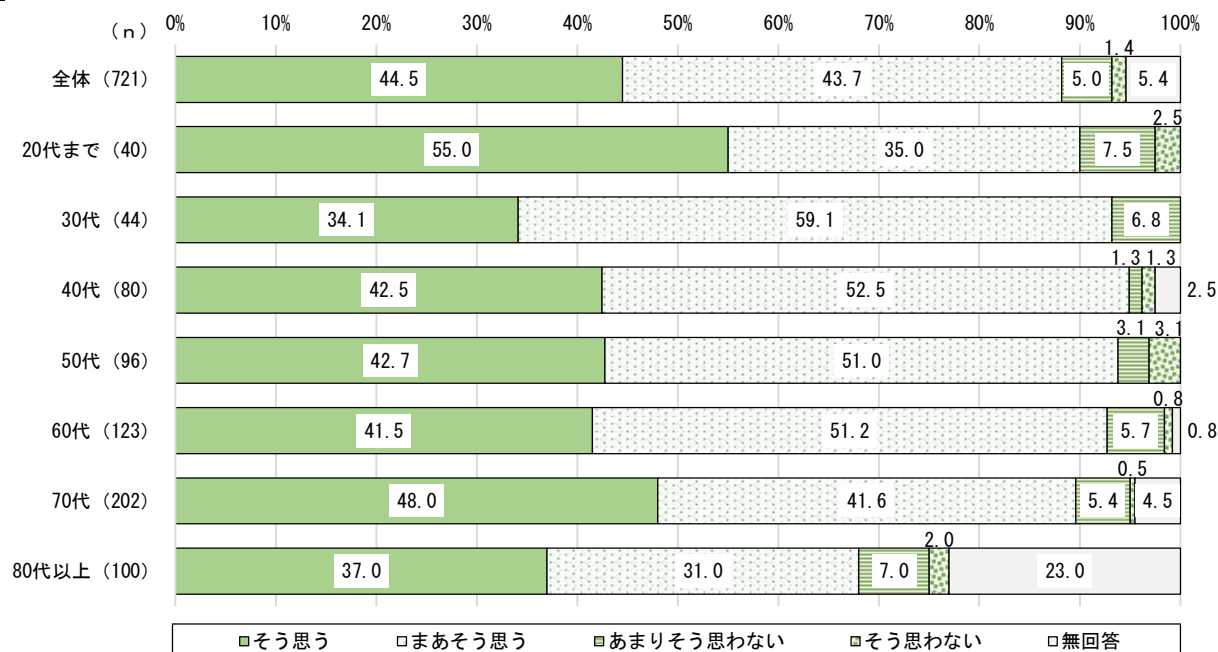


**より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育（性教育を含む）が必要だと思う**

より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育（性教育を含む）が必要だと思うは「**そう思う**」が44.5%と最も高く、次いで「**まあそう思う**」が43.7%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>は「**そう思う**」が55.0%となっています。<30代>と<40代>、<50代>、<60代>は「**まあそう思う**」で5割以上となっています。

**より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育（性教育を含む）が必要だと思う／年齢**

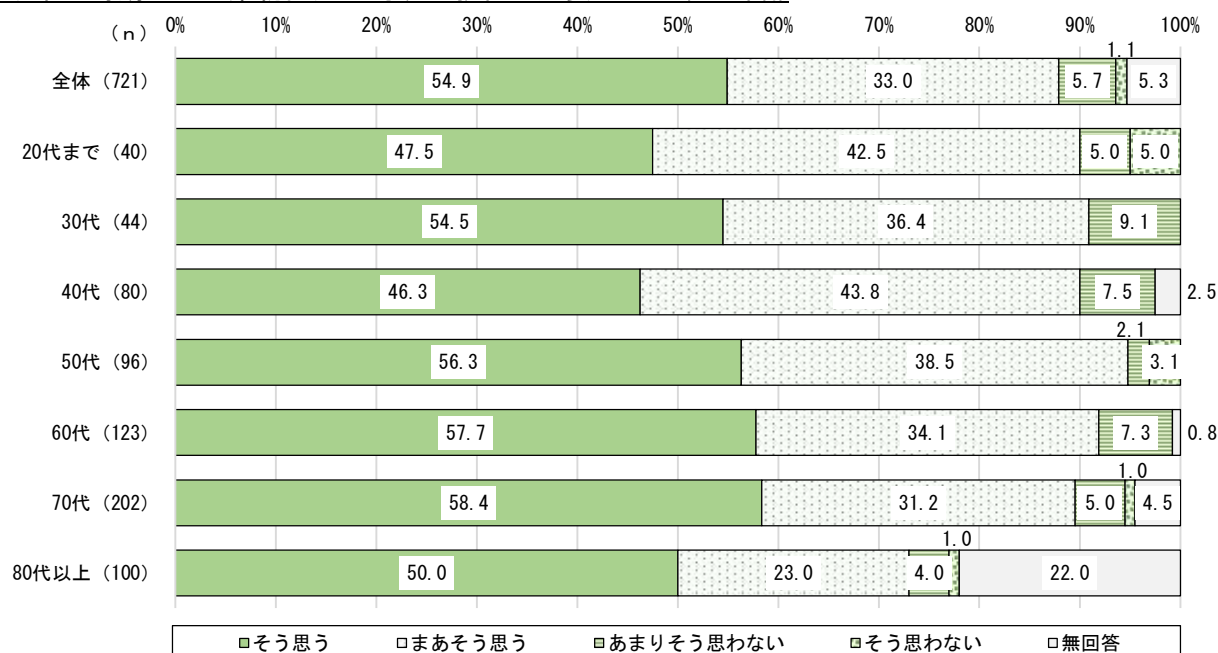


より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う

より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思うは、「そう思う」が54.9%と最も高く、次いで「まあそう思う」が33.0%、「あまりそう思わない」が5.7%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>と<40代>を除く全ての年齢で「そう思う」が5割以上となっています。

より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う／年齢

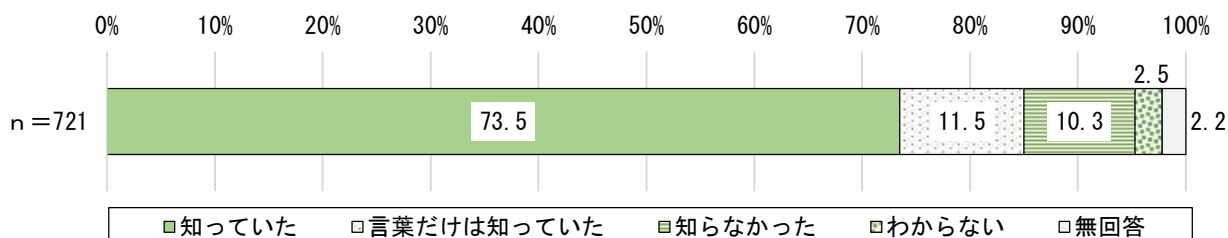


(2) マタニティマーク

問51 あなたは、マタニティマークを知っていましたか。(○は1つだけ)

マタニティマークの認知度は、「知っていた」が73.5%と最も高く、次いで「言葉だけは知っていた」が11.5%、「知らなかった」が10.3%となっています。

マタニティマークの認知度

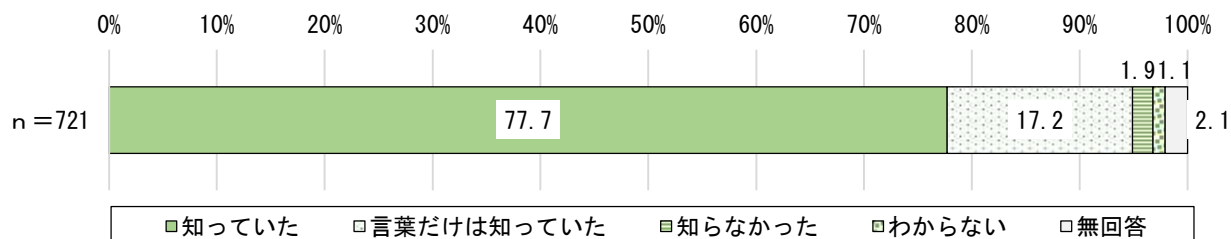


## (3) 発達障害

問52 あなたは、発達障害について知っていましたか。(〇は1つだけ)

発達障害の認知度は、「知っていた」が77.7%と最も高く、次いで「言葉だけは知っていた」が17.2%となっています。

## 発達障害の認知度

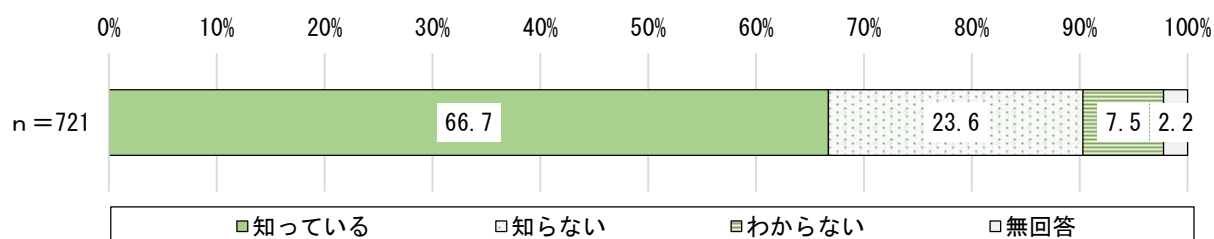


## (4) 虐待

問53 法律では、虐待を受けたと思われる、または疑いのある児童を発見したら、だれでも市町村の役場や児童相談所などに知らせることが義務付けられています。あなたは、そのような義務があることを知っていましたか、それとも知りませんでしたか。(〇は1つだけ)

虐待を発見したら届け出義務があることは、「知っている」が66.7%と最も高く、次いで「知らない」が23.6%、「わからない」が7.5%となっています。

## 虐待を発見したら届け出義務があること



## 11. 健康についての考え方

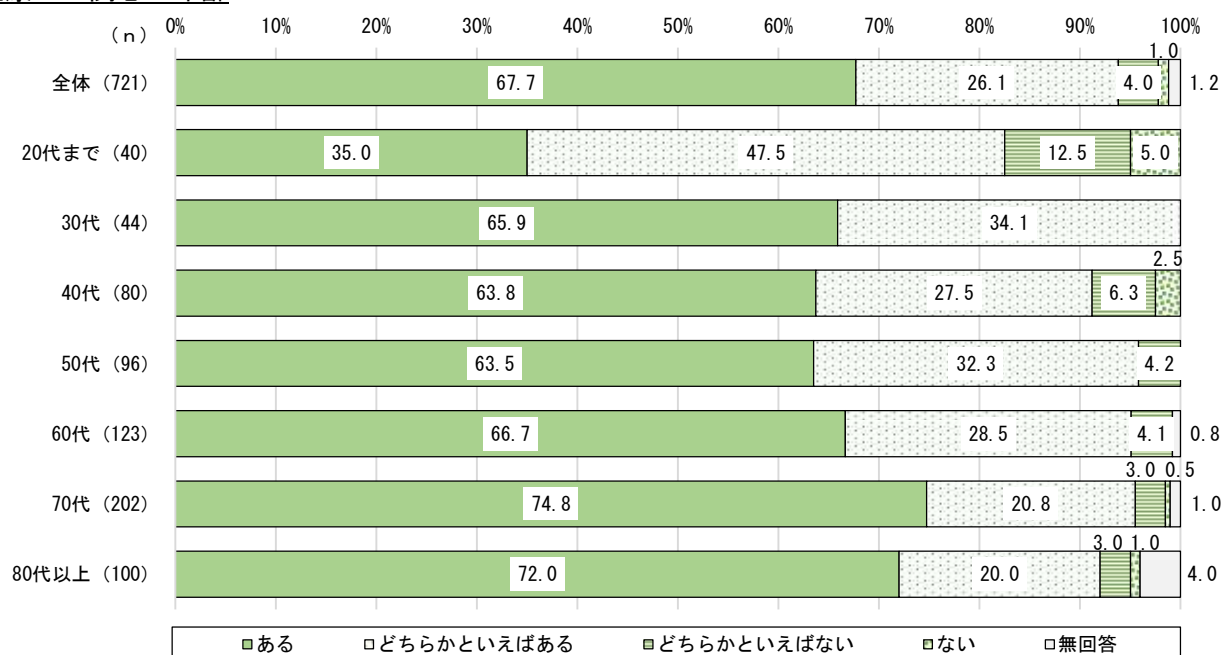
### (1) 健康への関心

問54 自分の健康に関心がありますか。(○は1つだけ)

健康への関心は、「ある」が67.7%と最も高く、次いで「どちらかといえばある」が26.1%、「どちらかといえばない」が4.0%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>を除く全ての年齢で「ある」が6割以上となっています。<20代まで>は「どちらかといえばない」が12.5%となっています。

健康への関心／年齢

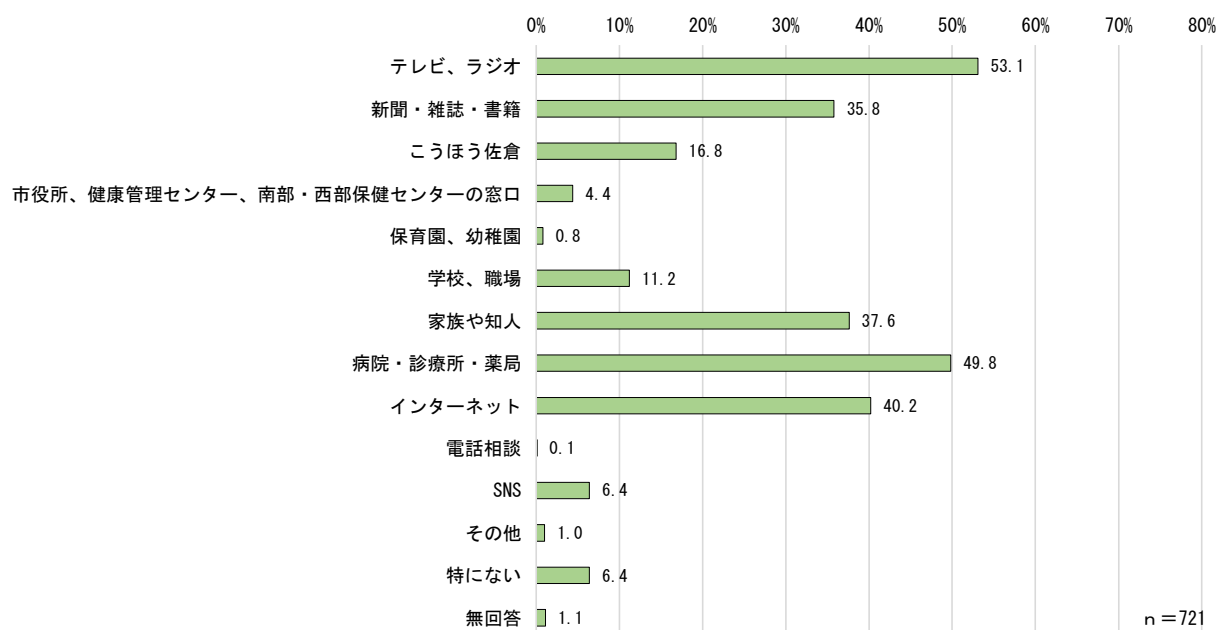


## (2) 健康に関する情報源・相談先

問55 ふだん、どこ(だれ)に、健康に関する情報を聞いたり、相談をしたりしていますか。  
(〇はいくつでも)

健康に関する情報源・相談先は、「テレビ、ラジオ」が53.1%と最も高く、次いで「病院・診療所・薬局」が49.8%、「インターネット」が40.2%となっています。

## 健康に関する情報源・相談先



## 12. あなたの健康

### (1) 過去1ヶ月間の健康状態

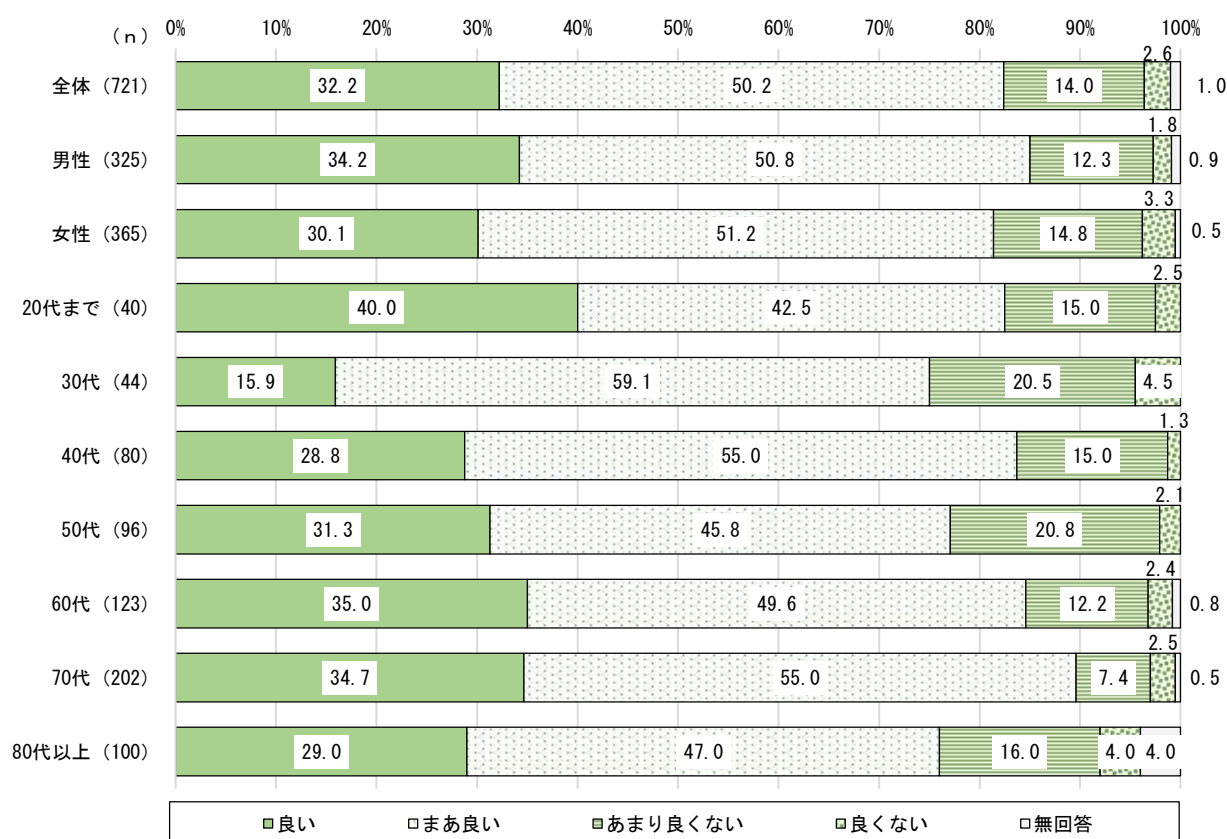
問56 過去1ヶ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。(○は1つだけ)

過去1ヶ月間健康状態は、「まあ良い」が50.2%と最も高く、次いで「良い」が32.2%、「あまり良くない」が14.0%となっています。

性別にみると、＜女性＞の方が「あまり良くない」と「良くない」の合計で若干高くなっています。

年齢別にみると、＜70代＞は「良い」と「まあ良い」の合計が約9割となっています。一方、＜30代＞と＜50代＞、＜80代以上＞では「あまり良くない」と「良くない」の合計が2割以上となっています。

#### 過去1ヶ月間の健康状態／性別、年齢別



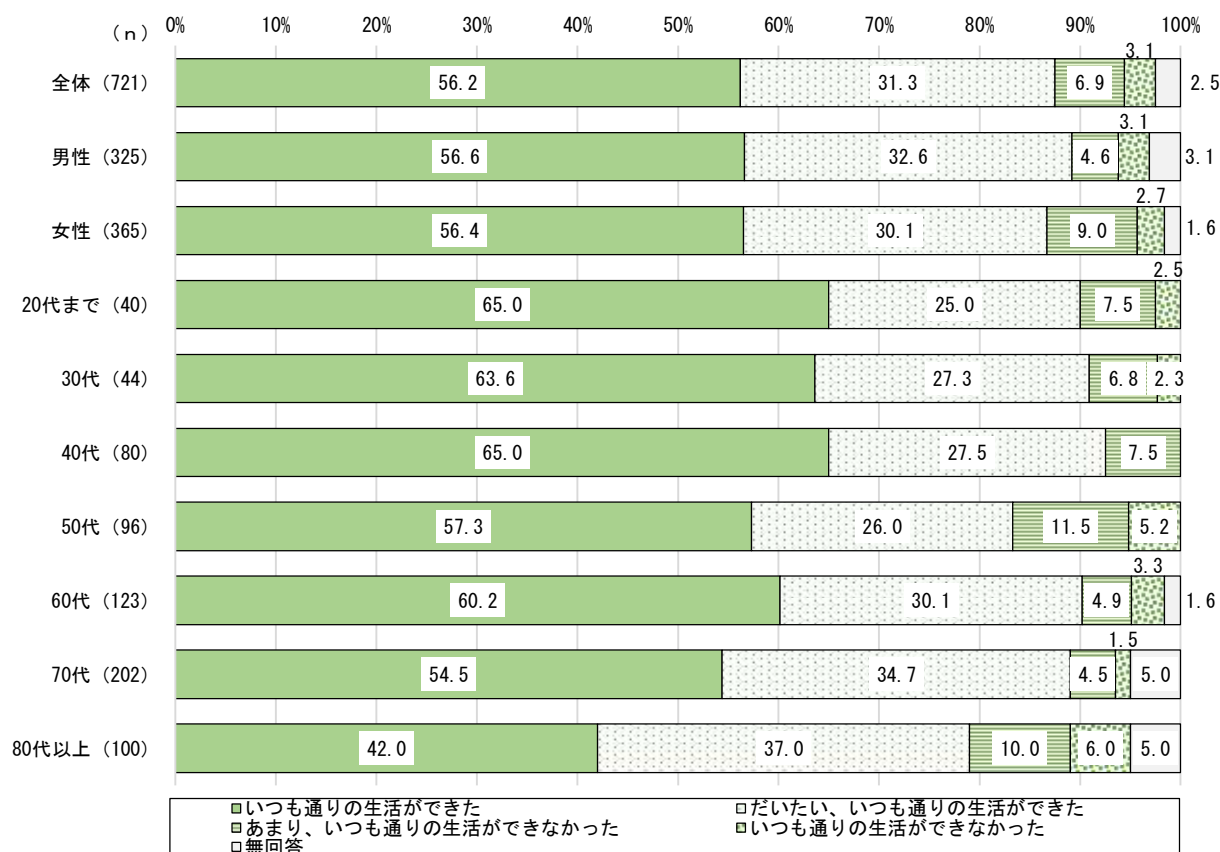
問57 過去1ヶ月間に、日常生活（仕事、学校、家事等の行動や家族や友人との付き合い）が身体的な理由でできないことがありましたか。（○は1つだけ）

過去1ヶ月間日常生活が身体的な理由で妨げられたかは、「いつも通りの生活ができた」が56.2%と最も高く、次いで「だいたい、いつも通りの生活ができた」が31.3%、「あまり、いつも通りの生活ができなかった」が6.9%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「あまり、いつも通りの生活ができなかった」が9.0%と、＜男性＞の4.6%より若干高めになっています。

年齢別にみると、＜40代＞は「いつも通りの生活ができた」と「だいたい、いつも通りの生活ができた」の合計が92.5%と最も高くなっています。一方、＜20代まで＞と＜50代＞、＜80代以上＞では「あまり、いつも通りの生活ができなかった」と「いつも通りの生活ができなかった」の合計が1割以上となっています。

過去1ヶ月間に日常生活が身体的な理由で妨げられたか / 性別、年齢別





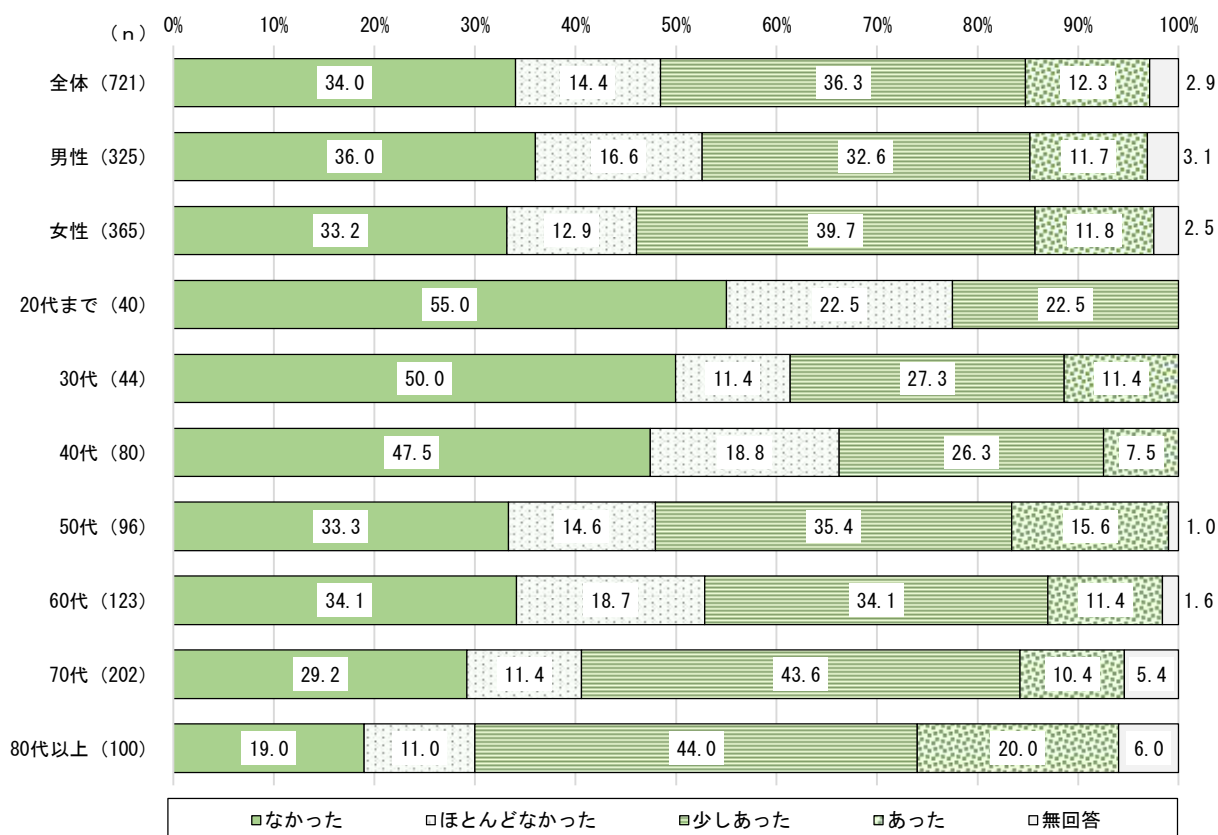
問58 過去1ヶ月間に、身体的な問題（身体の痛みやしびれ等）はどのくらいありましたか。  
 (○は1つだけ)

過去1ヶ月間身体的な問題があったかは、「少しあった」が36.3%と最も高く、次いで「なかった」が34.0%、「ほとんどなかった」が14.4%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「少しあった」が39.7%と、＜男性＞の32.6%より若干高くなっています。

年齢別にみると、＜50代＞と＜70代＞、＜80代以上＞では「少しあった」と「あった」の合計が5割以上となっています。一方、＜20代まで＞は「なかった」と「ほとんどなかった」の合計が7割以上となっています。

過去1ヶ月間に身体的な問題があったか／性別、年齢別



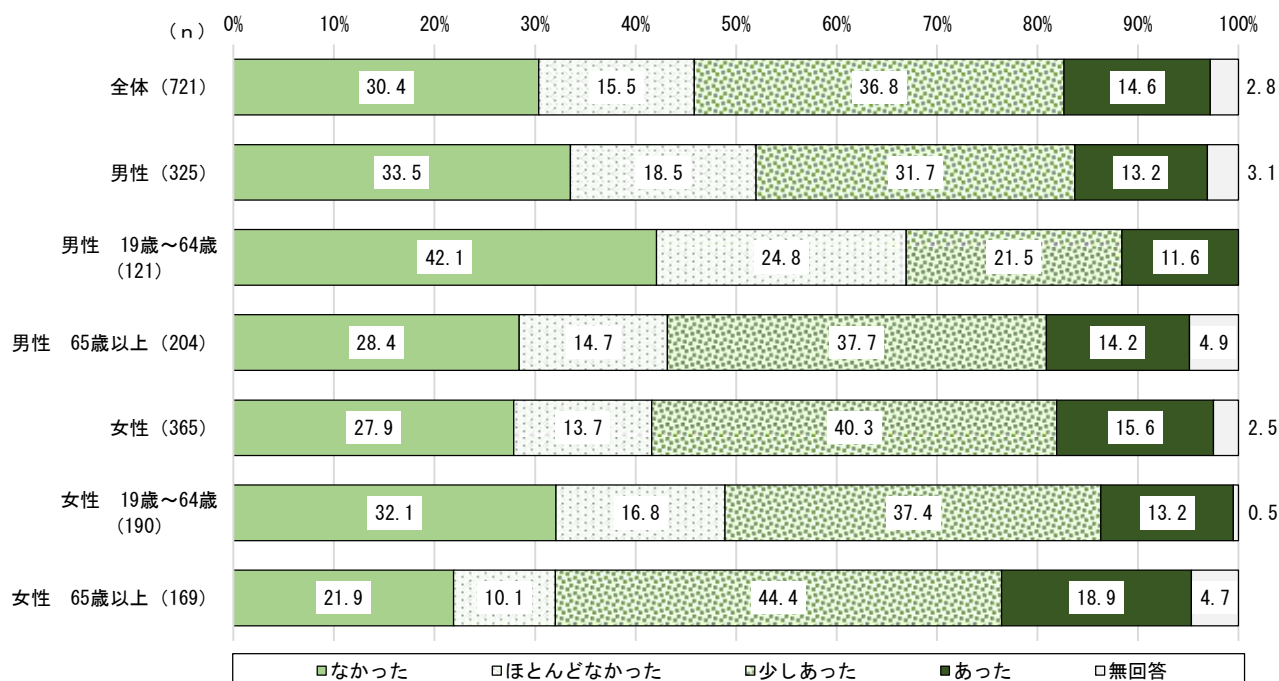
問59 過去1ヶ月間に、足腰の痛みはどのくらいありましたか。(○は1つだけ)

過去1ヶ月間に足腰の痛みがあったかは、「少しあった」が36.8%と最も高く、次いで「なかった」が30.4%、「ほとんどなかった」が15.5%となっています。

性別にみると、＜女性＞は「少しあった」が40.3%と、＜男性＞の31.7%より高くなっています。

年齢別にみると、＜男性 19歳～64歳＞は「なかった」が42.1%となっています。＜女性 65歳以上＞は「少しあった」が44.4%、「あった」が18.9%で他の年齢より高くなっています。

過去1ヶ月間に足腰の痛みがあったか／性別、性・年齢



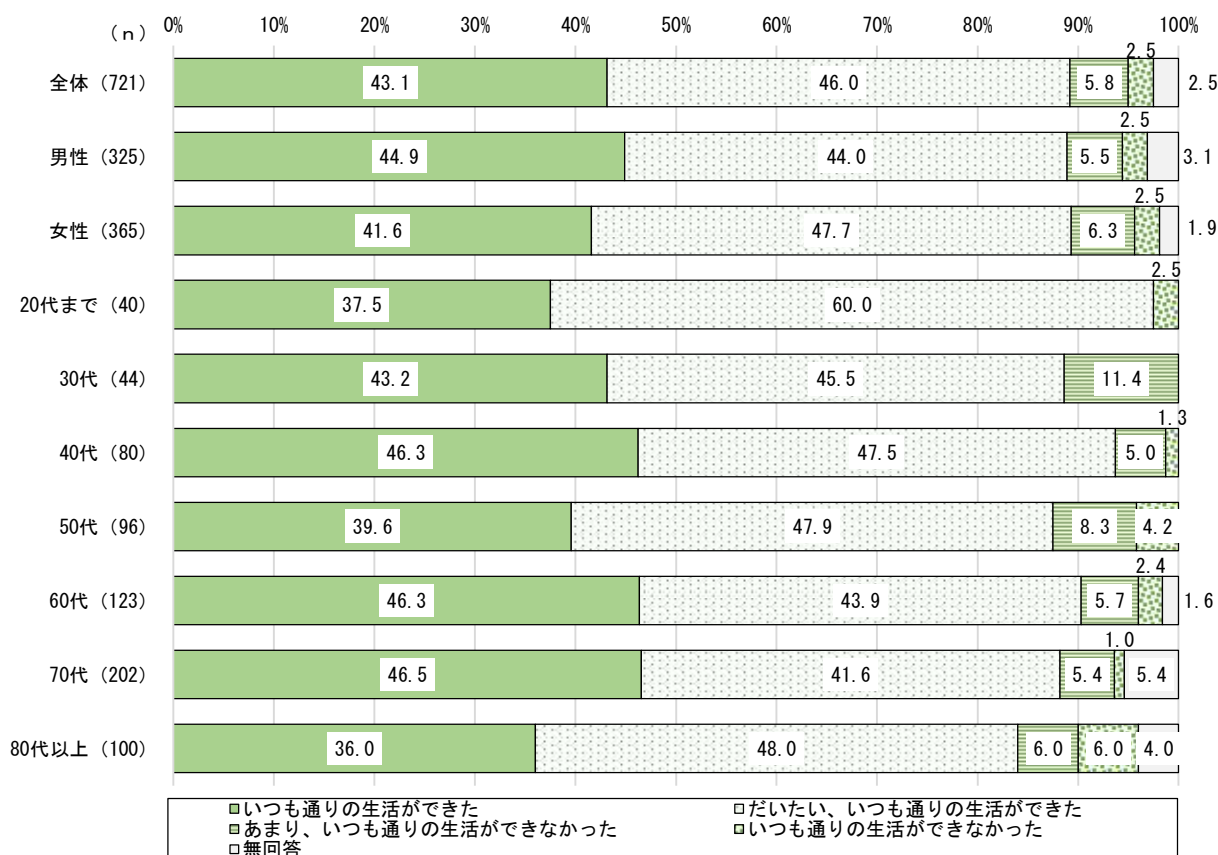
問60 過去1ヶ月間に、日常生活（仕事、学校、家事等の行動や家族や友人との付き合い）が、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたりする）でできないことがありましたか。（○は1つだけ）

過去1ヶ月間に日常生活が心理的な理由で妨げられたかは、「だいたい、いつも通りの生活ができた」が46.0%と最も高く、次いで「いつも通りの生活ができた」が43.1%、「あまり、いつも通りの生活ができなかった」が5.8%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、<20代まで>と<40代>、<60代>では「いつも通りの生活ができた」と「だいたい、いつも通りの生活ができた」の合計が9割以上となっています。一方、<30代>と<50代>、<80代以上>では「あまり、いつも通りの生活ができなかった」と「いつも通りの生活ができなかった」の合計が1割以上となっています。

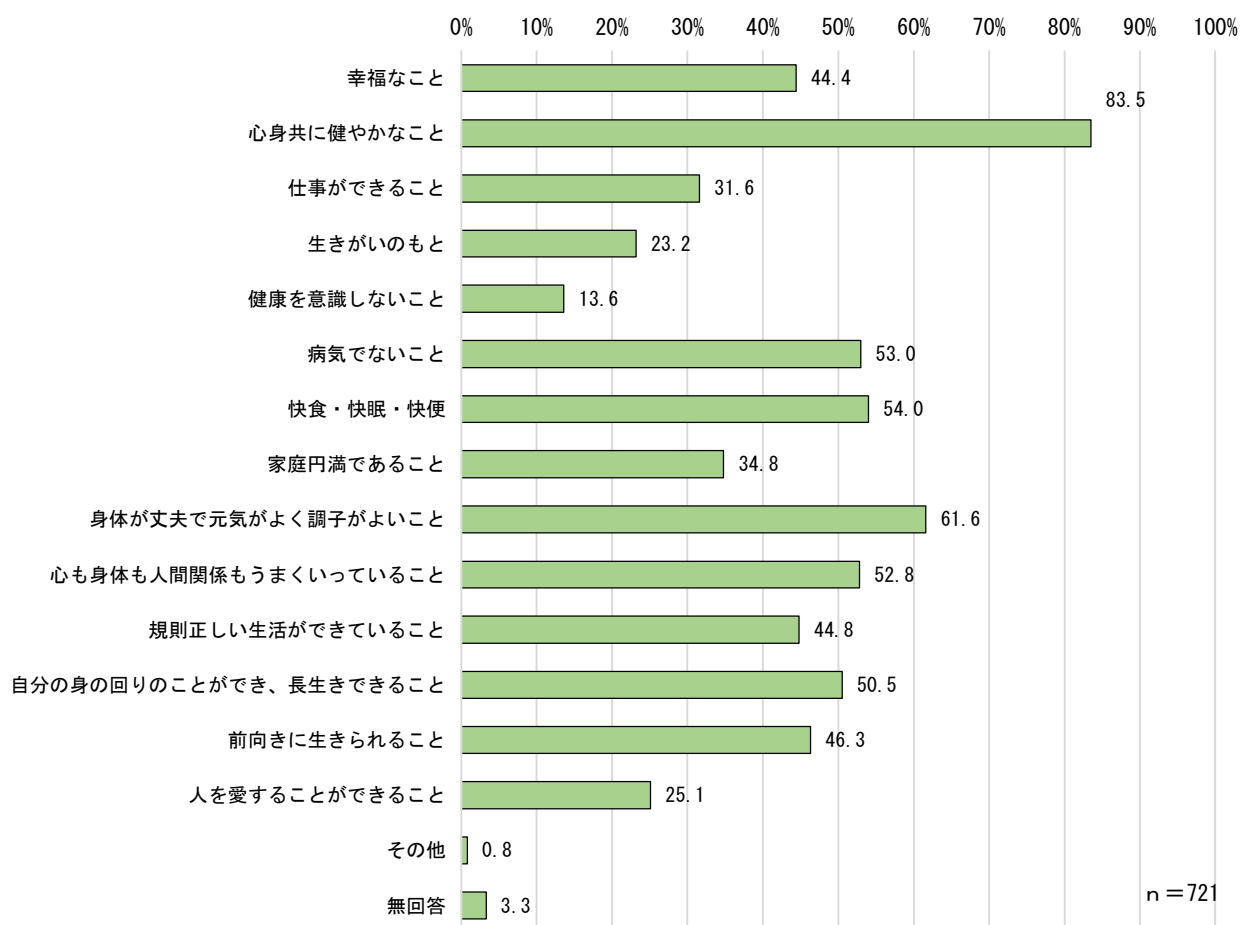
過去1ヶ月間に日常生活が心理的な理由で妨げられたか／性別、年齢別



## (2) 健康とは

問61 あなたは「健康とはなんですか」と聞かれたらどのように答えますか。あなたのお考えに合うものをいくつでも結構ですから選んで、その番号に○をつけてください。  
(○はいくつでも)

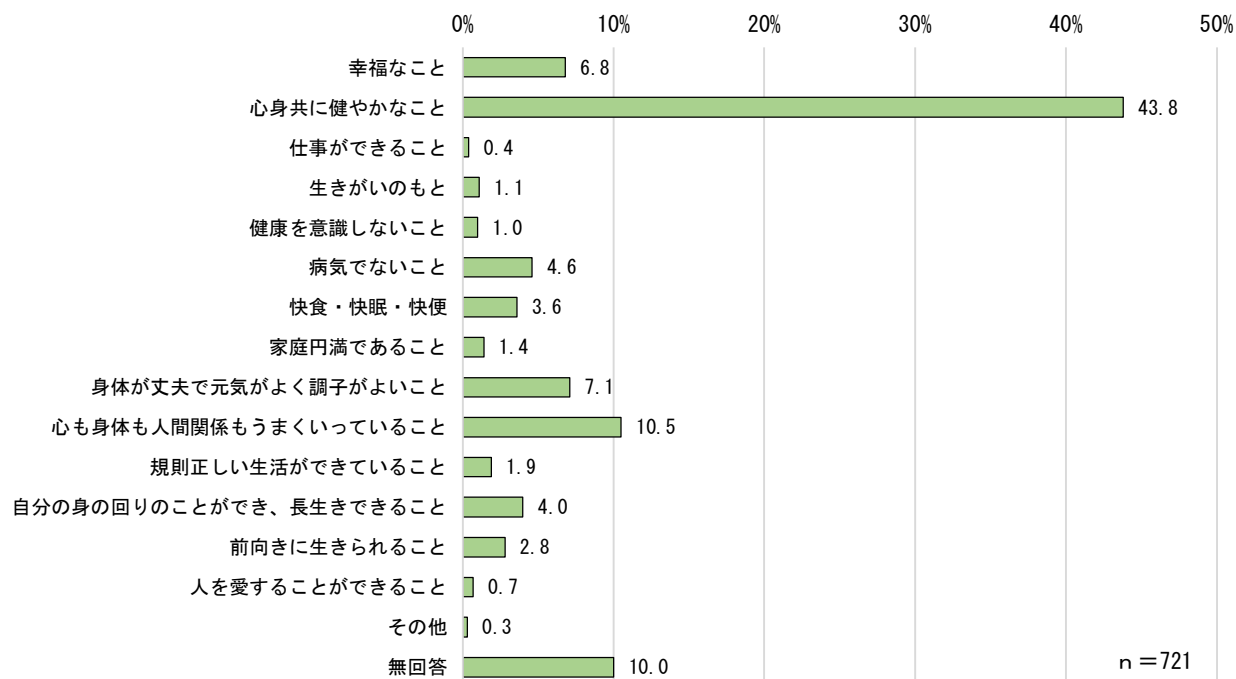
健康についての考え方は、「心身共に健やかなこと」が83.5%と最も高く、次いで「身体が丈夫で元気がよく調子がよいこと」が61.6%、「快食・快眠・快便」が54.0%となっています。

健康についての考え方

付問61-1 問61で選んだ中からあなたの考えに最も合うものを1つだけ選び、その番号をご記入ください。

問61の中で健康についての考え方で最も合うものは、「心身共に健やかなこと」が43.8%と最も高く、次いで「心も身体も人間関係もうまくいっていること」が10.5%、「身体が丈夫で元気がよく調子がよいこと」が7.1%となっています。

**健康についての考え方で最も合うもの**



### 13. 生きがい、まちづくり

#### (1) 生きがい

問62 あなたは、生きがいを感じていますか。(〇は1つだけ)

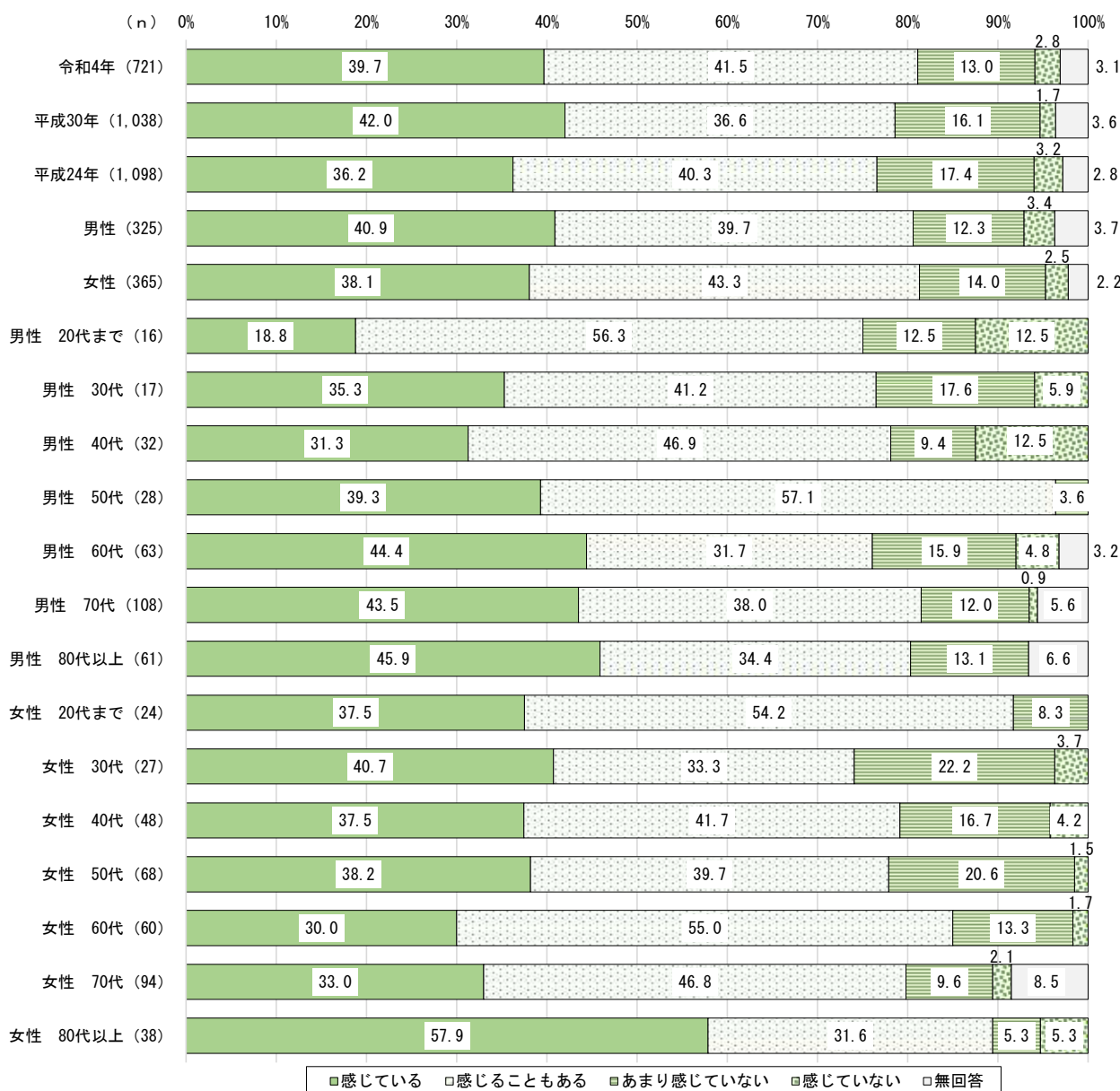
生きがいを「感じている」は39.7%、「感じることもある」は41.5%となっています。

平成30年調査結果と比較すると、「感じている」が2.3%減少しています。「あまり感じていない」は3.1%減少しています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、＜女性 80代以上＞は「感じている」が57.9%となっています。＜男性 20代まで＞と＜男性 50代＞、＜女性 20代まで＞、＜女性 60代＞は「感じることもある」で5割以上となっています。＜女性 30代＞と＜女性 50代＞は「あまり感じていない」で2割以上となっています。

生きがい／前回、性別、性・年齢



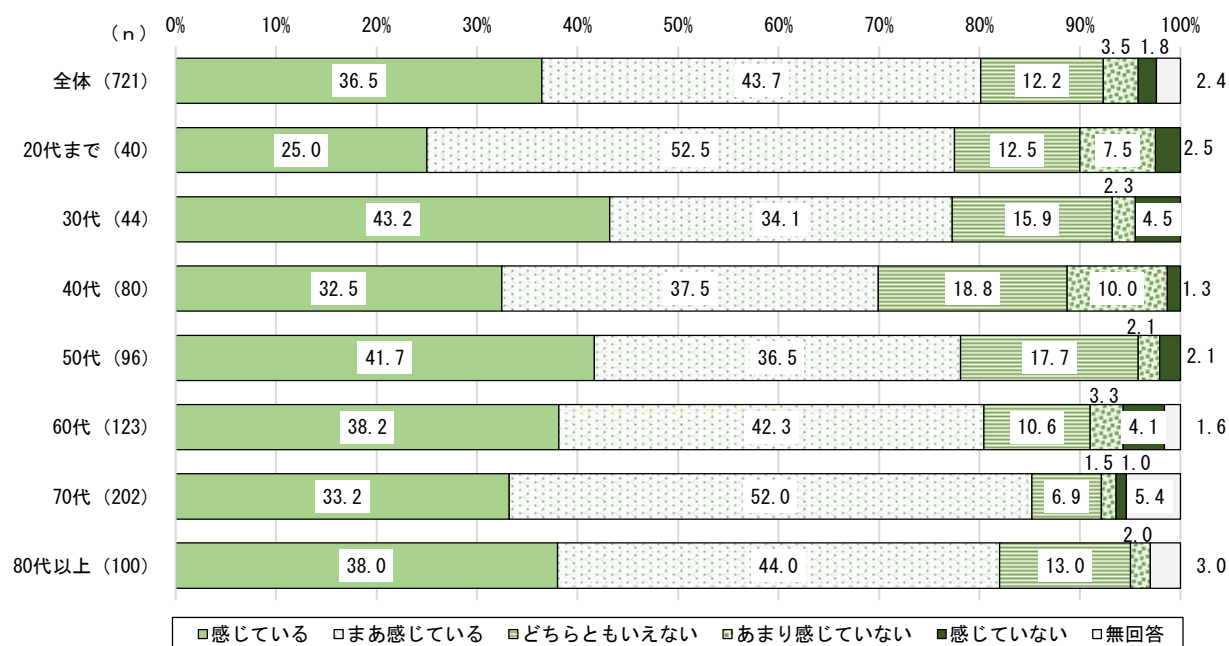
第2章 調査結果の詳細

問63 あなたは、幸福と感じていますか。(○は1つだけ)

幸福感を「まあ感じている」が43.7%と最も高く、次いで「感じている」が36.5%、「どちらともいえない」が12.2%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>と<70代>は「まあ感じている」で5割以上となっています。<40代>は「あまり感じていない」が10.0%となっています。

幸福感／年齢

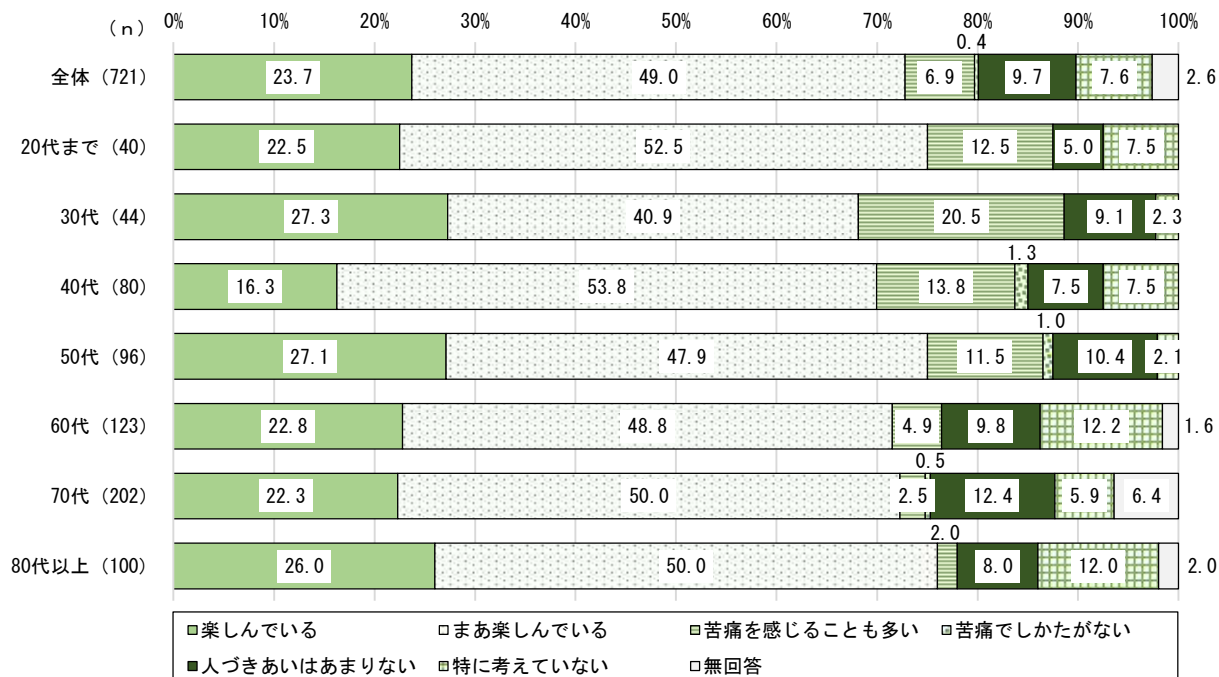


問64 あなたは、職場や家族、近所との人づきあいを楽しんでいますか。(○は1つだけ)

職場や家族・近所との人づきあいは、「まあ楽しんでいる」が49.0%と最も高く、次いで「楽しんでいる」が23.7%、「人づきあいはあまりない」が9.7%となっています。

年齢別にみると、<20代まで>と<40代>、<70代>、<80代以上>は「まあ楽しんでいる」で5割以上となっています。<30代>は「苦痛を感じることも多い」が20.5%となっています。<50代>と<70代>は「人づきあいはあまりない」で1割以上となっています。

職場や家族・近所との人づきあい／年齢





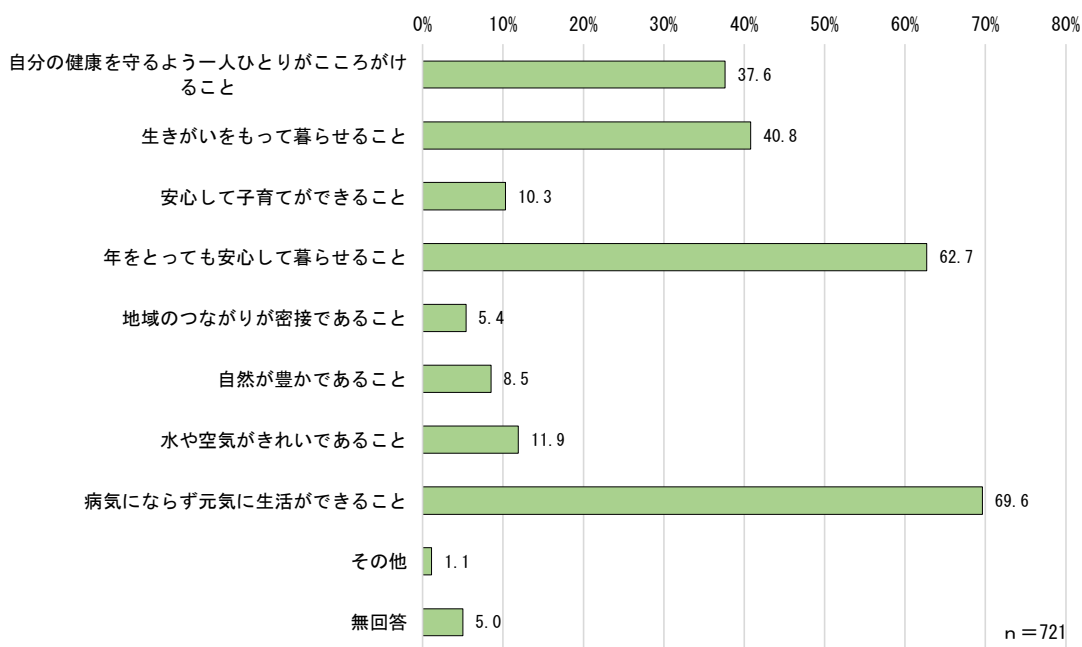
(2) 健やかに暮らすために特に重要だと思うこと

問65 次のうち、あなた自身にとって、健やかに暮らすために特に重要だと思うことは何ですか。  
(〇は3つまで)

健やかに過ごすために重要なことは、「病気にならず元気に生活ができること」が69.6%と最も高く、次いで「年をとっても安心して暮らせること」が62.7%、「生きがいをもって暮らせること」が40.8%となっています。

性別にみると、＜男性＞は「病気にならず元気に生活ができること」が72.0%となっています。年齢別にみると、＜20代まで＞は「生きがいをもって暮らせること」、「病気にならず元気に生活ができること」がともに50.0%、＜30代＞以降は「病気にならず元気に生活ができること」が最も高くなっています。

健やかに過ごすために重要なこと／性別、年齢



(n)	ひとりの健康を守るためのこと	生きがいをもって暮らせること	安心して子育てができること	年をとっても安心して暮らせること	地域のつながりが密接であること	自然が豊かであること	水や空気がきれいであること	病気にならず元気に生活ができること	その他	無回答
全体 (721)	37.6	40.8	10.3	62.7	5.4	8.5	11.9	69.6	1.1	5.0
男性 (325)	36.3	41.2	6.5	61.2	4.9	8.9	10.8	72.0	0.9	5.5
女性 (365)	38.4	40.0	14.2	63.0	5.5	8.5	12.3	68.2	1.1	4.4
20代まで (40)	35.0	50.0	30.0	35.0	0.0	10.0	17.5	50.0	0.0	0.0
30代 (44)	25.0	43.2	43.2	36.4	4.5	4.5	22.7	75.0	0.0	4.5
40代 (80)	28.8	43.8	23.8	46.3	5.0	8.8	15.0	63.8	2.5	1.3
50代 (96)	25.0	45.8	13.5	68.8	5.2	9.4	13.5	72.9	2.1	1.0
60代 (123)	37.4	43.9	4.9	68.3	1.6	8.1	13.8	76.4	0.8	2.4
70代 (202)	44.1	35.1	1.5	70.3	7.4	8.4	8.4	73.3	1.0	8.9
80代以上 (100)	50.0	35.0	1.0	67.0	8.0	11.0	3.0	63.0	0.0	9.0